



2023年度

B&G財団 活動実績 報告書

B&G
公益財団法人
B&G財団

地域活性化と 地方創生

B&G財団は次のステージへ進みます

2023年、B&G財団は設立50周年を迎え、ネクストステージとして「地域活性化と地方創生」を掲げた中長期計画「After2023」を策定。新たに5つのミッションを柱に、新時代に対応すべく、自治体と共に社会課題の解決に向けて事業を推進していきます。

After2023ビジョン

地域とともに、地域の発展のために。

5 Mission

5つの柱で“新たな時代”へ対応

- 1 子ども・子育て支援
- 2 防災と災害復興
- 3 海と環境
- 4 健康と生きがいづくり
- 5 コミュニティ再生とまちづくり

B&G財団 ロードマップ



B&G財団は、地方自治体をパートナーとして、これからも地域の発展に関わる新たな事業を展開していきます。

事業編

1. 社会的課題の解決と地域の健全な発展に資する事業の推進	4
(1) 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業	4
(2) 「子ども第三の居場所」開設と運営支援	6
① 「子ども第三の居場所」開設費支援	7
② 「子ども第三の居場所」運営費支援	8
③ 研修会の開催	9
④ 「子ども第三の居場所」サミット	11
⑤ 「子ども第三の居場所」利用児童を対象とした各種プログラム提供	12
(3) ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用	17
(4) 「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業	20
2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備事業	25
(1) 修繕助成金の交付	25
① 2023年度の修繕助成	25
② 2024年度修繕助成の決定	25
(2) 新規海洋クラブ・サポーター登録	27
① 新規海洋クラブ・サポーター登録および舟艇配備	27
② 2022年度登録海洋クラブ「舟艇器材配備式」の実施	30
(3) 活動器材の配備	32
3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進	33
(1) 学習と体験活動による子育て支援「BG塾」	33
① 2023年度「BG塾」実施一覧	34
② 2023年度「BG塾」表彰センター	34
(2) 次世代型海洋センター艇庫を活用した地域の魅力創生	35
① 地域の水と緑を活かしたハイブリッド型自然体験機会の提供	35
② 「いきいきふるさと鯉のぼり祭り」	35
③ 「リニューアルオープン式典」	36
④ 「橘ふれあいパークフェス2023」	37
(3) 熱中症対策事業	38
① 配備式の実施	38
② 設置した海洋センターの満足度	39
(4) 障害者スポーツ推進プロジェクトの実施	39
① 実施センター	40
② 主な事業内容	40
(5) 海洋センターの評価と表彰	41
(6) 海洋クラブの評価と表彰	45
(7) その他の支援事業	46
① マリンスポーツ技能認定	46
② 会長賞・賞状等の交付	46
③ 誰もが参加できるレクリエーション大会「B&Gチャレンジ」	47
④ 2023年度プールカヌー・SUPタイムトライアル	47

4. 誰もが海に親しめる事業の推進	49
(1) 学校・地域への「海の日」と「海の安全」教育を推進する事業の全国開催	49
①学校プール・教室等での安全教室	49
②教員を対象とした研修会の開催	49
③水辺の安全学習アプリによる安全教育	49
④全国の海洋センター・海洋クラブでの開催	50
⑤財団事業等での実施	50
⑥地域住民への安全啓発	50
(2) 海の日に関するイベント「砂ASOBeach」の開催	51
(3) 海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動の実施	52
(4) 海洋ごみ専用ごみ箱「B&G拾い箱」の設置	54
(5) 体験格差解消事業の実施	55
①海洋センター・海洋クラブでの体験格差解消事業	55
②寄付金等を活用した体験格差解消事業	56
5. 指導者の養成と活用	59
(1) 海洋教育と地域の発展を担う人材の養成	59
①センター・インストラクターの養成	59
②大学等と連携した人材育成	61
(2) B&G全国指導者会の活動促進	62
①B&G全国指導者会「正副会長会議」の開催	64
②B&G全国指導者会「ブロック責任者会議」の開催	64
③全国10ブロックでの「ブロック指導員研修会」の開催	65
④地域指導者会の活性化支援	66
⑤地域指導者会と連携した学生等ボランティアの養成	66
⑥2023年度「B&G指導員研修会」の開催	67
6. B&G全国会議の開催	69
(1) B&G全国会議等による連携強化	69
①B&G全国サミット	69
②B&G全国教育長会議	73
(2) 「海洋センターブロック連絡協議会」の活性化に向けた会議の開催	75
①ブロック連絡協議会総会	75
②ブロック幹事会議	77
(3) 自治体職員のB&G財団への派遣研修	78
7. 調査研究等の活動	79
(1) 事業成果の検証	79
(2) 時代に即した新たな事業の創出に関する調査	79
①「海」「海洋センター」における“心の健康”促進事業	79
②アントレプレナーシップ教育プログラム	80
(3) 先進的海洋センターの整備に関する調査	82
(4) 海洋センターサテライト拠点整備事業	82

8. 広報活動	83
(1) 広報コンテスト「アナビバグランプリ」の開催	83
(2) マスメディアによる広報	86
(3) SNS等を活用した情報発信	86
(4) 地域情報の共有と発信	86
(5) その他の活動	86
①海洋センター・クラブへの情報提供	86
②オリジナルグッズの制作・販売	87
9. 災害時支援	88

資料編

海洋センターの運営・活動状況	90
1. 2023年度海洋センターの活動状況	90
2. 海洋センター評価	90
2023年度 海洋センター評価基準	91
(1) 2023年度評価	92
(2) 海洋センター年間評価5カ年の推移	92
海洋クラブの運営・活動状況	93
1. 2023年度 海洋クラブの活動状況	93
(1) 海洋クラブ数	93
(2) 海洋クラブ活動人数	94
(3) 海洋クラブ活動日数	95
2. 海洋クラブ評価	96
2023年度海洋クラブ評価基準	97
2023年度「海洋クラブ評価」	98
参考資料	99
アンケート調査	99
①海の日アンケート	99
②山の日アンケート	103
B&G財団役員等一覧 2024年3月31日現在	107
2023年度修繕一覧	108
2023年度 活動器材追加再配備申請一覧 (A・B区分)	110
2023年度 活動器材追加再配備申請一覧 (C区分)	111
2023年度 活動器材追加再配備申請一覧 (D区分)	112

1

社会的課題の解決と地域の健全な発展に資する事業の推進

財団設立以来、艇庫・プール・体育館からなる「B&G海洋センター」を拠点に海洋センター所在自治体と連携し、青少年の健全育成、地域住民の健康づくりを推進してきた。しかしながら、近年は、海洋センターの活性化だけでなく、海洋センター所在自治体の活性化と地域が抱える社会課題の解決に向け、経済的困難や不登校などの様々な困難を抱える子どもの支援を目的とした「子ども第三の居場所」事業、「災害大国 日本」における迅速で効果的な災害復興に資することを目的とした「防災拠点設置事業」、地域の偉人を学び、地元の郷土愛を育むことを目的とした「偉人マンガの製作と活用事業」を実施するなど、地域の発展に資する事業を展開している。

(1) 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業 ■■■■

宿泊機能付加による過疎地域海洋センターの交流拠点化 大分県中津市（日本財団助成事業）

本事業は、B&G財団と海洋センター所在自治体が連携し、少子高齢化による人口減少等、社会問題が山積する地方自治体において、海洋センターと地域の特性を組み合わせた特色ある取り組みを行うことで課題解決の糸口とし、地域の活性化を図ることを目的に2015年度から開始。従来にはない新たな取り組みを行い海洋センターに新たな付加価値を生み出す自治体を「モデル自治体」と位置づけ、その取り組み内容や手法を広く発信することで、同様に地域コミュニティの衰退に苦慮する他の海洋センター所在自治体への波及も目指している。

事業開始年度 2022年度（2年目）※大分県中津市耶馬溪海洋センター対象

目的 宿泊機能付加による過疎地域海洋センターの交流拠点化

目標 宿泊機能が付加された海洋センターを簡易宿泊施設として運営を行うとともに、海洋センターを拠点としたイベントを行い、合宿に訪れた学生や観光客、地域住民と子どもたちが交流することで、過疎地域の活性化を図り、過疎地域にある海洋センターに対してこの取り組みを周知する。

- ・海洋センター利用者数50%向上
- ・学生主催の地域住民との交流イベント動員延べ2,000人
- ・利用小学校数5校
- ・年間宿泊人数1,000人

実績 海洋センター利用者数51%向上 ※コロナ禍前2018年度比

- ・学生主催の地域住民との交流イベント動員延べ1,791人
- ・利用小学校数7校
- ・年間宿泊人数1,080人
- ・市外利用者数138%増加（関係人口増加の実績）
- ・センター視察に訪れた自治体数6自治体（過疎地域への周知実績）

◆宿泊できる海洋センターに生まれ変わった「やばすぽ」

初年度（2022年度）の施設改修および備品配備によって、全国で初めて宿泊機能を付加したB&G海洋センターとなった通称「やばすぽ」において、これまで日帰りで実施していた事業を宿泊型に変更したほか、耶馬溪アクアパークなど地域の観光資源を活かした宿泊型事業を新しく創出するなど、積極的な事業の実施と活用を行った。その結果、地域住民の多世代間交流が活発化し、市外利用者数が大幅に増加するなど、地域の新たな交流拠点となり、関係人口の拡大に寄与した。

◆2023年度の主な実施事業

①小学生・親子を対象とした宿泊体験事業

内 容：耶馬溪地区内外・中津市内小学校5校の児童（小学3～6年生）を対象に通学合宿や宿泊型BG塾を、また中津市内外在住の親子を対象にマリンスポーツなどを組み込んだ親子キャンプを実施。

②軽スポーツ大会

内 容：耶馬溪地区在住の子どもからシニア世代までを対象に、三世代が一緒になって地区別対抗戦などを実施。

③青年交流会、YABAKEI YOGA STUDIO

内 容：中津市内の青年を対象に、スポーツなどの各種イベントを通じた交流会を実施。



新設した食堂



シニアスタッフと大学生スタッフの食事準備風景



親子宿泊も可能となった



三世代が一緒になって行った軽スポーツ大会

(2) 「子ども第三の居場所」開設と運営支援（日本財団助成事業）

本事業は、様々な困難な状況にある子どもたちの新たな居場所や子育て支援の拠点として「子ども第三の居場所」の設置を支援するもの。拠点では、子どもたちの自立する力を育むため、生活習慣から学習指導、食事提供など総合的なサポートを行っている。

事業開始年度 2019年度（5年目）

目的 近年、家庭の抱える困難が複雑・深刻化し、地域の繋がりも希薄になる中で、安心して過ごせる居場所がなく、孤立してしまう子どもも少なくない。そのような中、子どもが安心・安全に過ごすことができる「子ども第三の居場所」を全国に設置し、学習支援・生活支援ほか、海洋センターのノウハウを活かした多様な体験等を提供することにより、子どもの将来の自立に必要な力を育むことを目的とする。

目標 各拠点の行政・団体・地域住民等による連携体制の構築、支援対象者へのアウトリーチなど開設に係る支援を行うとともに、拠点における学習・生活支援プログラム、体験活動の実施など運営に係る支援を行う。

実績

開所拠点数

開所年度	拠点数
2019年度	9
2020年度	6
2021年度	1
2022年度	5
2023年度	17
計	38



夜になると幻想的な沖縄県中城拠点



銀行跡地改修の北海道北広島拠点



家庭的な雰囲気の千葉県横芝光拠点

① 「子ども第三の居場所」 開設費支援

「子ども第三の居場所」 を開設する18拠点に対し、開設費助成を決定し、決定書授与式を行った。

	期	拠点	決定書授与式 実施日	開設費助成決定額
1	4	埼玉県吉見町	2023年8月29日	50,000,000円
2		長野県東御市	2023年6月1日	50,000,000円
3		滋賀県高島市	2023年5月9日	50,000,000円
4		岡山県鏡野町	2023年9月20日	50,000,000円
5		徳島県阿南市	2023年9月4日	50,000,000円
6		鹿児島県長島町	2023年4月13日	50,000,000円
7	5	北海道東川町（共生）	2023年7月14日	50,000,000円
8		北海道東川町（東川小）※	2023年7月14日	28,546,000円
9		岩手県久慈市	2023年11月29日	50,000,000円
10		茨城県筑西市	2023年10月13日	50,000,000円
11		群馬県明和町	2023年8月28日	50,000,000円
12		千葉県横芝光町※	2023年4月26日	50,000,000円
13		長野県山形村※	2023年6月12日	50,000,000円
14		長野県白馬村	2023年11月27日	50,000,000円
15		静岡県牧之原市	2024年1月29日	50,000,000円
16		三重県伊賀市	2024年1月19日	50,000,000円
17		奈良県宇陀市	2023年10月6日	50,000,000円
18		岡山県新庄村	2023年8月22日	50,000,000円
合計				878,546,000円

※Bパターン申請（運営開始後、レイアウトを決めて建設をするパターン）の東川町（東川小）・横芝光町・山形村については、同日に協定書調印式を実施。



岡山県鏡野町決定書授与式



長野県白馬村決定書授与式

② 「子ども第三の居場所」 運営費支援

2023年度以前より「子ども第三の居場所」を運営している8拠点に対し、学習・生活支援費、体験活動費、スタッフ人件費等の運営費助成支援を行うとともに、新たに運営を開始した16拠点に対して運営費助成を決定し、協定書調印式および関係者・地元住民等を対象に内覧会を行った。

	期	拠点	開設年月	調印式実施日	運営費助成決定額
1	2	京都府南丹市	2020年10月	2020年度に実施済	10,000,000円
2		岡山県奈義町	2020年10月		10,000,000円
3	3	福島県塙町	2023年5月	2023年5月19日	9,600,000円
4		兵庫県明石市	2021年9月	2021年度に実施済	9,600,000円
5		岡山県美作市（作東）	2022年6月	2022年度に実施済	9,600,000円
6		岡山県美作市（大原）	2022年6月		9,600,000円
7		広島県尾道市	2023年2月		9,600,000円
8		佐賀県みやき町	2023年7月	2023年6月23日	10,800,000円
9	4	北海道北広島市	2023年8月	2023年8月21日	6,400,000円
10		北海道古平町	2024年2月	2024年2月8日	1,600,000円
11		栃木県芳賀町	2022年5月	2022年度に実施済	14,400,000円
12		神奈川県湯河原町	2023年11月	2023年11月15日	4,000,000円
13		長野県上松町	2023年6月	2023年6月28日	8,000,000円
14		滋賀県高島市	2024年1月	2024年1月25日	2,400,000円
15		兵庫県養父市	2023年6月	2023年8月8日	8,000,000円
16		鹿児島県南さつま市	2023年3月	2022年度に実施済	14,400,000円
17		鹿児島県長島町	2024年1月	2024年2月27日	2,400,000円
18		沖縄県中城村	2023年11月	2023年12月6日	6,000,000円
19	5	北海道東川町（東川小）	2023年6月	2023年7月14日	8,000,000円
20		北海道東川町（共生）	2023年10月	2023年10月11日	4,800,000円
21		千葉県横芝光町	2023年4月	2023年4月26日	9,600,000円
22		長野県山形村	2023年4月	2023年6月12日	9,600,000円
23		兵庫県南あわじ市※	2023年7月	2023年8月1日	10,560,000円
24		鹿児島県南大隅町※	2023年10月	2023年12月7日	7,200,000円
25		山梨県中央市	2024年3月	2024年4月26日	800,000円
合計					196,960,000円

※Bパターン申請（運営開始後、レイアウトを決めて建設をするパターン）の南あわじ市と南大隅町は、運営費助成決定書授与式を併せて実施。



北海道東川町共生拠点
協定書調印式



運営費助成金を活用した拠点イベント
(左：ハロウィンパーティー／右：餅つき)

③研修会の開催

拠点の円滑な運営に繋げることを目的に、各種研修会を開催した。

(ア) 自立化研修

目的 「子ども第三の居場所」の自立化に向けて、補助金の活用計画や運営方法の見直しを行う必要があり、先行拠点の事例共有等を通じて自拠点の計画に反映させるなど、自立後の円滑な運営に繋げること。

実施日 2023年8月31日（木）

場所 オンライン開催

対象 2023年度に運営2・3年目の自治体担当者、拠点マネージャー等（必須）
運営1年目未満の自治体担当者、拠点マネージャー等（任意）
計21人

※必須参加拠点…兵庫県明石市、岡山県美作市（作東・大原）、栃木県芳賀町（4拠点）

※任意参加拠点…北海道北広島市、北海道東川町、北海道古平町、岩手県一関市、埼玉県吉見町、埼玉県滑川町、群馬県明和町、長野県白馬村、滋賀県高島市、愛媛県愛南町、鹿児島県南さつま市（11拠点）

内容 各自治体資金計画等報告、こども家庭庁からの補助金説明等

(イ) フォローアップ研修会

目的 ・基調講演や拠点の事例発表等を通じて、各拠点が抱える課題解決の一助とすること。
・拠点活動の拡充のために、他自治体の自治体担当者及び拠点マネージャーとの連携体制構築の場とすること。

実施日 2023年11月21日（火）～22日（水）

場所 日本財団ビル

対象 「子ども第三の居場所」運営助成期間中の拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等

参加者 19拠点 計36人

内容 外部講師講演、レクリエーション実習、分科会等



フォローアップ研修会の様子
(左：拠点紹介／中：レクリエーション実習／右：基調講演)



(左：分科会での話し合い／右：分科会での発表の様子)

(ウ) キックオフ研修会

- 目的** 助成事業を行う上での注意点やB&G財団への提出書類等を確認することで、運営開始後の円滑な運営に繋げること。
- 実施日** 2024年2月21日(水)
- 場所** オンライン開催
- 対象** 2024年度開所予定の自治体担当者・拠点マネージャー等(必須)
運営中拠点の自治体担当者・拠点マネージャー等(任意)計53人
- 内容** 運営費助成期間中のB&G財団への報告書類説明等

(エ) 拠点マネージャー現場研修

- 目的** スタッフマネジメントやイベントの企画方法、保護者との面談業務など、拠点運営に取り組む上でマネージャーとして必要なスキルを学び、拠点運営の質を高めること。
- 実施日** 2023年5月～2024年3月
- 内容** 2泊3日の現場OJT研修(子ども支援、スタッフミーティング、ケース会議への参加等)
- 対象** : 23拠点

	参加拠点	実施時期	受入拠点
1	鹿児島県南さつま市	2023年5月8日～10日	新潟県燕市
2	福島県塙町	2023年5月8日～10日	長野県大町市
3	鹿児島県南大隅町	2023年5月15日～17日	大分県杵築市
4	広島県尾道市		
5	北海道東川町(東川小)		
6	長野県山形村	2023年5月17日～19日	新潟県胎内市
7	千葉県横芝光町	2023年6月5日～7日	栃木県芳賀町
8	北海道北広島市	2023年7月22日～24日	長野県大町市
9	佐賀県みやき町		
10	兵庫県南あわじ市		
11	兵庫県養父市	2023年10月16日～18日	大分県杵築市
12	北海道東川町(共生)		
13	神奈川県湯河原町		
14	沖縄県中城村		
15	鹿児島県長島町	2023年12月20日～22日	岡山県奈義町
16	滋賀県高島市		
17	埼玉県吉見町		
18	茨城県筑西市		
19	山梨県中央市	2024年3月6日～8日	京都府南丹市
20	岩手県久慈市		
21	長野県東御市		
22	岡山県新庄村		
23	徳島県阿南市		

(オ)「子ども第三の居場所」拠点広報サポート

目的 拠点の認知拡大、スティグマ対策、支援者の増加を目的に、伴走支援形式で拠点の広報PRサポートを行った。

実施日 2023年9月～2024年3月

対象 開設準備中16拠点、開設半年以内10拠点

内容 パンフレットやチラシ等の広報物の作成をはじめ、SNSの運用方法のレクチャーや、メディアキャラバンの実施等もサポートした。来年度以降の拠点広報活動に向けて、新規拠点の面白い取り組みを取材しB&G財団のHPにて共有したほか、拠点が活用できるような広報物のテンプレートや好事例集、広報マニュアル等の作成も行った。

④「子ども第三の居場所」サミット

「子ども第三の居場所」事業に取り組む自治体の首長が一堂に会し、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりについての事例共有や、地域の子育てコミュニティの活性化に向けた情報交換がなされ、「子ども第三の居場所」事業への理解促進が図られた。

時期 2023年11月7日（火）

対象 子ども第三の居場所事業実施自治体のうち、一次審査が通過した自治体の首長他

主な内容

- ・子ども第三の居場所 正副会長の選任
- ・兵庫県明石市 前市長 泉房穂氏の基調講演「こどもにやさしいまちづくり」
- ・先進事例発表
 - ①岡山県奈義町「生まれる前からの切れ目のない居場所づくり」
 - ②岡山県美作市「市内3拠点が連携した居場所づくり」
 - ③兵庫県養父市「大学と連携した居場所づくり」
- ・B&G財団事業紹介
- ・こども家庭庁の取り組み
- ・第1回子ども第三の居場所 共同宣言

◆子ども第三の居場所サミット出席者内訳

区分	役職等	出席者人数
自治体関係	首長	43人
	副首長	6人
	教育長	8人
	随行	36人
来賓等	財団理事・評議員・関連団体	7人
合計		100人



拠点紹介ポスターに見入る参加者



基調講演 泉房穂氏



共同宣言の様子



情報交換会の様子

⑤ 「子ども第三の居場所」 利用児童を対象とした各種プログラム提供

(ア) 利用児童を対象とした宿泊型海洋体験の実施（日本財団支援金事業）

本事業は、家庭状況等の理由から自然体験活動など、様々な経験・体験が不足している「子ども第三の居場所」の利用児童を対象に、日頃できない自然体験や文化体験、共同生活等を提供することで、夏休みの楽しい思い出を作るとともに、心身共に健全な子どもを育てることを目的とした宿泊型体験学習である。

【事業内容】

「子ども第三の居場所」 利用児童を対象とした宿泊型海洋体験の実施

- (1) 対 象：「子ども第三の居場所」に通う児童・生徒
- (2) 人 数：参加者148人（子ども105人、引率者43人）
スタッフ16人（B&G財団9人、日本財団7人）
- (3) 時 期：A行程2023年7月26日（水）～29日（土）、B行程7月30日（日）～8月4日（金）
- (4) 日 数：3泊4日×2行程 ※B行程は台風の影響により2泊延泊
- (5) 場 所：沖縄県
- (6) 内 容：マリンスポーツ体験、沖縄文化体験、美ら海水族館見学等
- (7) その他：A行程はB&G財団の「子ども健全育成大使」の酒井法子氏が同行し、乗艇補助のサポート等を行った。

【参加者内訳】

A行程				B行程			
拠点名	全体	引率	子ども	拠点名	全体	引率	子ども
茨城県笠間市	5	1	4	兵庫県明石市	13	3	10
新潟県胎内市	5	2	3	大分県杵築市	15	4	11
長野県大町市	11	3	8	鳥取県鳥取市	2	1	1
栃木県大田原市	6	3	2	宮崎県宮崎市	11	3	8
埼玉県さいたま市	9	2	7	沖縄県本部町	11	4	7
新潟県新潟市	9	3	6	佐賀県唐津市	11	3	8
埼玉県三芳町	9	2	7	大阪府大阪市	12	3	9
青森県青森市	10	3	7	京都府京都市	10	3	7
計	63	19	44	計	85	24	61



A行程 集合写真



子ども健全育成大使 酒井法子さんから
子どもたちへプレゼント贈呈

【内容詳細】

◆プログラムスケジュール
 <A行程>

	1日目 (7/26)	2日目 (7/27)	3日目 (7/28)	4日目 (7/29)
午前	移動	・琉球ガラス作り体験 ・名護パイナップルパーク散策	マリンスポーツ体験 (カヌー、箱メガネ)	那覇国際通り散策
午後	移動	美ら海水族館見学	マリンスポーツ体験 (SUP、バナナボート)	移動
夕べの集い	交流会	保護者への手紙	・思い出バスケット ・旅の振り返りムービー	
宿泊	マリンプアザ	マリンプアザ	マリンプアザ	

<B行程>

	1日目 (7/30)	2日目 (7/31)	3日目 (8/1)	4日目 (8/2)	5日目 (8/3)	6日目 (8/4)
午前	移動	美ら海水族館見学	プールレク	ジェルキャン ドル作り	旅の振り返り ムービー	那覇国際通り 散策
午後	移動	・エイサー体験 ・島ぞうり作り	・オーシャン ホールレク ・パーランク 作り	・サンゴ風鈴 作り ・中国語講座	・名護パイナップ ルパーク ・那覇へ移動	移動
夕べの 集い	交流会	保護者への手紙	レクの景品 プレゼント	思い出バス ケット	なし	
宿泊	マリンプアザ	マリンプアザ	マリンプアザ	マリンプアザ	ノボテル沖縄那覇	



海レク体験



水鉄砲対決



美ら海水族館見学

【プログラムの様子】

交流会
朝夕の集い



後出しじゃんけん



朝の集い



保護者への手紙

見学・体験



美ら海水族館 見学



琉球ガラス 作り



名護パイナップルパーク



那覇国際通り散策

マリンスポーツ
体験



カヌー体験



バナナボート



生物観察



水辺の安全教室

文化体験
※B行程のみ



パーラック作り



エイサー体験



サンゴ風鈴作り



島ぞうり作り

(イ) 海洋性レクリエーション体験会の実施（体験格差解消寄付金事業）

「子ども第三の居場所」を利用する児童の体験・交流機会を充実させるため、近隣の海洋センターにおける海レク体験活動を3自治体3拠点で行った。

時 期 9月～10月

対 象 ①兵庫県明石拠点
②千葉県横芝光拠点
③佐賀県みやき拠点

実施場所 ①南あわじ市南淡B&G海洋センター
②いすみ市B&G海洋センター
③みやき町北茂安B&G海洋センター



明石拠点の体験の様子



横芝光拠点の体験の様子



みやき拠点の活動の様子

(ウ) オンラインイベントの開催

この事業は、拠点にいながら他の拠点の児童と交流ができるオンラインイベント。様々な催しを通じて、拠点を利用する児童やスタッフ同士が交流を行った。

目的：オンラインイベントを通じて拠点にいながら他拠点の児童と交流をはかること。

時期：2023年5月～2024年2月（計5回開催）

対象：B&G財団支援拠点、日本財団支援拠点

実績：計88拠点参加

内容：オンラインクイズ、工作教室、防災教育、クリスマスイベント等

	実施日	内容	参加拠点数
1	5月29日	【アイスブレイク】 伝言ゲーム・ジェスチャーゲーム・海洋ごみについて	13拠点
2	7月14日	【沖縄ツアー関係】 箱めがねづくり・沖縄ツアー事前説明（ツアー参加拠点のみ対象）	19拠点
3	9月28日	【防災教育】 オンライン避難訓練・防災借り物競争	13拠点
4	12月21日	【クリスマスイベント】 ペーパークリスマスツリーづくり・世界のクリスマスクイズ	27拠点
5	2月21日	【チームビルディング】 チーム対抗〇×クイズ・新聞紙タワーづくり競争	16拠点



沖縄ツアーで使う箱めがねをみんなで作っている様子



クリスマスイベントではサンタが登場

(3) ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用 (日本財団助成事業)

子どもたちの郷土愛の醸成とキャリア教育のため、2021年度から「ふるさとの偉人を題材にした偉人マンガ」事業を展開し、3カ年にわたり全国100自治体を対象に、100冊の「偉人マンガ」制作を支援した。完成したマンガは、260校以上の小中高校の授業に使用され、13万人以上の児童・生徒の郷土学習・キャリア教育に活用されている。

また、マンガは子どもたちだけでなく、一般を対象とした文化講座、観光の案内資料等としても活用が広がっている。



目的 ふるさとゆかりの偉人に関するマンガを地域の協働で製作し、学校教育への導入や地域住民に向けた事業展開を通じて、ふるさとへの興味関心の向上（郷土教育）、将来の生き方や生活を考えるきっかけ（キャリア教育）につなげる。

開始年度 2021年度（3年目）

対象 海洋センター・クラブ所在自治体等

支援金額 上限300万円

対象経費 マンガの製作・発行に係る費用

目標 40自治体におけるマンガの製作及び2021および2022年度製作自治体での学校授業への導入

実績 2021年度から3カ年で100冊完成

導入実績

2021年度

	自治体名	偉人名
1	北海道大空町	根岸錦蔵
2	北海道東川町	知里幸恵
3	宮城県蔵王町	北原尾に生きる人々
4	秋田県由利本荘市	小松耕輔
5	茨城県笠間市	田中友三郎
6	栃木県下野市	下毛野古麻呂
7	埼玉県久喜市	中島撫山
8	埼玉県嵐山町	畠山重忠
9	新潟県佐渡市	有田八郎
10	長野県生坂村	加藤正治
11	岐阜県中津川市	前田青邨
12	静岡県牧之原市	田沼意次
13	静岡県袋井市	三浦環、三浦政太郎
14	愛知県豊川市	菅田梅太郎
15	兵庫県新温泉町	加藤文太郎
16	鳥取県北栄町	豊田大蔵
17	島根県美郷町	中原芳煙
18	岡山県備前市	熊沢蕃山
19	岡山県和気町	和気清麻呂、和気広虫
20	岡山県笠岡市	茅原基治
21	広島県北広島町	巖光
22	愛媛県鬼北町	井谷正命、井谷正吉
23	高知県津野町	片岡信子
24	福岡県築上町	延塚奉行
25	佐賀県鹿島市	田澤義輔
26	佐賀県みやき町	古賀稔彦
27	熊本県菊池市	菊池武光
28	熊本県湯前町	那須良輔
29	大分県国東市	三浦梅園
30	鹿児島県長島町	飯尾裕幸

2022年度

	自治体名	偉人名
1	青森県弘前市	陸羯南
2	岩手県花巻市	佐藤昌介
3	宮城県川崎町	支倉常長
4	秋田県男鹿市	天野芳太郎
5	山形県尾花沢市	高宮常太郎
6	福島県塙町	白石禎美
7	埼玉県松伏町	山崎峯次郎
8	埼玉県吉見町	源範頼
9	新潟県胎内市	板額御前
10	新潟県燕市	鈴木文壺
11	新潟県新潟市	田沢実入
12	富山県砺波市	利波臣志留志
13	富山県南砺市	松村讓三
14	岐阜県恵那市	山本芳翠
15	岐阜県富加町	斉藤新五
16	愛知県西尾市	岩瀬弥助
17	三重県亀山市	ヤマトタケル、オトタチバナヒメ
18	三重県菟野町	八重姫
19	京都府南丹市	井上壘水
20	兵庫県猪名川町	加茂守
21	兵庫県南あわじ市	鶴澤友路
22	鳥取県伯耆町	辻曾堂
23	岡山県赤磐市	永瀬清子
24	岡山県井原市	平櫛田中
25	岡山県津山市	眞作阮甫
26	岡山県奈義町	井戸泰
27	徳島県阿南市	森甚五兵衛
28	福岡県	吉田健作、吉田増蔵
29	熊本県	北原白秋
30	鹿児島県	黒瀬社氏

2023年度

	自治体名	偉人名
1	北海道名寄市	木原秀雄
2	北海道北広島市	中山久蔵
3	青森県南部町	檀山大典
4	岩手県一関市	大槻玄沢、大槻磐溪、大槻文彦
5	岩手県久慈市	タマシシ・アレン
6	宮城県亶理町	伊達邦成
7	山形県酒田市	土門拳
8	福島県小野町	丘灯至夫
9	茨城県北茨城市	岡倉天心
10	茨城県五霞町	一色輝季
11	茨城県龍ケ崎市	木村安兵衛
12	栃木県さくら市	足利鳥子
13	栃木県芳賀町	岡田宗山
14	千葉県鋸南町	醍醐新兵衛
15	石川県志賀町	加能作次郎
16	石川県穴水町	長連龍
17	山梨県甲州市	雨宮敬次郎
18	山梨県山梨市	根津嘉一郎
19	山梨県南アルプス市	内藤多仲
20	岐阜県高山市	金森長近
21	岐阜県中津川市	長瀬富郎
22	兵庫県香美町	前田周助
23	兵庫県養父市	土垣守国
24	岡山県矢掛町	渡邊武次郎
25	広島県坂町	敵為吉
26	山口県長門市	大津あきら
27	山口県岩国市	藤岡市助
28	徳島県徳島市	初代天狗久（吉岡久吉）
29	徳島県那賀町	谷崎義男（鱗海）
30	愛媛県今治市	丹下健三
31	福岡県柳川市	雲龍久吉
32	福岡県宗像市	出光佐三
33	大分県由布市	後藤権根
34	鹿児島県さつま町	原田正純
35	鹿児島県大崎町	出原次左衛門
36	鹿児島県いちき串木野市	長沢鼎
37	鹿児島県阿久根市	中尾純利
38	鹿児島県天城町	徳三宝
39	沖縄県うるま市	安慶名良信
40	沖縄県本部町	健壁大親

学校授業実績

2023年度まで、全国100自治体が制作した100冊の偉人マンガが、269校の学校授業で13万人以上の児童・生徒に向けて活用。偉人マンガを通して、子どもたちの郷土教育、キャリア教育が促進されている。

活用学校数：269校

小学校 221校

中学校 43校

その他 5校

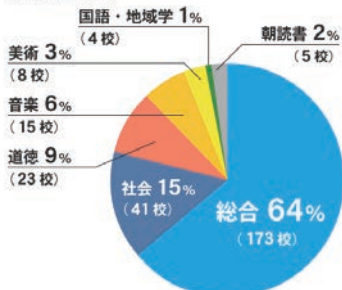
児童・生徒数：13,599人

※2024年3月末時点



活用した教科：7種類

※社会は歴史を含む



100冊の偉人マンガが無料で読める「BGマンガ」をぜひチェックしてみてください



アンケート調査

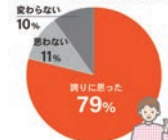
学校授業で偉人マンガを活用した後、授業担当の先生及び授業を受けた子どもたちにアンケートを実施した。全国小中学校113校、教員198人、児童・生徒2,843人から回答をもらい、結果として、偉人マンガを学校授業で活用したことで、子どもたちのふるさとへの興味関心が向上し、自身の生き方について考えるきっかけにもなったことが分かった。

<子ども向け>

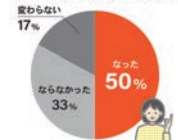
マンガを読んだ後自分の町を好きになった？



マンガを読んだ後自分の町を誇りに思った？



偉人マンガは夢や目標のきっかけとなった？

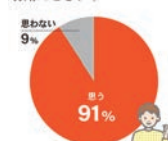


<先生向け>

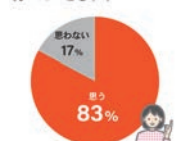
偉人マンガは郷土教育に有効だと思う？



偉人マンガはキャリア教育に有効だと思う？



今後もマンガを用いた授業を行いたいと思う？



学校授業の様子

GIGAスクールを活用した授業



埼玉県久喜市

偉人マンガ中のセリフやイラストの表情から偉人の性格や魅力、人柄を想像し、特に気に入った場面のスクリーンショットをとり、チャットに投稿しながら、意見を交わし合う。

マンガを活用した酒蔵見学



鹿児島県南さつま市

マンガを用いて、偉人が作った酒蔵を見学しながら、焼酎製造や偉人の歴史などを学習。

学芸員による出前授業・関連史跡見学



福岡県みやこ町

マンガの製作に取り組んだ学芸員が町内小中学校および高等学校を対象にマンガを用いた出前授業を行い、偉人に関連する史跡の見学も実施。

マンガを活用した文庫見学



愛知県西尾市

偉人マンガ中の頁をA3に印刷し、マンガに登場する岩瀬文庫旧文庫と蔵書を現実と照らし合わせながら見学。

マンガを題材とした劇披露会



熊本県南関町

マンガをベースに劇のシナリオを地元小学校校長が編集し、マンガの中のシーンを参考に子どもたちが自ら小道具を制作し、演者になり劇を披露。

偉人マンガ読書感想文・イラストコンテストの表彰式



三重県菰野町

菰野町出身の中部日本放送のアナウンサー重盛啓之氏が司会を務め、優秀作の表彰式を実施。

学校授業以外の活用事例

美術



広島県北広島町

洋画家「鬚光」のマンガを授業で読んだ後、自画像展に出品。

マンガを活用した町PR



岐阜県富加町

偉人マンガを地域振興の材料として、富加町の歴史を宣伝するPR活動で活用。

フォーラム



宮城県川崎町

文化財保護委員長等によるマンガ完成記念講演会の開催。町内外から100人以上が参加し、YouTube配信も実施。

偉人のゆかり地巡り



埼玉県吉見町

マンガに登場するシーンに合わせて「偉人ゆかりの地を歩く」イベントを実施し、吉見町と近隣市町村より142人が参加。

偉人マンガの企画展



熊本県菊池市

図書館や高校の文化祭でマンガの原画展を開催。

(4) 「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業 (日本財団助成事業)

この事業はハード面とソフト面の両方から、全国各地に防災拠点を整備し、機材・人材の効果的な活用が可能な仕組みを構築するものである。

事業開始年度 2021年度 (3年目)

目的 全国津々浦々に防災拠点を設置することにより、我が国の迅速で効果的な災害復興に資することを目的としている。

目標 全国100カ所の防災拠点の設置を目指す。

実績 実施カ所数 第一期拠点25カ所／第二期拠点29カ所 計54カ所



【防災拠点の設置と災害時相互支援体制構築】事業内容

(1) 防災拠点の整備

防災拠点設置自治体において、重機をはじめとする災害発生時の緊急対応を行う必須機材の配備と防災倉庫の整備、自治体や避難所の実態に応じた任意機材の配備に対し支援を行った。

(2) 人材育成研修の実施

「防災拠点」を整備した自治体担当者や消防署員等を対象に広域研修、救助艇の水災害時の活用方法を学ぶ広域モデル研修を開催したほか、重機研修を主とした拠点研修や避難所運営を主とした研修等を支援した。

(3) 災害時相互支援体制の構築

災害発生時に、防災拠点に整備した機材や研修受講者による迅速な支援を行うため、周辺自治体を含めた災害時相互応援協定の締結など災害時相互支援体制を構築した。

※本事業は、各拠点の地理的条件や過去の災害状況と、有事の際の人材及び機材派遣や支援及び連携体制等を基に拠点設置地域を設定しているため、拠点設置の公募は行っていない。

【防災拠点の整備】

第一期／25ヵ所

	道府県	自治体名
1	北海道	滝川市
2		積丹町
3	青森県	鶴田町
4	岩手県	久慈市
5	宮城県	大崎市
6		亘理町
7	千葉県	鋸南町
8	茨城県	五霞町
9	福井県	大野市
10	長野県	上松町
11	静岡県	牧之原市
12	三重県	志摩市
13	兵庫県	南あわじ市

	道府県	自治体名
14	広島県	北広島町
15	岡山県	奈義町
16		矢掛町
17	鳥取県	北栄町
18		伯耆町
19	愛媛県	愛南町
20	徳島県	海陽町
21	高知県	四万十町
22	福岡県	築上町
23	熊本県	湯前町
24		長洲町
25	鹿児島県	天城町

第二期／29ヵ所

	道府県	自治体名
1	北海道	石狩市
2		名寄市
3		鷹栖町
4	秋田県	男鹿市
5	山形県	酒田市
6	宮城県	石巻市
7	福島県	塙町
8	群馬県	明和町
9		みなかみ町
10	千葉県	いすみ市
11	新潟県	佐渡市
12	石川県	白山市
13	長野県	大町市
14	岐阜県	可児市
15	愛知県	新城市

	道府県	自治体名
16	滋賀県	野洲市
17	京都府	南丹市
18	島根県	雲南市
19	徳島県	徳島市
20	長崎県	南島原市
21	大分県	別府市
22	熊本県	南阿蘇村
23	宮崎県	宮崎市
24		日向市
25	鹿児島県	いちき串木野市
26		奄美市
27		南大隅町
28		与論町
29	沖縄県	名護市

【協定書調印式および配備機材お披露目式の実施】

「主な協定内容」

- ・ 実施自治体および周辺自治体との相互支援体制の構築
- ・ 被災地への物的、人的支援
- ・ 定期的な研修の実施
- ・ 機材等の適切な管理 等





機材が配備された自治体から順次、調印式と併せてお披露目式を実施した。
多くの報道関係者等が集まり、事業周知へとつながった。



【人材育成研修の実施】

以下の内容にて、研修を実施。各拠点にて、広域研修Aおよび救助艇モデル研修を含めた計6回以上(年間)の研修計画をもとに、地域実情にそった研修を実施した。

	研修	内容																																				
1	広域研修A	<p>◆一括「座学」研修(東京)</p> <p><実施日>2023年11月30日(木)~12月1日(金)</p> <p><参加者>54自治体 計127人</p> <p><場 所>ベルサール飯田橋</p> <p><タイムテーブル></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>1日目</th> <th></th> <th>2日目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13:00</td> <td>開会挨拶・来賓挨拶</td> <td>9:00</td> <td>2日目挨拶</td> </tr> <tr> <td>13:30</td> <td>災害支援ワークショップ①</td> <td>9:05</td> <td>講演</td> </tr> <tr> <td></td> <td>休憩</td> <td>10:20</td> <td>休憩</td> </tr> <tr> <td>14:30</td> <td>災害支援ワークショップ②</td> <td>10:45</td> <td>特別事例共有</td> </tr> <tr> <td>15:00</td> <td>事例共有:パネルセッション</td> <td>11:30</td> <td>事務連絡</td> </tr> <tr> <td>15:40</td> <td>休憩・移動</td> <td>12:00</td> <td>2日目終了</td> </tr> <tr> <td>16:00</td> <td>事例共有:ポスター発表</td> <td>12:00~</td> <td>(自由相談時間)</td> </tr> <tr> <td>17:10 ~19:00</td> <td>情報交換会</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 	1日目		2日目		13:00	開会挨拶・来賓挨拶	9:00	2日目挨拶	13:30	災害支援ワークショップ①	9:05	講演		休憩	10:20	休憩	14:30	災害支援ワークショップ②	10:45	特別事例共有	15:00	事例共有:パネルセッション	11:30	事務連絡	15:40	休憩・移動	12:00	2日目終了	16:00	事例共有:ポスター発表	12:00~	(自由相談時間)	17:10 ~19:00	情報交換会		
1日目		2日目																																				
13:00	開会挨拶・来賓挨拶	9:00	2日目挨拶																																			
13:30	災害支援ワークショップ①	9:05	講演																																			
	休憩	10:20	休憩																																			
14:30	災害支援ワークショップ②	10:45	特別事例共有																																			
15:00	事例共有:パネルセッション	11:30	事務連絡																																			
15:40	休憩・移動	12:00	2日目終了																																			
16:00	事例共有:ポスター発表	12:00~	(自由相談時間)																																			
17:10 ~19:00	情報交換会																																					
2	広域モデル研修	<p>◆救助艇の災害時活用を主とした一括実技研修</p> <p><内 容>災害時に有効な救助艇活用が可能な人材を育成し、他拠点のモデルや先行事例となる研修の実施</p> <p><実施日>【第一行程】2023年7月5日(水)【第二行程】2023年7月6日(木)【第三行程】2023年7月7日(金)</p> <p><参加者>53自治体 計133人</p> <p><場 所>福島県南相馬市</p> 																																				

	研修	内容
3	拠点研修	<p>◆各拠点（自治体）における実技研修（計4回以上）</p> <p><内 容> 油圧ショベルを扱う上で必要となる「小型車両系建設機械（整地・運搬・積込・掘削）特別教育」の受講、救助艇やドローンを活用した実技研修を実施した。また、避難所開設等に係る研修を実施。コロナ禍に対応した避難所運営や夜間時における避難所開設など、主に新たな課題に対応した研修計画を策定し実施した。</p> <p><参加者>のべ24,382人 <場 所>各自治体</p> 
4	養成研修内での防災研修	<p>◆センター・インストラクター養成研修参加者を対象とした防災研修</p> <p><内 容> 養成研修内で未来の指導者へ救助艇の実技研修や子ども向けの防災プログラム策定研修を提供することで、海洋性レクリエーションだけではないマルチに活躍できる人材の育成研修を行った。</p> <p><実施日> （沖縄）2023年7月1日（土）～7月2日（日） （天城）2023年9月28日（木）～9月29日（金）</p> <p><参加者> （沖縄）20人 （天城）17人</p>  <p>センター・インストラクター養成研修とは 海洋センター所在自治体の職員や担当者を対象に、海洋センター施設の管理運営と海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動や水辺の安全教室などの指導法を習得する33日間の合宿研修。詳細は、59頁を参照。</p>

2

海洋センター・海洋クラブの 施設整備事業

「海洋センター評価」が原則A評価以上で、施設の機能保全および機能向上（バリアフリー化等）を目的とする修繕、ならびに自然災害により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し、助成金の交付を行った。

また、B&Gプランの趣旨に賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体を「B&G海洋クラブ」「B&G海洋サポーター」として新たに登録し、舟艇等を配備するとともに、既存の海洋センター・海洋クラブに対して新たな活動器材を配備した。

(1) 修繕助成金の交付（日本財団助成事業）

①2023年度の修繕助成

2023年度通常修繕・特別施設整備として決定した43施設、年度内の災害復旧修繕として決定した1施設に対して、下記の通り助成金を交付した。（詳細は108頁）

事業開始年度 2001年度（23年目）

目的 幼児から高齢者までの健康増進、青少年の健全育成を遂行する活動拠点である海洋センターの施設の修繕を行い、利用者人数の向上及び活動の活性化を図る。

目標 スポーツ振興の場に止まらず、多目的な活用を促進することで、修繕対象海洋センターの活性化を図り、利用者人数の10%向上を目指す。

実績

修繕項目	センター数	施設数	助成金額
通常修繕	35	35	573,900,000円
特別施設整備	8	8	247,100,000円（予定）
年度内災害復旧修繕	1	1	10,000,000円（予定）
合計	44	44	831,000,000円（予定）

※一部工事延長中のため、助成金額未確定の施設あり

②2024年度修繕助成の決定

2024年度に修繕を計画している50センター55施設からの申請のうち、海洋センター施設整備委員会の審議を経て日本財団に申請し、37海洋センター41施設に対し総額824,300,000円の助成を決定した。

修繕項目	センター数	施設数	助成決定金額
通常修繕	30	33	450,500,000円
特別施設整備	7	8	373,800,000円
合計	37	41	824,300,000円

これまでの修繕助成金総額（2001～2023年度）

種 別	助成金額	種 別	助成金額
通常修繕	9,697,500,000円	災害復旧	473,390,000円
艇庫	274,100,000円	艇庫特別施設整備	205,500,000円
プール	5,465,800,000円	特例修繕	56,600,000円
体育館	3,947,600,000円	特別施設整備	691,700,000円
グラウンド	10,000,000円	助成金額 総額	11,124,690,000円

■決定書授与式の実施

2023年度の通常修繕助成金額が1,000万円以上の34自治体および、災害復旧修繕として決定した1自治体にて、修繕助成金決定書授与式を実施した。

新聞18紙、CATV 6社で報道され、ボートレースの収益金の有効活用と施設のリニューアルを地域住民に周知できた。



■リニューアルオープン式典の開催

修繕助成により利便性や機能が向上した17カ所の海洋センターで、リニューアルオープン式典が開催され、新聞9紙、TV4社で報道された。

リニューアル式典後、元プロアスリートやプロスポーツチームによる教室などのイベントも開催され、イベントを通じて新しくなった海洋センターを周知することができた。



プロバスケットボールチーム「トライフーズ岡山」の選手によるバスケットボール教室
(津山市加茂)



バルセロナオリンピック競泳金メダリスト
岩崎燕子氏の水泳教室
(さくら市喜連川)

(2) 新規海洋クラブ・サポーター登録（日本財団助成事業）

2023年度は新たに5カ所の海洋クラブと、10カ所のサポーターを登録した。合計15ヶ所の海洋クラブ・サポーターに対して、カヌー・SUP・ライフジャケット等の活動器材（計10,610,819円）を配備した。

事業開始年度 1977年度

目的 海洋センター及び海洋クラブへの活動器材の配備を行い、利用者人数の向上及び活動の活性化を図る。

目標 安全な自然体験活動に必要な器材や、活動内容の充実を促す活動器材等を配備することで安心・安全な海洋センター・クラブ活動を支援し、更なる活性化を図る。

①新規海洋クラブ・サポーター登録および舟艇配備

新たな海洋クラブ・サポーターを登録し、B&Gネットワークを拡充するとともに、舟艇器材等を配備することで水辺活動を支援し、次年度の活動人数を、対前年度比10%の向上を目指す。

実績 2022年度に登録した海洋クラブ等の2023年度の活動人数は合計20,293人であった。

海洋クラブ（登録日 2023年10月6日）

	登録No.	道府県名	所在自治体	名称
1	1410	宮崎県	延岡市	B&G北川流域海洋クラブ
2	1411	長崎県	雲仙市	B&G Unzen海洋クラブ
3	1412	京都府	京丹後市	B&G京丹後海洋クラブ
4	1413	静岡県	浜松市	B&G浜松海洋クラブ
5	1414	鹿児島県	鹿児島市	B&Gカゴニコ海洋クラブ

サポーター（登録日 2023年10月6日）

	登録No.	道府県名	所在自治体	名称
1	1415	広島県	三原市	B&Gサポーター安芸ライフセービングクラブ
2	1416	宮城県	仙台市	B&GサポーターMOTTO
3	1417	高知県	土佐町	B&GサポーターRAGs
4	1418	長野県	東御市	B&Gサポーター楽育ひろばtomi
5	1419	山口県	周防大島町	B&Gサポーター大島商船高専PWCLレスキュー部
6	1420	山形県	酒田市	B&Gサポーターインクルーシブボート研究所
7	1421	秋田県	横手市	B&GサポーターJCA
8	1422	広島県	呉市	B&Gサポーターまめな海部
9	1423	千葉県	君津市	B&Gサポーター君津
10	1424	茨城県	牛久市	B&Gサポーターうしくウォーターガーディアンズ

〈登録クラブ概要および配備内容〉

クラブ概要
<p>B&G北川流域海洋クラブ</p> <p>延岡市を流れる北川を活動水面として、主に小学生の子どもたちを対象に野外での体験活動を行い、各々の自主性と規律、さらには生きる力を育みながら普段は忘れがちになっている水の大切さや楽しさを学んでもらおうと日々取り組んでいる。</p> <p>「地域で子どもを育てる」ということにも重きを置き、青少年の健全育成と里山の生活と文化の継承、再生を目的に、有志たちと共に活動している団体。</p> <p>■配備器材：カヤック、Eボート等</p> <p>■配備金額：上限200万円</p>
<p>B&G Unzen海洋クラブ</p> <p>雲仙市に位置する国立公園内の白雲の池や、国崎半島海水浴場などをフィールドにSUPやカヤック体験会を行う団体である。また水辺の安全教室やクリーン活動、登山体験も実施予定であり、島原半島の大自然を大いに生かしたアクティビティを、子どもたちを始めとした地域住民の方々に幅広く提供していく。</p> <p>■配備器材：SUP・カヤック等</p> <p>■配備金額：上限200万円</p>
<p>B&G京丹後海洋クラブ</p> <p>地元育ちの公認インストラクターが京都府の最西端、海の見えるツリーハウスのある京丹後市蒲井海岸を拠点に、海水浴場付近の穏やかな海や断崖が兵庫県境まで続く手つかずの海岸をカヤックで案内する。地域の活性化を目的に発足し、地元の若者を集めて、それぞれが別の仕事をしながら少しでも地元の魅力を発信できればと思い活動している。</p> <p>■配備器材：SUP・カヤック等</p> <p>■配備金額：上限200万円</p>
<p>B&G浜松海洋クラブ</p> <p>浜松市にある浜名湖などを拠点に、ヨットやカヌー、SUPなど様々な舟艇を用いて体験会を行い、また地域の子どもたちに向けて水辺の安全普及活動にも精力的に取り組む団体である。</p> <p>母体はオイスカ浜松国際高等学校のマリンスポーツ部で、主に部員たちが中心となって地元の小中学生に向けた体験会や安全教室を開いている。子どもたちに安全にマリンスポーツを楽しんでもらえるよう、指導スキルを身に着けるのはもちろんのこと、部員たち自身も「水辺のヒーロー」となれるよう日々活動を行っている。</p> <p>■配備器材：SUP・ライフジャケット等</p> <p>■配備金額：上限150万円</p>
<p>B&Gカゴニコ海洋クラブ</p> <p>鹿児島市を流れる甲突川を拠点に、SUPやカヤックを中心としたパドルスポーツの普及を目指して活動している。代表は奄美大島で10年間パドルスポーツの普及活動を行いながら、2019年度に「B&Gアマニコ海洋クラブ」としてB&Gネットワークに加わり、様々な財団事業に参画してきた。その経験を活かし、鹿児島市内に住む方々に日常生活の中でも自然をより身近に感じてもらい、市民同士の交流を深めてほしいとの思いから、2拠点目の活動をスタートさせた。</p> <p>■配備器材：SUP・ライフジャケット等</p> <p>■配備金額：上限100万円</p>

サポーター概要

B&Gサポーター安芸ライフセービングクラブ

- 配備器材：ニッパーボード等
- 配備金額：上限20万円

B&GサポーターMOTTO

- 配備器材：ライフジャケット等
- 配備金額：上限20万円

B&GサポーターRAGs

- 配備器材：ライフジャケット等
- 配備金額：上限20万円

B&Gサポーター楽育ひろばtomi

- 配備器材：フラボード等
- 配備金額：上限20万円

B&Gサポーター大島商船高専PWCLレスキュー部

- 配備器材：SUP等
- 配備金額：上限20万円

B&Gサポーターインクルーシブボート研究所

- 配備器材：教育用RCヨット開発キット
- 配備金額：上限20万円

B&GサポーターJCA

- 配備器材：ライフジャケット等
- 配備金額：上限20万円

B&Gサポーターまめな海部

- 配備器材：ゴムボード等
- 配備金額：上限20万円

B&Gサポーター君津

- 配備器材：SUP等配備
- 配備金額：上限20万円

B&Gサポーターうしくウォーターガーディアンズ

- 配備器材：SUP等配備
- 配備金額：上限20万円

②2022年度登録海洋クラブ「舟艇器材配備式」の実施

2022年度に新たに海洋クラブに登録し、舟艇等の活動器材を配備した7ヵ所の海洋クラブにおいて、「舟艇器材配備式」を実施した。地域における海洋クラブの誕生と舟艇器材の配備を広く地域住民へ周知した。

(1) B&Gみえ海洋クラブ (三重県伊勢市)



(2) B&Gマリンパークたるみず海洋クラブ (鹿児島県垂水市)



(3) B&G横浜海洋クラブ (神奈川県横浜市)



(4) B&G Next one.つくば海洋クラブ (茨城県つくば市)



(5) B&G志摩マリンセーフティ海洋クラブ (三重県志摩市)



(6) B&Gあもりがわ海洋クラブ (鹿児島県霧島市)



(7) B&G三浦海洋クラブ (神奈川県三浦市)



3

海洋センター・海洋クラブの 活性化事業の推進

海洋センターは、所在自治体の社会体育・スポーツ施設、青少年育成の場として、長年運用されてきたが、様々な事柄がシームレスにつながる現在の社会環境を鑑み、スポーツ利用に留まらず、社会の変化や地域のニーズに対応した多様な事業を展開し、海洋センター・クラブの活性化を図った。

(1) 学習と体験活動による子育て支援「BG塾」(日本財団助成事業) ■■■■■■

この事業は、地域のスポーツやコミュニティの拠点として活用されている各地の海洋センター等において、マリンスポーツや自然体験などの指導ノウハウを活用し、夏休みなどの長期休暇期間中に、宿題などの「学習」とマリンスポーツなど様々な「体験活動」を提供する子育て支援事業として行っている。

事業開始年度 2018年度(6年目)

目的 共働き世帯やひとり親家庭の増加により、夏休みや冬休みなどの長期休暇中は、子どもがひとり、家で過ごす時間が増える状況にある。そこで海洋センターや教育委員会、ボランティア等が連携して長期休暇中の子どもの居場所をつくり、「学習」だけでなく、学校では経験できない海洋性レクリエーション等の多様な「体験活動」を提供し、子育て世帯の支援を行う。

目標

- ・実施カ所数80カ所、参加人数6,000人
- ・参加者・保護者の満足度80%以上

実績

- ・実施カ所数86カ所(達成率:108%)、参加人数9,245人(達成率:154%)
- ・参加者の満足度93%(達成率:116%) ・保護者の満足度94%(達成率:118%)



学習風景



海洋性レクリエーション体験



漁船でクルーズ体験



実験



STEAM教育



プール遊び

①2023年度「BG塾」実施一覧 86カ所

都道府県	センター・クラブ名	都道府県	センター・クラブ名	都道府県	センター・クラブ名	都道府県	センター・クラブ名
1	大空町東藻琴	23	HONKI University 海洋クラブ	45	赤磐市吉井	66	愛媛県 久万高原久万
2	大空町女満別	24	神奈川県 湘南バディ海洋クラブ	46	岡山県 和気町佐伯	67	新居浜海洋クラブ
3	北海道 横丹町	25	新潟県 糸魚川市能生	47	津山市加茂	68	高知県 YASU海洋クラブ
4	剣淵町	26	富山県 砺波市	48	東広島市黒瀬	69	佐賀県 太良町
5	函館水産高等学校海洋クラブ	27	富山県 富山市八尾	49	東広島市安芸津	70	長崎県 南島原市加津佐
6	青森県 南部町名川	28	石川県 志賀町富来	50	安芸高田市高宮	71	豊後高田市真玉
7	鶴田町	29	石川県 白山市鶴来	51	北広島町芸北	72	大分県 中津市耶馬溪
8	秋田県 由利本荘市由利	30	福井県 大野市	52	鳥取県 北栄町北条	73	国東市武蔵
9	加美町中新田	31	長野県 大町市	53	鳥取県 鳥取市佐治町	74	玉名市岱明
10	川崎町	32	静岡県 御前崎市	54	島根県 松江市松江	75	熊本県 熊本市城南
11	宮城県 蔵王町	33	三重県 伊賀市阿山	55	島根県 江津市桜江	76	長洲町
12	大崎市松山	34	三重県 伊賀市大山田	56	雲南市加茂	77	長島町
13	石巻ひたかみ水の里海洋クラブ	35	三重県 大紀町大内山	57	浜田市三隅	78	南大隅町佐多
14	山形県 徳良湖海洋クラブ	36	滋賀県 大台町	58	山口県 周防大島町	79	さつま町
15	福島県 塙町	37	滋賀県 野洲市中主	59	山口県 長門市日置	80	いちき串木野市
16	小野町	38	滋賀県 米原市山東	60	徳島県 牟岐町	81	鹿児島県 与論町
17	栃木県 那須烏山市南那須	39	兵庫県 豊岡市竹野	61	徳島県 三木町	82	天城町
18	茨城県 石岡市	40	兵庫県 芦屋市	62	香川県 高松市国分寺	83	錦江湾海洋クラブ
19	五霞町	41	兵庫県 宍粟市千種	63	香川県 B&G池田海洋クラブ	84	大崎わんぱーく海洋クラブ
20	千葉県 香取市小見川	42	兵庫県 宍粟市波賀	64	愛媛県 松山市中島	85	あくね夢まち海洋クラブ
21	鋸南町	43	兵庫県 養父市おおよ	65	愛媛県 今治市朝倉	86	沖縄県 名護市
22	埼玉県 幸手市	44	兵庫県 南あわじ市南淡				

②2023年度「BG塾」表彰センター

本事業の目的に則した「多様なプログラムの部」「地域人材活用の部」「特別賞」の項目にて、優れた活動を実施した海洋センター6カ所を表彰した。

部門	センター・クラブ名	選定理由
地域人材活用の部	長門市日置 (2年目)	毎日いずれかのプログラムに必ず地域人材を活用しており、特に、園児～高校生等の子ども同士の交流が図られていたため。「園児と触れ合おう!」では、普段指導される側であるBG塾参加者(小学生)が主体となって、園児を指導する立場を体験してもらい、指導することの難しさを学んだ。
	鋸南町 (5年目)	地域の高齢者15人が、無償でBG運営に参画したことにより、世代間交流が盛んにおこなわれ、子どもだけでなく高齢者の生きがいづくりにもつながった。
多様なプログラムの部	雲南市加茂 (2年目)	環境政策課とのゴミゼロ活動や、社会福祉協議会とのフードドライブ事業など、市役所や市内の団体組織と連携した事業が多くあった。特に、フードロスの取り組みはメディアに取り上げられるなど、BG塾の活動を外部にも発信した。
	蔵王町 (5年目)	地域人材及び企業に協力を仰ぎながら、1日に1回以上、体験プログラムを組み込み、多様な活動を実施された。また、2019年度から年々プログラムの充実度が高まっており、マンネリ化することなく多様な内容となっている。
	加美町中新田 (3年目)	「地元の妖怪を知ろう」などの郷土教育やドローンプログラミング等、地域人材を活用し、今と昔を体験・学習できるプログラムを効果的に組み込んだ。
特別賞	松山市中島 (5年目)	島に1校しかない小学校(33人)から、21人もの子どもたちが参加するなど、BG塾の目的でもある「子どもの居場所づくり」に寄与している。



プログラム「園児と触れ合おう！」
(長門市日置)



高齢者の方とのカルタ大会 (鋸南町)



出張型企業見学 (蔵王町)



プログラミングでドローン体験
(加美町中新田)



自然のものでクリスマスリース作り
(松山市中島)

(2) 次世代型海洋センター艇庫を活用した地域の魅力創生 (日本財団助成事業)

従来の「艇庫」は海洋性レクリエーション体験の拠点としての単一機能だったが、「次世代型艇庫」は青少年に対する海洋性レクリエーションの提供だけでなく、幅広い世代への海洋性レクリエーションにとどまらない多様な利活用を促進するとともに、インクルーシブな活動の展開も図っている。従来は、自治体担当部署単独で艇庫活動を行っていたが、現在は、地域住民や他団体を巻き込み、より地域の魅力や個性を引き出した活動を展開している。

事業開始年度 2019年度 (5年目)

① 地域の水と緑を活かしたハイブリッド型自然体験機会の提供 (千葉県香取市)

事業開始年度 2022年度 (3ヵ年事業の2年目)

目的 香取市山田B&G海洋センターは、市内唯一の総合公園である橘ふれあい公園の敷地内にあり、同公園の大規模な整備にあわせて海洋センター艇庫を移設・新築し、地域の水と緑を活かしたハイブリッド型自然体験機会を提供する拠点として、艇庫活動の活性化を図る。

目標 年間利用者 1,800人以上

実績 年間利用者 2,906人

② 「いきいきふるさと鯉のぼり祭り」

香取市次世代型艇庫とその周辺施設一体で、鯉のぼり掲揚期間である5月に同公園を訪れる方々を対象にイベントを実施し、次世代型艇庫事業として水と緑を掛け合わせた体験機会の提供をより多くの地域住民に周知を行った。

日時：2023年5月3日（水）

内容：

・スタンプラリー

隣接する里山内を散策し、橘ふれあい公園内を回ってもらうスタンプラリーを実施

・カヌー・SUP体験

艇庫前にある橋堰を使用し、小学生以上を対象にしたカヌーやSUPの体験会を実施



艇庫でのSUP・カヌー体験



艇庫周辺でのスタンプラリー

③ 「リニューアルオープン式典」

新たに次世代型艇庫としてオープンした香取市山田B&G海洋センター艇庫にて、リニューアルオープン式典を実施した。また式典終了後には、艇庫前の水面にてカヌー体験を実施し、関係者や地域住民等に対し、新しくなった艇庫を周知することができた。

日時：2023年5月26日（金）

出席者：香取市 市長 伊藤 友則 氏

香取市 教育長 堀越 洋 氏

香取市 議会議長 平野 和伯 氏



市長ご挨拶



テープカット

④ 「橘ふれあいパークフェス2023」

香取市山田B&G海洋センター艇庫ならびに橘ふれあい公園一体で、市内外の訪問者をターゲットとした、大規模イベントを開催。多くの来訪者に対し、艇庫でのマリナクティビティを実施した。また、日本航空株式会社（JAL）をはじめとする企業や団体等の協力のもと、多様なプログラムの提供に繋げることができた。

日時：2023年11月3日（金）

内容：

- ・カヌー、足漕ぎボート、昔遊び（竹馬、こま等）、スタンプラリー
- ・日本航空（JAL）スタッフによる「空育」※紙ヒコーキづくり、ミニプッシュバック体験
- ・電動キックボード体験



カヌー体験の様子



電動キックボード体験



日本航空（JAL）による紙ヒコーキづくり



完成した紙ヒコーキを艇庫のテラスから飛ばす様子

(3) 熱中症対策事業（日本財団助成事業）

この事業は、海洋センタープール内で急病人が発生した際、迅速に対応できるよう、冷暖房付きのパネルハウスや救護備品を配備する特別支援事業として実施している。

事業開始年度 2023年度（初年度）

目的 冷暖房を備えたプレハブ型の救護室、救護ベッド、レスキューベンチ、大型扇風機の設置を行い、海洋センタープール（上屋付）における熱中症患者等を速やかに救護できる環境を整備し、より安全性の高い施設とする。

目標 30カ所

実績 30カ所

	道府県名	センター名		道府県名	センター名		道府県名	センター名
1	福島県	塙町	11	長野県	上松町	21	岡山県	赤磐市吉井
2	福島県	田村市滝根	12	長野県	生坂村	22	山口県	萩市むつみ
3	福島県	小野町	13	岐阜県	可児市	23	香川県	高松市国分寺
4	埼玉県	久喜市栗橋	14	静岡県	牧之原市相良	24	福岡県	みやこ町豊津
5	埼玉県	松伏町	15	静岡県	磐田市竜洋	25	長崎県	南島原市加津佐
6	千葉県	成田市大栄	16	三重県	伊勢市御園	26	長崎県	時津町
7	茨城県	五霞町	17	三重県	志摩市志摩	27	大分県	中津市耶馬溪
8	茨城県	石岡市	18	兵庫県	養父市おおや	28	熊本県	津奈木町
9	栃木県	さくら市喜連川	19	岡山県	美作市作東	29	鹿児島県	さつま町
10	長野県	阿南町	20	岡山県	奈義町	30	鹿児島県	奄美市笠利

① 配備式の実施

全8カ所の海洋センターで救護室の配備式を実施し、NHKなどをはじめとしたTV3社、新聞2社のマスコミにも取り上げていただいたことで、地域住民の方々に幅広く周知することができた。

【配備式の様子】



奈義町B&G海洋センターでの配備式



救護室内を見学する子どもたちとNHK取材の様子

②設置した海洋センターの満足度

救護室としての活用のみならず、熱中症患者がいない場合は、保護者の観覧席やプール監視員の休憩場所として使用するなどの用途にも対応することができ、設置したセンターからは下記のような声が多くあった。

【設置海洋センターからの感想】

- ・救護室があることで、安心してプールで泳ぐことができた。
- ・見学者や引率の保護者の方に大変喜ばれた。特に乳幼児を連れている方には好評であった。
- ・プール監視員の休憩場所としても利用し、安心安全な労働環境を提供できた。
- ・大会の際に来賓控室としても活用でき、様々な用途があると感じた。

（４）障害者スポーツ推進プロジェクトの実施（スポーツ庁受託事業）

この事業は、障がい者は健常者に比べ、スポーツ実施率が低い傾向があるという社会課題をうけ、地域の障がい者が海洋センターで継続的に多様なスポーツや身体活動を楽しめる環境を整えることで、障がい者のスポーツ実施率向上と、地域の障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむ機会を提供することで、障がい者への理解を図ることを目的に、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」の受託事業として実施した。



障がい児対象ヒップホップダンスクラブ
（高松市国分寺）

事業開始年度 2022年度（2年目）

目的 障がい者が継続的に多様なスポーツや身体活動を楽しめる環境を海洋センターに整えることにより、障がい者のスポーツ実施率向上と、地域の障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむ機会を提供することで、障がい者への理解を図り、共生社会実現への一助とする。

目標 各実施地におけるインクルーシブな環境と機会の提供

- ・海洋センターでのインクルーシブクラブの立上げと実施：4カ所
- ・障がい者等の参加者数：700人
- ・指導者研修参加者：50人
- ・ステークホルダーとの関係性構築
- ・健常者の障がい者理解、共生社会への意識向上：80%以上
- ・教室満足度：80%以上
- ・スポーツへの意識変容 等

実績

①実施センター

- ・南砺市福野B&G海洋センター
- ・上郡町B&G海洋センター
- ・周防大島町B&G海洋センター
- ・高松市国分寺B&G海洋センター

②主な事業内容

ア. 「B&Gインクルーシブクラブ」の実施

地域の障がい者福祉団体や放課後等デイサービスなどと連携し、「インクルーシブクラブ」として、障がい者や障がい児への定期的なスポーツ教室や、障がい者と健常者が合同で参加するパラスポーツ体験会等を実施。福祉施設職員等を含め、年間延2,482人（うち、障がい者1,138人）が参加した。

イ. 「インクルーシブイベント」の開催

地域における共生社会の実現に向けた取組みの一つとして、障がい者と健常者がともにスポーツなどを楽しむ交流会「インクルーシブイベント」を開催。障がい者と地域住民がスポーツを通じて交流することで、障がいについて考え、理解を深める機会とすることを目的に実施し、障がい者94人を含む地域住民等460人が参加した。



障がい者福祉施設に通っている方を対象に定期的なスポーツクラブを開催（周防大島町）



障がい児対象トランポリン教室（南砺市福野）

【実施内容】

センター名	日時	主な内容	参加者数
南砺市福野	2024年2月23日	障がいのある子どもも無い子どもも一緒に楽しめる変則ルールを導入した運動会	70人（障がい者19人含む）
上郡町	2024年1月20日	車いすバスケットボール・3×3体験交流会	108人（障がい者5人含む）
周防大島町	2024年2月9日	3×3、パラスポーツ（ボッチャ・モルック）交流会	132人（障がい者30人含む）
高松市国分寺	2024年1月28日	ヒップホップダンス発表会、パラスポーツ交流会	150人（障がい者40人含む）



車イスバスケットボール（上郡町）



○▲□運動会（南砺市福野）



パラスポーツ交流会（周防大島町）



ヒップホップダンス発表会（高松市国分寺）

ウ. 指導者・ボランティア研修会

地域の障がい者スポーツを支える人材とインクルーシブクラブの運営協力者を育成するため、障がい者スポーツ等についての知識と技術を学ぶ研修会を開催。合計9回開催し、109人が参加した。

(5) 海洋センターの評価と表彰

この事業は、海洋センターの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による評価を2002年度より実施。年度ごとに、海洋センター個々の評価結果を公表している。

○評価別 海洋センター数 (2022年度実績)

特A	A	B	C	D	E
337	56	47	18	2	2

優良海洋センターの表彰 (特A・A)

「第16回B&G全国サミット」で、2022年度の年間評価において、「特A」評価を獲得した337カ所、「A」評価の56カ所、今回新たに10年連続で「特A」評価を獲得した10カ所、20年連続「特A」評価を獲得した南部町名川、久喜市栗橋を表彰した。

○20年連続「特A」評価獲得センター一覧 (2022年度実績)

	道府県	センター名
1	青森県	南部町名川
2	埼玉県	久喜市栗橋

○10年連続「特A」評価獲得センター一覧 (2022年度実績)

	道府県	センター名		道府県	センター名
1	青森県	鶴田町	6	島根県	松江市宍道
2	岩手県	一関市藤沢	7	愛媛県	鬼北町広見
3	福島県	塙町	8	福岡県	築上町築城
4	千葉県	成田市大栄	9	佐賀県	太良町
5	三重県	志摩市志摩	10	鹿児島県	南さつま市坊津

2022年度 海洋センター評価 『特A』 評価一覧

■2022年度 「特A評価」 海洋センター 337カ所／465カ所

赤 10年以上連続特A 青 9年連続特A 緑 8年連続特A

【評価期間】 2022年4月1日～2023年3月31日

ブロック	道府県	センター名	連続数	ブロック	道府県	センター名	連続数	ブロック	道府県	センター名	連続数				
北海道	北海道	砂川市	15	東北	宮城	登米市中田	5	関東	千葉	大多喜町	13				
		小平町	9			57	涌谷町			1	112	香取市栗源	7		
		厚岸町	12			58	亘理町			14	113	南房総市千倉	4		
		剣淵町	13			59	松島町			5	114	成田市大栄	10		
		大樹町	15			60	川崎町			14	115	香取市山田	6		
		鷹栖町	14			61	大郷町			13	116	銚南町	14		
		斜里町	12			62	大崎市松山			7	117	横芝光町光	15		
		愛別町	14			63	蔵王町			16	118	胎内市中条	14		
		遠別町	9			64	登米市迫			5	119	阿賀町三川	1		
		新篠津村	8			65	加美町中新田			6	120	佐渡市小木	9		
		大空町東藻琴	13			66	能代市			6	121	燕市	11		
		北竜町	9			67	にかほ市金浦			2	122	阿賀野市安田	1		
		下川町	4			68	男鹿市			11	123	上越市頸城	7		
		東神楽町	8			69	横手市十文字			1	124	糸魚川市能生	1		
		名寄市風連	12			70	由利本荘市西目			9	125	新潟市中之口	8		
		積丹町	14			71	由利本荘市大内			5	126	新潟市味方	9		
		名寄市	8			72	八郎潟町			4	127	新潟市新潟	9		
		和寒町	2			73	大仙市神岡			3	128	佐渡市羽茂	8		
		芦別市	9			74	大潟村			1	129	砺波市	12		
		長万部町	5			75	由利本荘市由利			8	130	南砺市福野	16		
		上富良野町	9			76	にかほ市象潟			13	131	高岡市福岡	1		
		東川町	5			77	山形			舟形町	11	132	富山市八尾	9	
		美幌町	14			78				酒田市平田	12	133	石川	穴水町	15
		大空町女満別	13			79	福島			柳津町	6	134		志賀町富来	13
		石狩市	16			80				小野町	16	135	白山市鶴来	6	
		浦臼町	13			81				塙町	10	136	福井	越前町朝日	1
		秩父別町	5			82	田村市滝根			6	137	勝山市		6	
		沼田町	12			83	茨城			かすみがうら市千代田	5	138		あわら市金津	5
		岩見沢市栗沢	4			84				笠間市岩間	2	139	大野市	12	
		苫前町	12			85				小美玉市玉里	5	140	坂井市春江	7	
		滝川市	21			86				八千代町	4	141	坂井市丸岡	9	
		古平町	13			87				北茨城市	11	142	山梨	甲州市勝沼	1
		室蘭市	7			88				石岡市	7	143		中央市玉穂	1
弘前市	12	89	五霞町	13	144	山梨市牧丘		13							
五所川原市市浦	4	90	小美玉市小川	7	145	南アルプス市白根		13							
平川市尾上	9	91	常陸太田市水府	7	146	甲斐市敷島		12							
鶴田町	10	92	栃木	下野市国分寺	12	147		甲斐市双葉	13						
南部町名川	20	93		那須烏山市南那須	13	148	甲州市塩山	13							
平内町	6	94		さくら市喜連川	4	149	中部	大町市	13						
五所川原市金木	3	95	那須塩原市塩原	4	150	下條村		4							
六戸町	13	96	芳賀町	17	151	白馬村		11							
中泊町中里	2	97	群馬	板倉町	1	152		飯綱町牟礼	2						
弘前市岩木	7	98		みなかみ町新治	5	153		飯島町	7						
山田町	5	99	明和町	16	154	上松町		8							
久慈市山形	14	100	玉村町	16	155	生坂村		8							
一関市東山	11	101	埼玉	吉見町	9	156		飯綱町三水	7						
岩泉町	3	102		幸手市	4	157		阿南町	1						
洋野町種市	9	103		嵐山町	8	158		松本市波田	14						
八幡平市松尾	1	104	久喜市栗橋	20	159	可児市	16								
大船渡市三陸	7	105	松伏町	13	160	川辺町	8								
普代村	1	106	白岡市	13	161	八百津町	17								
奥州市前沢	11	107	千葉	いすみ市	8	162	中津川市福岡	9							
花巻市東和	1	108		御宿町	6	163	御嵩町	12							
一関市藤沢	10	109		横芝光町横芝	15	164	富加町	9							
陸前高田市	5	110		香取市小見川	13	165	中津川市加子母	12							

	ブロック	道府県	センター名	連続数		ブロック	道府県	センター名	連続数		ブロック	道府県	センター名	連続数
166	中部	岐 阜	中津川市付知	12	224	中国	鳥 取	北栄町北条	13	282	四国	愛 媛	愛南町御荘	19
167			掛川市大東	11	225			伯耆町岸本	13	283			今治市朝倉	9
168		掛川市	15	226	島 根		松江市松江	8	284	高 知		津野町東津野	14	
169		磐田市竜洋	1	227			江津市桜江	14	285			四万十町窪川	15	
170		川根本町本川根	7	228			浜田市三隅	14	286		柳川市大和	2		
171		牧之原市相良	13	229			雲南市加茂	17	287		宗像市玄海	4		
172		松崎町	1	230			美郷町邑智	1	288	宮若市宮田	1			
173		掛川市大須賀	1	231			松江市宍道	10	289	みやこ町犀川	1			
174		袋井市袋井	2	232			岡 山	岡山市建部	7	290	福 岡	大任町	9	
175		御前崎市	3	233				備前市吉永	11	291		築上町築城	10	
176		沼津市戸田	9	234				真庭市蒜山	1	292		みやこ町豊津	5	
177		浜松市三ヶ日	5	235				新見市哲多	5	293		久留米市三潴	8	
178		新城市作手	13	236	井原市美星			8	294	川崎市		7		
179		東栄町	13	237	津江市加茂			11	295	朝倉市甘木		14		
180		清須市春日	3	238	浅口市寄島			1	296	佐 賀		太良町	10	
181		西尾市一色	5	239	美作市作東			4	297			神埼市	15	
182		豊川市小坂井	9	240	井原市井原			12	298			鹿島市	7	
183		大台町	6	241	奈義町			13	299			みやき町北茂安	5	
184		大紀町大内山	7	242	瀬戸内市長船		5	300	北九州	南島原市加津佐	8			
185		桑名市長島	13	243	瀬戸内市邑久		16	301		佐世保市小佐々	4			
186		伊勢市御菌	5	244	矢掛町		14	302		南島原市西有家	6			
187		菰野町	13	245	鏡野町		14	303		平戸市生月	6			
188		熊野市紀和	14	246	赤磐市吉井		13	304		時津町	15			
189		志摩市志摩	10	247	新見市大佐		6	305		大 分	杵築市	6		
190	伊賀市大山田	3	248	広 島	府中市	19	306	国東市武蔵	2					
191	伊賀市阿山	2	249		東広島市黒瀬	11	307	由布市湯布院	1					
192	志摩市浜島	3	250		呉市蒲刈	4	308	宇佐市安心院	1					
193	亀山市関	13	251		安芸高田市高宮	7	309	日田市天瀬	5					
194	野洲市中主	13	252		尾道市向島	3	310	中津市耶馬溪	11					
195	米原市山東	15	253		北広島町大朝	1	311	国東市国見	6					
196	多賀町	9	254		安芸高田市八千代	5	312	竹田市直入	7					
197	高島市高島	6	255		安芸高田市美土里	1	313	豊後高田市真玉	2					
198	甲賀市甲南	3	256		北広島町芸北	7	314	由布市挾間	4					
199	米原市伊吹	13	257		東広島市安芸津	11	315	熊 本	長洲町	13				
200	長浜市浅井	7	258	山 口	萩市むつみ	3	316		津奈木町	12				
201	高島市今津	15	259		田布施町	5	317		湯前町	14				
202	甲賀市甲賀	6	260		長門市日置	8	318		菊池市泗水	8				
203	南丹市園部	2	261		周防大島町	17	319		熊本市城南	1				
204	宮津市	2	262		岩国市美和	2	320		玉名市岱明	8				
205	堺市美原	12	263		徳 島	阿南市那賀川	8		321	南関町	7			
206	南あわじ市南淡	16	264			徳島市	15		322	南阿蘇村白水	6			
207	穴栗市千種	7	265			阿南市	8		323	宇城市三角	5			
208	新温泉町浜坂	3	266			牟岐町	4		324	菊池市旭志	7			
209	豊岡市出石	7	267			東みよし町三加茂	1	325	あさぎり町免田	2				
210	市川町	1	268	美波町由岐		7	326	南九州	宮崎市田野	5				
211	養父市おおや	11	269	那賀町鷺敷		12	327		いちき串木野市串木野	16				
212	上郡町	15	270	海陽町海南		8	328		長島町	15				
213	豊岡市竹野	3	271	四国		さぬき市津田	3		329	阿久根市	11			
214	香美町香住	15	272			小豆島町内海	14		330	鹿屋市串良	1			
215	姫路市家島	7	273		さぬき市寒川	5	331		さつま町	14				
216	淡路市東浦	1	274		綾川町綾上	5	332		日置市東市来	15				
217	芦屋市	1	275		高松市国分寺	7	333		天城町	12				
218	猪名川町	14	276		三木町	7	334		南さつま市坊津	10				
219	和歌山	串本町	14		277	今治市吉海	4		335	与論町	14			
220	中国	鳥 取	鳥取市		12	278	愛 媛	久万高原町久万	4	336	奄美市笠利	7		
221			鳥取市佐治		2	279		松山市中島	16	337	名護市	3		
222			鳥取市気高		3	280		鬼北町広見	10					
223			鳥取市鹿野	3	281	西条市丹原		7						

2022年度 海洋センター評価 「A」 評価一覧

■2022年度 「A評価」 海洋センター 56カ所／465カ所

	ブロック	道府県	センター名
1	北海道	北海道	せたな町
2			枝幸町歌登
3	東北	青森	十和田市
4		岩手	盛岡市玉山
5			九戸村
6		宮城	仙台市泉
7		秋田	潟上市天王
8			湯沢市
9		福島	本宮市白沢
10	関東	栃木	鹿沼市栗野
11	北陸	新潟	阿賀町津川
12		秋田	阿賀町上川
13		富山	上市町
14		石川	七尾市
15		福井	永平寺町松岡
16	中部	長野	飯田市南信濃
17			長和町和田
18			山形村
19			松本市四賀
20		岐阜	恵那市明智
21			高山市国府
22			恵那市山岡
23		静岡	富士宮市芝川
24			浜松市天竜
25		三重	いなべ市大安
26	松阪市飯高		
27	近畿	京都	京丹波町和知
28		大阪	能勢町

	ブロック	道府県	センター名
29	近畿	兵庫	神河町神崎
30			丹波篠山市
31			丹波市山南
32			宍粟市波賀
33			奈良
34	曽爾村		
35	和歌山	広川町	
36	中国	鳥取	倉吉市関金
37		島根	西ノ島町
38		岡山	浅口市鴨方
39			和気町佐伯
40		四国	香川
41	三豊市財田		
42	愛媛		今治市大三島
43	高知		東洋町
44	北九州	福岡	みやま市高田
45			飯塚市穂波
46			みやま市瀬高
47			福智町金田
48			築上町椎田
49	南九州	宮崎	日南市南郷
50		鹿児島	南九州市知覧
51			薩摩川内市樋脇
52			南大隅町佐多
53			志布志市有明
54			薩摩川内市上甕
55		沖縄	本部町
56	伊江村		

(6) 海洋クラブの評価と表彰

海洋クラブの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による海洋クラブの評価を2003年度から行っている。

2022年度評価において「特A」評価を獲得した75クラブに対して表彰状を送付した。

2022年度「特A」評価海洋クラブ一覧

	道府県	クラブ名		道府県	クラブ名
1	北海道	小平	39	兵庫県	神戸
2	北海道	滝川	40	和歌山県	和歌浦
3	北海道	函館水産高等学校	41	島根県	桜江
4	青森県	尾上	42	島根県	三隅
5	青森県	弘前	43	岡山県	矢掛
6	宮城県	石巻ひたかみ水の里	44	岡山県	瀬戸内
7	山形県	徳良湖	45	広島県	黒瀬安芸津
8	茨城県	土浦	46	広島県	江田島
9	茨城県	龍ヶ崎市 USC	47	山口県	大島
10	栃木県	下野市国分寺	48	山口県	光スポーツ交流村
11	群馬県	吉井	49	香川県	香川国分寺
12	群馬県	明和	50	香川県	三木
13	埼玉県	埼玉	51	香川県	池田
14	千葉県	香取市小見川	52	香川県	高松
15	神奈川県	江の島	53	愛媛県	松山
16	神奈川県	葉山	54	愛媛県	中島
17	神奈川県	HONKI University	55	愛媛県	大三島
18	神奈川県	湘南バディ冒険団	56	愛媛県	御荘
19	新潟県	頸城	57	愛媛県	新居浜
20	富山県	砺波	58	高知県	YASU
21	富山県	福野	59	高知県	くろしお
22	富山県	富山	60	福岡県	津屋崎
23	福井県	あわら	61	福岡県	福岡ジュニアヨット
24	福井県	坂井市わんぱく	62	佐賀県	神埼
25	福井県	おおの	63	長崎県	加津佐
26	山梨県	やまなし	64	長崎県	時津
27	山梨県	南アルプス	65	熊本県	長洲
28	長野県	上松	66	大分県	別府
29	長野県	生坂	67	大分県	耶馬溪
30	静岡県	御前崎	68	宮崎県	宮崎シーライオン
31	静岡県	海クラブ伊豆	69	宮崎県	トトロ
32	愛知県	作手	70	宮崎県	日向市サーフィン
33	三重県	かわげ	71	鹿児島県	錦江湾
34	滋賀県	中主	72	鹿児島県	アマニコ
35	滋賀県	KARAHASHI	73	鹿児島県	大崎わんぱーく
36	兵庫県	伊丹	74	鹿児島県	あくね夢まち
37	兵庫県	家島	75	沖縄県	自然体験学校
38	兵庫県	兵庫ジュニア			

●評価別 海洋クラブ数（2022年度実績）

特A	A	B	C	D	E（休部）
75	30	53	26	66	19

（7）その他の支援事業

①マリンスポーツ技能認定

この制度は、カヌー・ヨット等の技能認定基準を設けることにより、海洋センター・海洋クラブで日頃から活動する子どもたちの活動意欲と技能向上を図り、海洋センター・クラブの活性化に寄与することを目的に実施している。

実績

海洋センター利用者および海洋クラブ員に対しカヌー、ヨット、水泳の技術を認定する技能認定テストを海洋センター・クラブに委託して実施した。

種別	申請センター・クラブ数	参加者数
技能認定書	49海洋センター	1,950人

実施内容

技能認定種類	概要
カヌー	技術レベルに応じて1級から5級を認定
OPヨット	
水泳	技術レベルに応じて1級から10級を認定
総合	全種目の総合的な技術レベルとして1級から5級を認定

②会長賞・賞状等の交付

この制度は、ブロック・道府県連絡協議会および、海洋センター・クラブ等にて開催されるB&G財団会長賞の各種大会を奨励し、「表彰状」を交付することで海洋センター・クラブの活性化に寄与することを目的に実施している。

実績

海洋センター・クラブが開催する「B&G財団会長賞」（大会）に賞状を交付した。

種別	申請センター・クラブ数	参加者数
B&G財団会長賞	122海洋センター	11,110人



第37回B&G財団会長杯卓球大会
（久万高原町久万）

③誰もが参加できるレクリエーション大会 「B&Gチャレンジ」

このイベントは、海洋センターをこれまでのスポーツ振興の場にとどまらず、子どもからお年寄りまで「誰からも親しまれ、気軽に集え楽しめる」場所へと変化させることを目的に、体育館24種目とプール6種目の簡単なレクリエーションゲームを提供するものである。

実績

子どもからお年寄りまで3,283人が参加した。

種別	申請センター・クラブ数	参加者数
B&Gチャレンジ	143海洋センター	3,283人



洋野町種市B&G海洋センターでの様子

④2023年度プールカヌー・SUPタイムトライアル

この事業は、B&G全国指導者会との共催で、海洋センター利用者、海洋クラブ員、B&G指導者等を対象に、25mプールを独自のルールで周回するカヌーとSUPのタイムレースを実施するものである。

事業開始年度 2018年度（6年目）

目的 全国の海洋センターのプールを活用して、誰でも気軽に参加できる「タイムトライアルレース」を通じて、海洋センター利用者の方々に、定期的にカヌーやSUPに乗艇する機会を増やすことで、日頃から海洋性レクリエーションに親しむ機会を提供する。

実績

82海洋センター・クラブから、487人が参加した。



SUP小学生の部



カヌー小学生の部

2023年度の記録

カヌーの部

部門	参加者数	部門優勝者	センター・クラブ名
小学生男子の部	109	松下 莉仁	B&G御荘海洋クラブ
小学生女子の部	60	沖野 波名	松山市中島B&G海洋センター
中学生男子の部	27	須藤 快	平川市尾上B&G海洋センター
中学生女子の部	14	谷口 はるか	堺市美原B&G海洋センター
高校生男子の部	5	井谷 隼翔	堺市美原B&G海洋センター
高校生女子の部	3	酒井 ののか	堺市美原B&G海洋センター
一般男子の部	49	松原 秀知	堺市美原B&G海洋センター
一般女子の部	24	酒井 愛子	堺市美原B&G海洋センター

SUPの部

部門	参加者数	部門優勝者	センター・クラブ名
小学生男子の部	56	山下 桔平	日置市東市来B&G海洋センター
小学生女子の部	45	森 彩千花	日置市東市来B&G海洋センター
中学生男子の部	9	竹谷 璃飛	B&G弘前海洋クラブ
中学生女子の部	9	菅原 一華	B&G弘前海洋クラブ
高校生男子の部	8	上田 朔太郎	北広島町芸北B&G海洋センター
高校生女子の部	1	三鼓 和奏	井原市井原B&G海洋センター
一般男子の部	48	今井 亮	富山市八尾B&G海洋センター
一般女子の部	20	長松 夏乃	御前崎市B&G海洋センター

4

誰もが海に親しめる事業の推進

日本は、海から多くの恵みを享受してきたが、学校や地域において海の大切さ・魅力を十分に伝えきれず、近年は海水浴人口の減少など「海離れ」が加速している。

そこで、全国の学校や海洋センター・クラブ所在自治体などの地域と連携し、気軽に楽しみながら「海の安全」や海洋に関する国民の理解と関心を深めるため、水辺の安全学習や清掃活動、海洋性レクリエーション体験を行い、誰もが海に親しめる事業を推進している。

(1) 学校・地域への「海の日」と「海の安全」教育を推進する事業の 全国開催（海と日本PROJECT 日本財団助成事業）

この事業は、全国の学校や海洋センター・クラブ所在自治体などの地域と連携し、気軽に楽しみながら「海の日」や「海の安全」などについて学ぶ機会を提供することで、「海」に対する理解促進を図り、誰もが海に親しめる事業を推進した。

事業開始年度 2015年度（9年目）

目的 安全に楽しく海などの水辺で遊べる子どもを育成することを目的に、全国の海洋センタープール等を会場に、カヌー体験や着衣泳、ライフジャケット浮遊体験、落水時の対処法などの実体験を基に「海の日」と「海の安全」について学ぶ「水辺の安全教室」を開催した。

また、新たに新規登録の海洋クラブに対して、水辺の安全教室プログラムの説明、実技指導のノウハウ、教材ツール等を提供した。

目標 313,000人

実績

①学校プール・教室等での安全教室

海洋センター所在自治体の小学校等のプールにおいて、「水辺の安全教室」を開催した。

学校数：1,108校

参加者数：82,204人

②教員を対象とした研修会の開催

実施数：76センター・2クラブ

参加者数：233校・613人

③水辺の安全学習アプリによる安全教育

時期：通年

対象：全国の小学校児童

参加者：268校・28,761人



学校プールでの背浮き体験



水辺の安全学習アプリ

④全国の海洋センター・海洋クラブでの開催

「海の日」に対する理解を深め、海や水辺での安全教育を広く普及するため、全国の海洋センター・クラブにおいて「水辺の安全教室」を実施した。

時期：通年

実施数：425センター・37クラブ

参加者数：62,249人



クラス全員で
ライフジャケット浮遊体験



海洋クラブでのライフジャケット
浮遊体験



ライフジャケットの着方

⑤財団事業等での実施

B&G財団の主催事業のほか、自治体等との共催、協力事業において「水辺の安全教室」を行い、17事業に23,795人が参加した。

⑥地域住民への安全啓発

全国の海洋センター所在自治体の住民に対し水辺の安全知識を啓発するため、16自治体で広報誌やケーブルテレビによる、水辺の啓発が実施された。

水辺の安全教室 参加者総数

項目	参加者数
海洋センター・海洋クラブ	62,249人
学校（都内）	6,815人
学校（全国）	84,508人
学校（教員研修等）	613人
学校（学習アプリ）	122,761人
財団事業等	23,795人
合計	300,742人

(2) 海の日に関するイベント「砂ASOBeach」の開催 (海と日本PROJECT 日本財団助成事業)



これまで、海に入らなくても、水着にならなくても海で遊べるイベントとして実施してきたが、水上遊具やメガサップ等小さな子どもでも手軽に水上を楽しめる器材の普及により、プログラムを拡大し、海でも楽しめるプログラムを加えて、全国18カ所で開催。多くの人たちに海や水辺に親しむ機会を提供した。

事業開始年度 2017年度（7年目）

目 的 海水浴場や湖沼の岸辺等で、砂浜や水辺で楽しく遊べるイベント「砂ASOBeach」を開催し、海への理解を深めるとともに、海に親しむことによって、海離れの解消に繋げる。

目 標 参加人数 6,000人

実 績 参加人数 10,157人

実施箇所数 18カ所

【実施プログラム】

ビーチフラッグス・ビーチヨガ・水鉄砲バトル・水上ござ走り・カヤック体験・ハンザヨット体験・バナナボート体験・BIGSUP体験・スパイクボールラリー・ウォータースライダー・スイカボーリング・アクアポタリング・牡蠣殻キャンドル・クリーン活動・水辺の安全教室 ほか

【実施場所】

	センター・クラブ	日程	参加者	区分
1	B&Gあくね夢まち海洋クラブ	2023年7月17日	597人	新規
2	B&G別府海洋クラブ	2023年7月17日	1,077人	新規
3	函館水産高等学校B&G海洋クラブ	2023年8月11日	394人	新規
4	B&G横浜海洋クラブ	2023年8月12日・8月19日	362人	新規
5	志摩市浜島B&G海洋センター	2023年8月20日	639人	新規
6	長島町B&G海洋センター	2023年9月16日	686人	新規
7	B&G江田島海洋クラブ	2023年6月18日・9月24日	490人	継続
8	豊後高田市真玉B&G海洋センター	2023年7月16日	190人	継続
9	熊野市紀和B&G海洋センター	2023年7月29日	228人	継続
10	B&G琴ヶ浜海洋クラブ	2023年7月30日	777人	継続
11	B&G徳良湖海洋クラブ	2023年8月6日	522人	継続
12	与論町B&G海洋センター	2023年8月11日	570人	継続
13	南島原市加津佐B&G海洋センター	2023年8月13日	1,014人	継続
14	新温泉町浜坂B&G海洋センター	2023年8月26日	984人	継続
15	天城町B&G海洋センター	2023年8月26日	360人	継続
16	KARAHASHI B&G海洋クラブ	2023年9月18日	873人	継続
17	B&G神戸海洋クラブ	2023年9月24日	220人	継続
18	B&G大崎わんぱく海洋クラブ	2023年11月4日	174人	継続



バナナボート体験



ビーチフラッグス



SUP体験

(3) 海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動の実施 (海と日本PROJECT 日本財団助成事業)

本事業は、昨今世界的に深刻化している海洋ごみ問題について、特に水辺において多くの実践活動を行う海洋センター・クラブが一丸となって全国で取り組むべき社会課題と捉え、水上、水中、海浜、陸上などでの清掃活動や学びを深めるためのワークショップ等を実施する事業である。

事業開始年度 2019年度（5年目）

目的 海洋センター・クラブ等と連携し、全国各地で水辺等でのクリーン活動を展開することにより、水辺の環境保全、特に海洋ごみに関する知識・意識の向上を図るとともに、海洋ごみの削減に寄与する。

目標 ・強化期間での全国一斉清掃活動の開催 160カ所 17,000人
・海洋ごみ削減に向けた展示物の設置 全国500カ所

実績 ・強化期間での全国一斉清掃活動の開催 305カ所 18,143人
・海洋ごみ削減に向けた展示物の設置 全国545カ所

■海ごみゼロフェスティバルへの協力

日本財団と環境省により国民の一人ひとりが海洋ごみの問題を自分事化し、“これ以上海にごみを出さない”という社会全体の意識を高めることを目的に、海と日本プロジェクト「CHANGE FOR THE BLUE (チェンジ・フォー・ザ・ブルー)」において海洋ごみ対策プロジェクトが推進されている。B&G財団でもこの取り組みに賛同し、全国の海洋センター・クラブと共に海洋ゴミ削減に向けた取り組みとして今年度で5年目となる全国一斉清掃活動「海ごみ0（ゼロ）フェスティバル」を実施した。

多くの海洋センター・クラブから協力を得た結果、カヌー・SUP・OPヨット等を活用した水上清掃や海洋ごみに関するワークショップなど、各地で工夫しながら実施。その中で、「通常清掃の部」「ワークショップの部」「水上清掃の部」「特別賞」の4部門で表彰団体を選出し、記念品を授与した。

期 間：2023年5月27日（土）～6月11日（日）、9月16日（土）～9月24日（日）

参加人数：305カ所 18,143人

【表彰団体】

通常清掃の部	小豆島町内海B&G海洋センター（香川県）
この賞は、強化期間中に地域住民など、多くの人と一緒に活動した団体に贈られるもので、小豆島町内海B&G海洋センターは、参加人数合計が、1,275人と参加団体の中で最も多く、昨年に続いて2年連続の表彰となった。	
ワークショップの部	B&Gみえ海洋クラブ（三重県）
この賞は、学習効果が高くユニークなワークショップを実施した団体に贈られるもので、B&Gみえ海洋クラブは、スナメリ調査ツアーや漁船による海洋ごみ・海洋プラスチッククルーズなど、期間中合計8回の多様なワークショップを実施した。	
水上清掃の部	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ（兵庫県）
この賞は、期間中に水上に出た舟艇数がかつても多かった団体に贈られるもので、B&G兵庫ジュニア海洋クラブは合計5回舟艇数計149艇（OPヨット）という最多舟艇で清掃活動を実施した。	
特別賞	B&G海の森・山の森海洋クラブ（神奈川県）
この賞は、海洋ごみ問題に対し、特に顕著な活動をした団体に贈られるもので、B&G海の森・山の森海洋クラブは、強化期間中に計7日間で886人の参加があったとともに、年間を通じてEボートやSUPを用いた水上清掃を行ったほか、清掃活動以外にも環境写真展の開催や小学校へのマイクロプラスチック問題に関する出前授業を行うなど、様々な団体と協働しながら多種多様なアプローチで海洋ごみの削減に寄与したことから、特別賞に選出された。	



カヌー等舟艇を使用した水上清掃



OPヨットと救助艇を活用した活動の様子



流木を運ぶ幼児と中学生



全国一斉に行い海洋ごみ削減に寄与

(4) 海洋ごみ専用ごみ箱「B&G拾い箱」の設置 (海と日本PROJECT 日本財団助成事業)

当財団では、一時的な海岸清掃にとどまらず、地域住民をはじめ海を訪れた誰もがいつでも漂着ごみを回収できる環境を整えることで、それぞれの地域で海洋ごみの削減に取り組むことを目的に、海洋ごみ専用ごみ箱「B&G拾い箱」の設置を推進している。

事業開始年度 2021年度（3年目）

目的 海洋プラスチックごみによる海洋環境の汚染、生物・生態系への悪影響を解決するため、自治体と連携した海洋ごみ削減に向けた対策として、年間を通じて誰もが気軽に漂着ごみを回収することができる環境を整えることで、イベント参加者や地域住民等へ環境保全意識を醸成するとともに海洋ごみの削減に取り組む。

目標

- ・設置目標：5自治体
- ・年間での清掃活動等参加者数：1,000人/自治体

実績

- ・設置自治体数：5自治体
- ・年間での清掃活動等参加者数：6,276人（5自治体合計）

	都道府県	市町村名/クラブ名	設置数	お披露目会実施日	年間参加者数
1	岡山県	備前市	1	2023年10月29日（日）	1,003人
2	長崎県	時津町	1	2023年9月2日（土）	1,039人
3	熊本県	長洲町	1	2023年8月20日（日）	1,108人
4	鹿児島県	あくね夢まち海洋クラブ	6	2023年7月17日（月・祝）	1,800人
5	鹿児島県	天城町	2	2023年10月1日（日） 2024年2月23日（金・祝）	1,326人

【備前市】

地元の高校生がペイントした拾い箱のお披露目に併せて、缶バッチ作りや流木アートなどのワークショップを実施



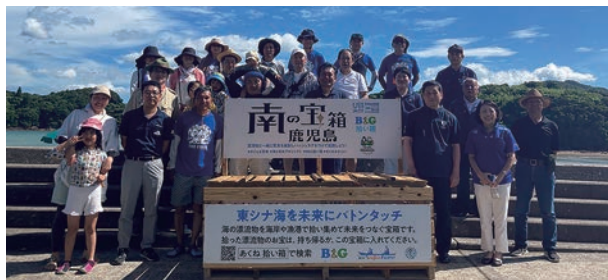
【時津町】

コンクリートブロックで作成し、様々なマリンスポーツプログラムを実施するマリンデーフェスタと同時に お披露目会を実施



【長洲町】

クジラやSDGsをデザインした拾い箱のお披露目に併せて拾い箱への筆入れや、助っ人指導員による海ごみ学習および海岸清掃やプラ板作成の実施



【あくね夢まち】

宝箱をモチーフにした木製の拾い箱のお披露目に併せて海岸清掃および砂ASOBeachの実施



【天城町】

インスタ映えスポットにもなっている色鮮やかな拾い箱のお披露目に併せてビーチクリーンやSUP体験会、サイクリングをしながらのごみ拾い等を実施



(5) 体験格差解消事業の実施

この事業は、子どもの頃の自然体験活動は、コミュニケーション能力や自尊心、規範意識の向上ほか、学力にも良い影響があると言われるなか、家庭的・経済的な理由により、自然体験活動の参加機会が少ない子どもたちなどを対象に実施している。

① 海洋センター・クラブでの体験格差解消事業

事業開始年度 2018年度（6年目）

目的 家庭的・身体的な理由により、子どもの成長に欠かせない自然体験に参加することが困難な子どもたちが増えており、「体験格差」が社会課題となっている。障がい児や児童養護施設の子どもの対象に、海洋センターや海洋クラブを拠点に水辺の自然体験のきっかけとなる導入プログラムを実施することで、体験機会が少ない子どもたちの水辺への興味関心を引き出し、さらに自然体験活動を推進していくことを目的とする。

実績 57海洋センター・クラブで「体験格差解消事業」を131回実施し、2,712人が参加した。

実施センター一覧

	道府県	センター・クラブ名		道府県	センター・クラブ名		道府県	センター・クラブ名
1	青森県	弘前市	22	兵庫県	姫路市家島	40	福岡県	朝倉市甘木
2	秋田県	由利本荘市西目	23		上郡町	41		みやこ町犀川
3		にかほ市象潟	24		南あわじ市南淡	42		築上町築城
4	山形県	徳良湖海洋クラブ	25		新温泉町浜坂	43		築上町椎田
5	栃木県	さくら市喜連川	26	岡山県	備前市吉永	44	佐賀県	太良町
6	茨城県	龍ヶ崎市海洋クラブ	27		奈義町	45	長崎県	南島原市加津佐
7	千葉県	鋸南町	28		岡山市建部	46	大分県	竹田市直入
8	神奈川県	湘南バディ冒険団海洋クラブ	29	広島県	呉市蒲刈	47		中津市耶馬溪
9		HONKI University 海洋クラブ	30		府中市	48	熊本県	菊池市旭志
10	新潟県	胎内市中条	31	島根県	雲南市加茂	49		玉名市岱明
11		阿賀町三川	32		江津市桜江	50	長洲町	
12		上越市頸城	33		琴ヶ浜海洋クラブ	51	宮崎県	トトロ海洋クラブ
13	富山県	富山市八尾	34	山口県	長門市日置	52	鹿児島県	長島町
14		南砺市福野	35	香川県	三木町	53		奄美市笠利
15	石川県	穴水町	36		高松市国分寺	54		天城町
16	福井県	大野市	37		高松海洋クラブ	55		与論町
17	長野県	大町市	38	愛媛県	松山市中島	56		あくね夢まち海洋クラブ
18	静岡県	御前崎市	39	高知県	YASU海洋クラブ	57		錦江湾海洋クラブ
19	岐阜県	八百津町				58		アマニコ海洋クラブ
20	愛知県	新城市作手						

② 寄付金等を活用した体験格差解消事業

目的 障がい児や児童養護施設の子どもなど、身体的・経済的にハンディキャップのある子どもへ自然体験活動を提供することにより、体験格差解消を目指す。

実績 クラウドファンディングや寄付金、企業協賛などを募り、以下の3つの事業を実施し、合計174人が参加した。

ア。「児童養護施設の子供たちへ 絵日記に残る夏の思い出を贈りたい」プロジェクト

児童養護施設に入所する子どもたちを対象としたマリンスポーツ体験会。クラウドファンディングにて寄付金を募り実施した。

Aコース

期 日：2023年8月3日（木）

場 所：若洲ヨット訓練所（東京都江東区）

参加者：東京都、神奈川県内の児童養護施設（4カ所） 39人（子ども25人・施設スタッフ14人）

内 容：カヌー、SUP体験、ボート遊覧、セーリングカッター（ヨット）、水遊び

Bコース

期 日：2023年8月7日（月）

場 所：若洲ヨット訓練所（東京都江東区）

参加者：東京都内の児童養護施設（2カ所） 42人（子ども29人・施設スタッフ13人）

内 容：カヌー、SUP体験、ボート遊覧、セーリングカッター（ヨット）、水遊び



初めてのカヌー体験



SUPも楽しんだ



東京湾のクルージング

イ。「ひとり親家庭を対象としたマリンスポーツ体験会」

ひとり親家庭を対象としたマリンスポーツ体験会。寄付金（Yahoo!募金）を募り実施した。

期 日：2023年8月10日（木）

場 所：若洲ヨット訓練所（東京都江東区）

参加者：都内在住のひとり親家庭 親子18組38人（子ども20人、母親18人）

内 容：カヌー、スタンドアップパドルボード（SUP）体験、ボート遊覧、海遊び



お母さんと一緒にSUP体験



大人気のボート遊覧



飛び込みにも挑戦

ウ. 大成建設協賛「夏休みマリンスポーツ体験会」

障害のある子どもたちを対象としたマリンスポーツ体験会。本事業の趣旨に賛同いただいた大成建設株式会社の寄付金により実施した。

期 日：2023年8月25日（金）

場 所：鱈ヶ浦海水浴場（千葉県鋸南町）

参加者：障がい児28人、介助者・保護者27人 計55人

内 容：SUP（BIGSUP）、ビーチレク、海水浴



BIG SUP体験



ライフジャケットを着用し、浮かんでみます



鋸南の青い海に心も踊ります

5

指導者の養成と活用

(1) 海洋教育と地域の発展を担う人材の養成

海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動の提供および地域住民の健康づくり、地域コミュニティの活性化、地域社会への貢献や海洋センター施設の安全・安心な管理運営など、地域に対し多様かつ価値ある事業を提供し続けるため、B&G財団では、地域の発展を担うB&G海洋性レクリエーション指導員であるセンター・インストラクターの養成を推進している。

また、指導員の資質向上を図る目的で、「B&G指導員研修会」を開催し、基調講演や研修講義など、最新の知識や技術などを学ぶ機会を提供している。

※センター・インストラクター養成研修は環境省の「環境教育等促進法」に基づく人材認定事業である。

①センター・インストラクターの養成（日本財団助成事業）

この事業は、海洋センター・クラブで海洋性レクリエーションおよびプール活動等の実践的指導業務や、施設の効率的な運営に携わるとともに、海事知識の普及に努め、財団の事業プログラム等を習得して地域のニーズにあった青少年の健全育成と地域住民の健康づくりや地域の発展などを担う、B&G財団の定める「海洋性レクリエーション指導員」の一つの資格であるセンター・インストラクター（以下CE）指導員を養成する事業である。

事業開始年度 1976年度（48年目）

目的 海洋センター・クラブにおいて、海洋性レクリエーションや水泳の指導、水辺の安全教室の開催、施設の管理・運営等に携わり、青少年の健全育成をはじめとした地域住民の健康づくりの推進と、地域コミュニティの活性化を担う指導員を養成する。

目標 CE指導員養成数 80人

実績 研修内容：海洋性レクリエーション活動および水泳に係わる総合的な知識・技能ならびに安全管理を中心とした研修。

B&G財団概要、海洋性レクリエーション理論・実技、水泳理論・実技、安全管理、心肺蘇生法、施設の管理運営、指導実習、水辺の安全教室指導法、海の環境学習、財団が推進する事業（海ごみゼロ、障がい者スポーツ 他）等。

○第7回CE養成研修

日程：2023年6月4日（日）～7月6日（木）

開催場所：沖縄県本部町 マリンピアザオキナワ

修了人数：59人

○第8回CE養成研修

日程：2023年8月30日（水）～10月1日（日）

開催場所：鹿児島県天城町 天城町B&G海洋センター

修了人数：35人



開講式



集団行動法



心肺蘇生法講習

研修では、水泳・ヨット・カヌーなどの海洋性レクリエーション実技と指導法、心肺蘇生法やAED講習のほか、災害などに対応するための防災救助艇研修など、180時間以上のカリキュラムを履修。自然体験・環境教育を通じた青少年の健全育成や地域住民の健康づくりをはじめ、地域の活性化、地域の発展を担う指導員を養成した。



水泳実技



SUP実技



児童対象 指導実習



カヌー実技



ヨット実技

これまでの指導者養成数

指導員種別	センター・インストラクター	インストラクター	リーダー	合計
人数	4,180人	733人	17,441人	22,354人

②大学等と連携した人材育成

この事業は、大学等の教育機関との連携により、学生に対して財団の「リーダー」養成カリキュラムや「水辺の安全教室」、「カヌー実技」などのプログラムに基づく研修を行い、財団や海洋センターが実施する海洋性レクリエーション等事業や、地域の子どもたちを対象とした安全学習の指導・補助ボランティアとしての参画を促すことを目的としている。

事業開始年度 2017年度（7年目）

目的 武蔵丘短期大学と所在地の埼玉県吉見町およびB&G財団が締結したスポーツの振興や人材の育成等を目的とした地域連携協約に基づき、財団が学生に対し水辺の安全教育の研修を行い、受講した学生が吉見町内で開催される水辺の安全教室や水泳教室などの指導をボランティアとして担う。

実績

日 程：2023年7月8日（土）

場 所：武蔵丘短期大学 吉見キャンパス

参加者：武蔵丘短期大学 1・2年生 44人

内 容：財団事業説明、水辺の安全教育と指導法、カヌー体験



ライフジャケット浮遊体験



SUP体験

(2) B&G全国指導者会の活動促進（日本財団助成事業）

B&G財団では、これまでに養成してきた貴重な人的資源である「B&G指導員」を有効活用するため、現役の指導員やOB・OG、ボランティア、賛同者などで構成される指導者組織「地域指導者会」を海洋センターに設置し、各地域での海洋センター・クラブ活動の継続・活性化を促進している。

あわせて、地域指導者会の代表となる「全国指導者会」役員およびブロック責任者との連携のもと、全国指導者会の「活動方針・活動目標」を策定し、海洋センターの活動を側面支援する各種の取り組みを行っている。

事業開始年度 2007年度（17年目）

目的 地域指導者会の活動の活性化と指導者の資質向上を図るため、活動支援および各種指導員研修会の実施を行う。また、定期的に開催する正副会長会議およびブロック責任者会議を通じて、全国指導者会としての運営方針・活動目標の決定や活動の活性化に向けた対応を協議の上、方向性や活動目標を策定し、全国の海洋センター、地域指導者会、指導員等の実践活動を促す。

目標

- ・海洋性レクリエーション活動の年1回以上の実施、水辺の安全教室（実技）の年1回以上の実施
- ・海洋ごみ啓発および清掃活動の年1回以上の実施
- ・ブロック指導員研修会への年1回以上の参加
- ・「自然体験活動を通じた郷土教育」の推進、「食品ロス削減活動」への協力

実績

- ・海洋性レクリエーション活動：実施カ所数435カ所（目標達成率94.6%）
- ・水辺の安全教室（実技）：実施カ所数443カ所（目標達成率96.3%）
- ・海洋ごみ啓発および清掃活動：実施カ所数437カ所（目標達成率90.5%）
- ・ブロック指導員研修会：参加カ所数451カ所（目標達成率97.8%）
- ・自然体験活動を通じた郷土教育：実施カ所数271カ所
- ・食品ロス削減活動への協力：実施カ所数151カ所



2010年1月16日に全国指導者会設立



2019年、全ての海洋センターに地域指導者会が設置完了した

B&G全国指導者会 組織体制

○執行部

役職	道府県	センター	氏名
会長	青森県	南部町名川	工藤 祐直
副会長	静岡県	牧之原市相良	曾根 由多
副会長	熊本県	湯前町	工藤 陽平
副会長	東京都	B&G財団	中島 博臣

○アドバイザー

	道府県	センター	氏名
東日本	埼玉県	久喜市栗橋	川島 正光
西日本	徳島県	阿南市	金久 博

○ブロック責任者

ブロック	道府県	センター	氏名
北海道	北海道	大空町女満別	長尾 美和
東北	福島県	小野町	清野 昭雄
関東	群馬県	みなかみ町新治	林 登紀枝
北陸	福井県	大野市	飯田 史哉
中部	静岡県	掛川市大東	増田 一樹

ブロック	道府県	センター	氏名
近畿	兵庫県	南あわじ市南淡	前谷 光宣
中国	島根県	浜田市三隅	阿瀬川 文輝
四国	香川県	池田海洋クラブ	佐倉 亮
北九州	大分県	中津市耶馬溪	中村 大悟
南九州	熊本県	南阿蘇村白水	笠 健

B&G全国指導者会 ビジョン・基本方針・活動目標 (2023年度～2025年度)

ビジョン 未来を担う子どもたちのために 地域にとどけよう 笑顔と元気

基本方針

1. 地域指導者会の充実と会員の資質向上

- ・高齢者をはじめ地域住民を対象とした「リーダー研修」の開催など、新規会員の獲得に努めるとともに、他の地域指導者会と連携協力し、指導者会活動と組織の充実を図る。
- ・ブロック別指導員研修会の参加、地域指導者会で研修会実施、普通救命講習への参加など、指導者の資質の向上と自己研鑽に努める。

2. 海洋センター・クラブを拠点とした地域の活性化

(1) 自然体験活動の実践

- ・子どもたちや地域住民への海洋性レクリエーションや地域の自然環境などの特性を生かした様々な自然体験活動を行うとともにインクルーシブな体験活動を実践していく。

(2) 次代を見据えた地域貢献活動の実践

- ・海洋ごみの削減や食品ロスの解消に向けた取り組み、地域の課題に貢献する活動を積極的に推進する。

3. 活動の情報発信

- ・地域指導者会の活動情報を紙媒体やSNS等を活用して発信し、地域住民に周知を図る。

4. 災害時等における相互支援

- ・自然災害等により海洋センター所在市町村が被災した際は、可能な範囲で被災地域の復興に対する応援協力を行う。

①B&G全国指導者会「正副会長会議」の開催

B&G全国指導者会の「正副会長会議」を2回開催し、新たな3カ年の活動目標（2023年度～2025年度）における初年度の進捗確認や目標達成に向けた方策の検討、3カ年のロードマップや最終的な成果設定を議論するとともに、2024年度のプロック研修会の具体的実施方法や、次年度の活動計画・予算を協議・決定した。

	開催日・開催場所	議題・審議事項等
第1回	2023年12月12日（火） （熊本県南阿蘇村）	<ul style="list-style-type: none"> ▶2023年度事業進捗報告 ▶3カ年目標におけるロードマップと成果設定 ▶2024年度事業における郷土教育事業の位置づけ
第2回	2024年2月21日（水）・22日（木） （B&G財団会議室）	<ul style="list-style-type: none"> ▶2023年度事業報告・予算執行状況確認 ▶2024年度事業計画・予算書の策定 ▶全国指導者会 2024年度以降の活動計画について

②B&G全国指導者会「ブロック責任者会議」の開催

B&G全国指導者会の正副会長と全国10ブロックの責任者による会議を開催した。

会議では、新たな3カ年の活動目標（2023年度～2025年度）における初年度の実施状況確認や目標達成に向けたブロック、道府県やセンターでの具体的実施方法の検討、3カ年のロードマップや成果設定を協議・決定した。

期 日	2023年12月13日（水）～14日（木）
場 所	熊本県南阿蘇村
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ▶2023年度事業進捗報告 ▶ブロック・道府県での活動目標の推進方策 ▶3カ年目標におけるロードマップと成果設定 ▶2024年度事業における「自然体験活動を通じた郷土教育」の位置づけ ▶平成28年熊本地震復興状況視察
参加者	全国指導者会 正副会長 4人 ブロック責任者10人 B&G財団役員・事務局 4人 合計18人



2023年度ブロック責任者会議 最終日には、全国指導者会として復興支援を行った熊本県南阿蘇村の震災ミュージアムを視察

③全国10ブロックでの「ブロック指導員研修会」の開催

B&G指導員の資質向上と、2023年度からの新たな活動目標である「自然体験活動を通じた郷土教育」の趣旨・内容理解のため、各地の海洋センターにおける先行事例発表を共通テーマとし、全10ブロックで研修会を開催した。

ブロック	開催日	主 幹	会 場	内 容	参加率
					97.8%
北海道	9月7日	北海道 大空町	北海道 大空町	【郷土教育 事例発表】 ①遠別町 ②和寒町 ③大空町	100.0%
東北	5月23日	福島県 小野町	宮城県 松島町	【郷土教育 事例発表】 ①福島県小野町 ②青森県南部町名川 ③宮城県巨理町	100.0%
関東	10月20日	埼玉県 幸手市	埼玉県 幸手市	●講義：プラスチックごみ、マイクロプラスチック等について (講師：B&G海の森・山の森海洋クラブ 代表 豊田直之氏) 【郷土教育 事例発表】 ①群馬県みなかみ町 ②栃木県那須烏山市 ③埼玉県幸手市	100.0%
北陸	5月17日	新潟県 南魚沼市	福井県 福井市	●講義：地域の特性を活かし、四季を通じた自然体験活動による郷土教育の推進 (講師：一般社団法人環境文化研究所 代表理事 田中謙次氏) 【郷土教育 事例発表】 福井県大野市 (①大野市 ②石川県志賀町 ③新潟県胎内市)	100.0%
中部	5月12日	三重県 熊野市	三重県 熊野市	【郷土教育 事例発表】 ①三重県伊賀市 ②静岡県御前崎市 ※別途、海ごみ関連の講師講義も実施	97.2%
	9月29日		愛知県 名古屋市	●講義：郷土愛を育む地域性を活かした体験活動 (講師：NPO法人DIGtag 代表理事 佐々木善之氏)	—
近畿	5月30日	滋賀県 南丹市	滋賀県 南丹市	【郷土教育 事例発表】 ①京都府宮津市 ②兵庫県神戸市神崎 ③滋賀県米原市伊吹	97.7%
中国	5月25日 ～26日	山口県 周防 大島町	山口県 周防 大島町	●講義 (5/25)：最先端技術で取り組む海洋プラスチック問題(講師：JAMSTEC グループリーダー 松岡大佑氏) ●実技 (5/26)：安全管理座学、SUP・カヌー実技、ロープワーク、水上バイク救助とメンテナンス 【郷土教育 事例発表】 ①島根県浜田市三隅 ②岡山県奈義町 ③広島県呉市蒲刈 ④山口県周防大島町	98.1%
四国	5月9日	香川県 高松市 国分寺	香川県 高松市	【郷土教育 事例発表】 ①愛媛県久万高原町久万 ②高知県四万十町窪川 ③徳島県阿南市 那賀川 ④香川県三木町	100.0%
北九州	5月26日	大分県 由布市	大分県 由布市	【郷土教育 事例発表】 ①長崎県南島原市 ②佐賀県太良町 ③大分県中津市	100.0%
	10月11日 ～12日		大分県 中津市	●郷土教育 実践事業視察学習：親と子のふれあいキャンプ (大分県中津市耶馬溪)	—
南九州	5月26日	鹿児島県 阿久根市	鹿児島県 阿久根市	●講義：地域の特性を活かした郷土教育の推進 (講師：特定非営利活動法人まちづくり地域フォーラム 代表理事 東川隆太郎氏) 【郷土教育 事例発表】 ①鹿児島県天城町 ②熊本県南阿蘇村 ③宮崎県日南市	84.6%



④地域指導者会の活性化支援

ア. リーダー研修の開催による新たな指導者会会員とボランティアの養成

各地の海洋センターにおいて、地域指導者会の活動継続・活性化のために欠かせない新たなB&G指導員の養成を行った。

年度	2023年度	2022年度
新規登録者数	487人	352人

イ. お助け指導員の登録と活用

B&G指導員と指導者会のネットワークを活用し、それぞれの得意分野や指導経験を自己紹介形式で登録し、依頼に応じた連携協力を行う「お助け指導員」の登録と活用を行った。

年度	2023年度	2022年度
総登録者数	346人	280人
活用センター数	101センター	47センター

ウ. 10ブロックに配備した大型SUPの活用

海洋性レクリエーション活動の活性化に向け全国10ブロックに2艇ずつ配備した大型SUP器材は、ブロック各地の海洋センターへと貸し出しが行われ、活用されている。

年度	2023年度	2022年度
活用事業数	190事業	162事業
活用事業への参加者数	7,198人	5,757人

⑤地域指導者会と連携した学生等ボランティアの養成

より安全で活発な活動を子どもたちに提供すると共に、地域の様々な人材にボランティア経験、指導経験を提供することで、自治体・海洋センターの事業や「地域指導者会」の人材を充実していくことを目的に学生等ボランティアの養成を行った。

研修後には海洋センターや自治体が行う各種・通年のイベント、教室、社会教育事業への参画機会を提供し、学生自身の経験の場づくりや中高年らの居場所づくりと事業の活性化を図った。

対象：海洋センター・クラブ近隣の大学生、高校生、専門学校生
中高年・シニア世代・教員などの地域住民等

実施センター数：58センター

参加者：1,099人

研修内容：海洋性レクリエーション実技、安全管理の指導法、器材管理 等

⑥2023年度「B&G指導員研修会」の開催

この事業は、安全管理や指導法などの最新の知識や技能を学び、指導者の資質向上を図ることを目的に、全国のB&G指導者等を対象に毎年実施している事業である。

事業開始年度 2004年度～（20年目）

目的 海洋センター・クラブの指導者・担当者等を対象に指導技術や安全管理等の知識・情報を提供する研修会を開催し、指導員の資質向上を図る。

目標 B&G指導員に対し、指導技術や安全管理等の知識や情報を提供することにより、指導員の資質向上を図るとともに、参加者のニーズに合わせた講演や研修プログラムを実施し、参加者の高満足度を目指す。

参加者：200人

実績 コロナ禍により、4年ぶりの開催となった今回の研修会では、バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチのトム・ホーバス氏によるトークショーを皮切りに、7人の講師がリスクマネジメントやコーチングスキルほか、今後の地域スポーツのあり方などについての講義を実施。2日目については、選択制を導入し、参加者が講義を選択して受講できるスタイルを導入した。

日時：2024年1月30日（火）・31日（水）

場所：イイノホール&カンファレンスセンター

参加者：284人（240海洋センター・1サポーター）

テーマ：「多様化するこれからの時代に 求められる地域スポーツとは」



新たにイイノホールを会場として実施



参加者の様子



バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチのトム・ホーバス氏によるトークショー「名将トム・ホーバスから学ぶ」



藤田氏による講義



初日は、共通科目を実施



2日目は選択科目方式にて実施

■講義

	所属	氏名	講義内容
共通科目	バスケットボール男子 日本代表ヘッドコーチ	トム・ホーバス 氏	名将トム・ホーバスから学ぶ人の心を動かす コーチングスキル
	日本福祉大学スポーツ科学部 教授	藤田 紀昭 氏	多様な人々を受け入れるために～求められるス ポーツ指導のパラダイム変換～
	大阪体育大学大学院 スポーツ科学研究科 教授	土屋 裕睦 氏	コーチングの新しい潮流：NO！スポハラとプ レーヤーズセンタード
選択科目	(一社) 日本運動療育協会 代表理事	岡田 達雄 氏	発達が気になる子どもとの上手な関わり方
	大塚製薬(株) ニュートラシュー ティカルズ事業部	小森 みゆ 氏	熱中症のメカニズムと対策
	(一社) スポーツリレーション シップ協会 代表理事	藤代 圭一 氏	子どものやる気と自主性を引き出す質問
	ソフトバンク(株) コーポレート統括CRR本部 CSR企画統括部 CSR企画1部 次世代育成推進課 課長	宮川 拓也 氏	ICTを活用したスポーツの地域格差解消
	(株)千葉ジェッツふなばし アカデミー部 部長	田代 将也 氏	業務効率化により可能になった令和の指導改革

■事例発表

海洋センターの活動事例として事例発表を行った。

- ① 「自然体験活動を通じた浜田市の郷土教育について」
浜田市三隅B&G海洋センター 山田 憲司 氏
- ② 「障がい者スポーツに関わって、今思うこと」
御前崎市B&G海洋センター 土屋 あづさ 氏



海洋センター事例発表の様子

■全国指導者会からのお願い

最後に、B&G全国指導者会副会長の曾根由多 氏が全国指導者会のビジョン、基本方針、活動目標などを説明。指導者たちに協力を求めた。



曾根副会長による全国指導者会からの
依頼事項

6 B&G全国会議の開催

B&G財団と海洋センター所在自治体、そして自治体同士のネットワークを強化するとともに、各自治体の地域コミュニティの活性化と青少年の健全育成を図ることを目的に、全国の海洋センター所在自治体の首長や教育長をはじめ、海洋センター関係者を対象に各種会議を開催し、B&G財団の事業説明および他自治体の実践事例や海洋センターの新たな活用方法等の情報共有を行っている。

(1) B&G全国会議等による連携強化（日本財団助成事業）

①B&G全国サミット

青少年教育や少子化、高齢社会、地域活性化、障がい者差別の解消など、自治体が直面する様々な社会課題は、自治体単独で解決していくことは難しい。そこで、これらの諸問題に有効に取り組むことができるよう、B&G財団と海洋センター所在自治体が広く情報を共有し、連携を強化できる会議として開催している。

事業開始年度 2003年度（19年目）

目的 全国の海洋センター所在自治体執行部である首長等を対象とした会議を開催することにより、B&G財団と自治体をはじめ、自治体間の情報共有とネットワークを強化し、B&Gプランの推進を図ることを目的としている。

目標 財団事業理解促進のため、欠席自治体(2019年度実績15自治体)の減少を目指し、更なるネットワークの強化を図る。

実績 第16回「B&G全国サミット」テーマ 「魅力UPで地域活性化！～関係人口UPのために海洋センターができること～」

日時	2024年1月23日(火)		
場所	ベルサール汐留（東京都中央区）		
参加者	海洋センター関係	首長	243人
		副首長	26人
		教育長	176人
		代理等	246人
	来賓	来賓	21人
	報道関係者	報道関係	3人
	合計		715人



会議の様子

会議内容

内 容	講 演 者
【第一部】 1. 主催者挨拶 2. 「令和6年能登半島地震」災害支援について 3. 特別基調講演「日本の将来どうあるべきか」	B&G財団 会長 前田 康吉 B&G財団 理事長 菅原 悟志 日本財団 会長 笹川 陽平氏
【第二部】 4. B&G全国サミット正副会長の選任 5. 第20回B&G全国教育長会議 報告 6. 事例発表 海洋センターを活用した関係人口増加の取り組み 大分県中津市・長野県大町市 7. 財団事業紹介	千葉県成田市 教育長 関川 義雄氏 大分県中津市 市長 奥塚 正典氏 長野県大町市 市長 牛越 徹氏
【第三部】 8. 優良海洋センター表彰 9. B&G全国サミット共同宣言	



会議には243人の首長が出席した



優良海洋センターの表彰も実施



会場には10年連続「特A」の自治体PRブースを設置



令和6年「能登半島地震」災害支援「B&G フレンドシップ PROJECT 2024」の募金も行った

B&G全国サミット正副会長選任

今回新執行部として、会長に福井県大野市 石山 志保 市長、副会長に熊本県南関町 佐藤 安彦 町長、長野県白馬村 丸山 俊郎 村長が満場一致で選任された。



会長 福井県大野市 石山市長



副会長 熊本県南関町 佐藤町長



副会長 長野県白馬村 丸山村長

B&G全国サミット 共同宣言

石山会長が共同宣言について説明を行い、新たに以下の宣言が採択された。



第16回「B&G全国サミット」共同宣言

- 一. 海洋センターで地域の魅力発信
海洋センターを活用し、地域の魅力を生かした各種事業を実施することで、関係人口の拡大・地域活性化に繋げよう！

首長出席243自治体 ※滝川市除く

北海道	(26)	石狩市	芦別市	岩見沢市	室蘭市	砂川市	下川町	剣淵町	古平町
		厚岸町	愛別町	遠別町	斜里町	小平町	沼田町	上富良野町	浦臼町
		和寒町	大空町	大樹町	鷹栖町	秩父別町	東神楽町	苫前町	美幌町
		北竜町	新篠津村						
青森県	(3)	平川市	六戸町	中泊町					
岩手県	(4)	一関市	大船渡市	八幡平市	洋野町				
宮城県	(10)	大崎市	栗原市	登米市	川崎町	蔵王町	大郷町	加美町	松島町
		涌谷町	亘理町						
秋田県	(5)	にかほ市	潟上市	由利本荘市	八郎潟町	大潟村			
山形県	(1)	舟形町							
福島県	(4)	小野町	田村市	塙町	柳津町				
茨城県	(6)	かすみがうら市	行方市	常陸太田市	石岡市	北茨城市	五霞町		
栃木県	(4)	さくら市	下野市	那須烏山市	芳賀町				
群馬県	(3)	みなかみ町	板倉町	明和町					
埼玉県	(7)	吉見町	久喜市	幸手市	松伏町	神川町	白岡市	嵐山町	
千葉県	(8)	いすみ市	横芝光町	香取市	成田市	鋸南町	御宿町	大多喜町	長南町
新潟県	(5)	燕市	佐渡市	糸魚川市	胎内市	南魚沼市			
富山県	(2)	富山市	砺波市						

福井県	(6)	大野市	あわら市	勝山市	永平寺町	越前町	若狭町						
山梨県	(4)	山梨市	甲斐市	中央市	南アルプス市								
長野県	(8)	大町市	中野市	上松町	飯島町	富士見町	白馬村	山形村	下條村				
岐阜県	(7)	可児市	中津川市	恵那市	御嵩町	川辺町	八百津町	富加町					
静岡県	(4)	掛川市	磐田市	松崎町	川根本町								
愛知県	(4)	新城市	西尾市	豊川市	東栄町								
三重県	(6)	志摩市	いなべ市	伊賀市	亀山市	大紀町	大台町						
滋賀県	(7)	米原市	野洲市	近江八幡市	高島市	長浜市	甲賀市	多賀町					
京都府	(4)	宮津市	南丹市	京丹波町	和束町								
兵庫県	(12)	芦屋市	丹波市	丹波篠山市	南あわじ市	淡路市	養父市	香美町	市川町				
		上郡町	新温泉町	神河町	猪名川町								
奈良県	(1)	曽爾村											
和歌山県	(2)	新宮市	串本町										
鳥取県	(3)	倉吉市	伯耆町	北栄町									
島根県	(3)	雲南市	江津市	浜田市									
岡山県	(10)	井原市	新見市	真庭市	赤磐市	浅口市	津山市	鏡野町	奈義町				
		矢掛町	和気町										
広島県	(6)	呉市	三次市	東広島市	府中市	北広島町	坂町						
山口県	(4)	長門市	萩市	周防大島町	田布施町								
徳島県	(6)	徳島市	海陽町	東みよし町	那賀町	美波町	牟岐町						
香川県	(4)	三豊市	綾川町	三木町	小豆島町								
愛媛県	(4)	今治市	愛南町	鬼北町	久万高原町								
高知県	(2)	四万十町	津野町										
福岡県	(8)	みやま市	宮若市	朝倉市	飯塚市	みやこ町	川崎町	大任町	福智町				
佐賀県	(4)	鹿島市	神埼市	みやき町	太良町								
長崎県	(3)	南島原市	平戸市	時津町									
大分県	(8)	宇佐市	杵築市	国東市	竹田市	中津市	日田市	由布市	玖珠町				
熊本県	(11)	熊本市	玉名市	菊池市	宇城市	あさぎり町	長洲町	津奈木町	湯前町				
		南関町	美里町	南阿蘇村									
宮崎県	(2)	宮崎市	日南市										
鹿児島県	(10)	いちき串木野市	南さつま市	南九州市	奄美市	長島町	さつま町	南大隅町	湧水町				
		天城町	与論町										
沖縄県	(2)	名護市	うるま市										

②B&G全国教育長会議

本事業は、海洋センター所在自治体の教育長が一堂に会し、教育行政が抱えるさまざまな今日的課題について話し合うとともに、B&G財団が推進する各種事業の活用等について提案し、財団事業の推進とともに課題解決を目指す会議。2002年度に第1回会議を開いて以来、毎年開催している。(2006・2009は中止)

事業開始年度 2002年度 (22年目)

目的 海洋センターを主管し、教育現場の責任者である教育長が一堂に会し、教育現場が抱えるさまざまな課題について話し合う機会を提供するとともに、毎年設定するテーマに沿った情報提供や各自自治体における取り組み事例を共有し、様々な角度から教育課題の解決について討議する。
またB&G財団の事業説明を行い、現在取り組んでいる各種事業の経過を報告するとともに、次年度における事業予定などを説明することで財団への理解を得る場としている。

目標 全ブロック・道府県連絡協議会から100%の教育長出席を目指すとともに、B&G財団の事業を解決策の一つとして提示することで、教育長のB&G財団・海洋センターへの理解を深め、ネットワークの強化を図る。

実績 第20回「B&G全国教育長会議」テーマ 「地域の子どもは地域で育てる！一子どもが主役の部活動改革」

日時 2023年11月8日(水)

場所 ベルサール汐留(東京都中央区)

参加者数 268人(教育長出席202人)

※全10ブロック、全44道府県連絡協議会からの教育長出席(100%)



第20回「B&G全国教育長会議」の様子



地域の部活動移行について活発な意見交換が交わされたシンポジウム

会議内容

内 容	登壇者・講演者
1. 主催者挨拶 2. 来賓挨拶・紹介 3. 正副会長選任・挨拶 4. 「部活動地域移行に関する現状調査」結果報告 5. シンポジウム 「子どもが主役の部活動改革を考える ～新しいブカツのかたち～」 6. B&G財団事業説明 7. B&G全国教育長会議「提言」 8. 総括	B&G財団 会長 前田 康吉 長野県飯田市 前教育長 代田 昭久 氏（ファシリテーター） スポーツ庁地域スポーツ課長 橋田 裕 氏 静岡聖光学院 前学校長 星野 明宏 氏 筑波大学 体育スポーツ局 研究員 稲垣 和希 氏 静岡県掛川市 教育長 佐藤 嘉晃 氏 兵庫県南あわじ市 教育長 浅井 伸行 氏

第20回「B&G全国教育長会議」提言

「B&G全国教育長会議」提言

- 一. 「持続可能なスポーツ環境の整備」
 地域一丸となり、子ども達が将来にわたり多様なスポーツに親しめる環境を創ろう

(2) 「海洋センターブロック連絡協議会」の活性化に向けた会議の開催 (日本財団助成事業)

①ブロック連絡協議会総会

本事業は、海洋センターブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動を促進するため、全国10ブロック連絡協議会が主催する「総会」に、財団の役員およびブロック担当職員が出席し、財団事業の周知ならびにブロック内の連携促進を図っている。2023年度は、コロナ禍以降初めて全10ブロックが対面形式で開催した。

事業開始年度 2007年度（17年目）

目的 各ブロック連絡協議会が主催する「総会」に財団役員が出席することにより、首長をはじめ自治体執行部へ財団事業の周知を図るとともに、ブロック内の連携を促進する。

目標 ・全国10ブロック連絡協議会総会への出席者数向上
・100%出席 6 ブロック以上

実績 ・全10ブロック連絡協議会総会出席者数：878人（2022年度：755人）
・100%出席ブロック 4 ブロック（2022年度：6 ブロック）

	ブロック	開催地	開催日	出席センター・クラブ数および人数
1	北海道	北海道 砂川市	5月23日(火)	35海洋センター 86人（含：首長15人、副首長2人、教育長21人）
2	東北	宮城県 松島町	5月22日(月)	59海洋センター 112人（含：首長12人、副首長4人、教育長7人）
3	関東	東京都 港区	4月27日(木)	40海洋センター 77人（含：首長14人、副首長8人、教育長8人）
4	北陸	福井県 福井市	5月16日(火)	39海洋センター 67人（含：首長3人、副首長1人、教育長9人）
5	中部	三重県 熊野市	5月12日(金)	64海洋センター 128人（含：首長10人、副首長7人、教育長10人）
6	近畿	京都府 南丹市	5月30日(火)	42海洋センター 89人（含：首長6人、副首長2人、教育長11人）
7	中国	山口県 柳井市	5月25日(木)	52海洋センター 85人（含：首長4人、副首長1人、教育長7人）
8	四国	香川県 高松市	5月8日(月)	28海洋センター 85人（含：首長14人、副首長1人、教育長9人）
9	北九州	大分県 大分市	5月26日(金)	47海洋センター 87人（含：首長5人、副首長5人、教育長7人）
10	南九州	鹿児島県 阿久根市	5月25日(木)	35海洋センター 62人（含：首長7人、副首長3人、教育長5人）
合 計				441海洋センター 878人（含：首長90人、副首長34人、教育長94人）

次 第 (例)

1. 主催者挨拶 ブロック連絡協議会 会長
2. 来賓挨拶 B&G財団 役員
3. 議 事
 議案第1号 2022年度事業報告について
 議案第2号 2022年度決算報告について
 【監査報告・ブロック内活動事例報告】
 議案第3号 2023年度事業計画 (案) について
 議案第4号 2023年度予算 (案) について
4. B&G全国指導者会の活動について
5. 2023年度B&G財団事業説明
6. センター表彰
 利用状況の優良海洋センター表彰
 (利用者人数施設別ベスト10)
 (利用者人口比率施設別ベスト10)

各総会では優良海洋センターに対し「海洋センター施設別利用者数ベスト10」などの表彰を行った。



4年ぶりに対面で開催された南九州ブロック総会

ブロック表彰

ブロック内の各海洋センター間で協力し結束力を高め、ブロック連協活動の更なる活性化および海洋センター・クラブ活動の活性化を図ることを目的に財団事業の出席率などを得点化するもの。2022年度は中部ブロックが一位を獲得し、賞状と記念品を贈呈した。また、香川県連絡協議会が「最優秀府県連協」を受賞した。

【2022年度 利用者人数ランキング】

順位	道府県名	センター名	利用者数	順位	道府県名	センター名	人口比率	利用者数
艇 庫 (利用者人数)				艇 庫 (人口比率)				
1	沖縄県	本部町	37,422	1	沖縄県	本部町	285.50%	37,422
2	徳島県	阿南市那賀川	30,901	2	島根県	美郷町邑智	74.40%	3,238
3	北海道	滝川市	13,038	3	岐阜県	八百津町	73.20%	7,649
4	宮城県	加美町中新田	10,893	4	鹿児島県	与論町	66.90%	3,443
5	北海道	室蘭市	9,683	5	京都府	宮津市	50.10%	8,535
温水・加温プール (利用者人数)				温水・加温プール (人口比率)				
1	兵庫県	芦屋市	102,677	1	群馬県	明和町	360.20%	30,451
2	福井県	坂井市丸岡	94,223	2	徳島県	海陽町	351.80%	30,842
3	兵庫県	猪名川町	72,918	3	栃木県	芳賀町	329.70%	51,603
4	愛知県	豊川市小坂井	72,478	4	千葉県	鋸南町	252.20%	18,118
5	石川県	白山市鶴来	66,085	5	兵庫県	猪名川町	243.00%	72,918
上屋付・屋外プール (利用者人数)				上屋付・屋外プール (人口比率)				
1	静岡県	磐田市竜洋	20,320	1	長野県	生坂村	212.30%	3,620
2	徳島県	徳島市	9,581	2	熊本県	湯前町	167.90%	6,218
3	大阪府	堺市美原	9,435	3	岡山県	奈義町	112.60%	6,492
4	熊本県	熊本市城南	8,613	4	秋田県	大瀧村	104.30%	3,201
5	岡山県	浅口市鴨方	7,857	5	北海道	遠別町	92.20%	2,274
体育館 (利用者人数)				体育館 (人口比率)				
1	兵庫県	上郡町	83,940	1	兵庫県	上郡町	586.50%	83,940
2	徳島県	徳島市	76,547	2	北海道	東川町	528.40%	44,331
3	香川県	高松市国分寺	62,417	3	長野県	生坂村	500.00%	8,525
4	香川県	三木町	49,800	4	北海道	浦臼町	426.10%	7,209
5	埼玉県	松伏町	47,871	5	北海道	積丹町	417.20%	7,856

2023年度「ブロック連絡協議会」幹事センターおよび会長

	ブロック	海洋センター名	会長名		ブロック	海洋センター名	会長名
1	北海道	砂川市	市長 善岡 雅文	6	近畿	南丹市園部	市長 西村 良平
2	東北	小野町	町長 村上 昭正	7	中国	周防大島町	町長 藤本 浄孝
3	関東	幸手市	市長 木村 純夫	8	四国	高松市国分寺	市長 大西 秀人
4	北陸	南魚沼市	市長 林 茂男	9	北九州	由布市挾間	市長 相馬 尊重
5	中部	熊野市紀和	市長 河上 敢二	10	南九州	阿久根市	市長 西平 良将

②ブロック幹事会議（オンライン）

本事業は、今後のブロック連絡協議会の活性化と連携強化の土台形成のため、情報共有の垣根を広げ、他ブロックの運営や状況を知る機会とし、ブロックの活性化とブロック幹事同士の横のつながりの形成、ブロック連協の共通の問題などを共有することを目的に実施。2023年度は、全国10ブロック連絡協議会の幹事センター担当者とB&G財団でオンラインによる会議を春と秋の二回開催した。

事業開始年度 2020年度（4年目）

目的 今後のブロック連絡協議会の活性化と連携強化の土台形成のために、その垣根を広げ、B&G財団と10ブロック幹事でのオンライン会議を行う事で、他ブロックの運営や状況を知る機会とし、ブロックの活性化につなげる。

目標 全国ブロック幹事会議を通じた、財団事業に対する理解浸透とブロック連絡協議会の活性化

実績

ア. 春開催

実施日：2023年6月22日(木)

参加状況：10ブロック連絡協議会幹事 10人

全国指導者会ブロック責任者 6人

議案内容：今後のブロック総会の在り方について、各ブロック連絡協議会主催事業について 等

イ. 冬開催

実施日：2023年11月28日(火)

参加状況：10ブロック連絡協議会幹事 10人

来年度ブロック連絡協議会幹事 11人

全国指導者会副会長 1人

全国指導者会ブロック責任者 10人

議案内容：ブロック連絡協議会主催事業事例発表、次年度ブロック総会依頼事項 等

(3) 自治体職員のB&G財団への派遣研修

海洋センター所在自治体から1年間自治体職員を受け入れ、財団事業への参画をはじめ各種研修に参加し、財団への理解促進およびB&G財団と自治体相互の協力体制を図った。

事業開始年度 2003年(21年目)

目的 財団における業務のほか、全国で実施する事業の実施運営、新規事業の企画など、地方行政とは異なる職務に携わることにより、視野を広げ、今後海洋センターの運営に携わる自治体職員等の資質の向上を図る。

また、自治体と財団との密接なパートナーシップを築くとともに、全国の海洋センターを訪問し、事業視察や情報交換を行うことで、海洋センター間のネットワークを強化し、地元の海洋センターの更なる活性化を図ることを目的として実施する。

実績 これまでに63人の派遣職員を受け入れた。

2023年度 自治体派遣研修生参加者

(敬称略)

氏名	自治体名	期間
合佐昆 恭平	北海道鷹栖町	2023年4月1日～2024年3月31日
三木 寛之	大分県中津市	
平川 雄基	熊本県長洲町	



7

調査研究等の活動

新規事業開発や自治体執行部への財団理解度向上等を目的として、2007年度に「地域海洋センター等調査研究事業」を立ち上げた。現在までに、「水辺の安全教室」や「BG塾」などの新規事業を立ち上げるとともに、「活動実績報告書」を作成し、各事業のデータの取りまとめや検証を行っている。

また、職員による新規事業提案会や新規事業開発のため、各種アンケートや自治体・海洋センターと協働した、パイロット実施などの調査研究を行っている。

(1) 事業成果の検証

2022年度の財団事業実績、海洋センター・クラブの運営・活動状況分析などを「活動実績報告書」として取りまとめ、海洋センター・クラブほか関係団体等に配付し、財団事業に対する理解促進を図った。



(2) 時代に即した新たな事業の創出に関する調査

自治体や海洋センター・クラブと連携した新たな事業を創出することを目的に、各種調査やパイロット事業を実施した。

① 「海」「海洋センター」における“心の健康”促進事業

2022年度に企画した事業内容について調査を継続し、事業内容の構築とパイロット実施した。

目的 子どもたちの間でも近年増加している心の不調を解消する。

目標 調査にて収集した知見を活かし、メンタルヘルス不調予防の内容を取り入れたオリジナルプログラムの開発と事業構築を進め、1回以上プレ実施する。

実績 ヒアリング調査及び既存プログラムの試験実施

同志社大学に学術協力を得て開発した新規プログラム プレ実施 1カ所

ア. ヒアリング調査及び同志社大学「こころアップタイム」の試験実施

ヒアリング調査

調査協力

東京メンタルヘルス(株)、(株)MELON、同志社大学心理学部石川研究室、千葉大学子どもの心の発達教育研究センター、北海道東神楽町、茨城県五霞町、福岡県築上町、鹿児島県南大隅町

イ. 「こころアップタイム」の試験実施

日時：2023年6月19日（月）

協力：新潟県胎内市、同志社大学心理学部石川研究室

場所：子ども第三の居場所 胎内拠点 大広間（2F）

参加者：16人

内容：1 コマ目【こまった「きもち」をつかまえよう！】（45分）

2 コマ目【あたたかい言葉をかけよう】（45分）

ウ. 新規プログラム プレ実施

実施日：2023年8月28日（月）

協力：茨城県五霞町、五霞町教育委員会、五霞町指導者会

学術指導：同志社大学心理学部

場所：五霞町B&G海洋センター

参加者：8人

実施内容：学術指導を受けて作成した「ココロゲンキプログラム」と水辺のレクリエーションを実施。



導入（アイスブレイク）



フラフープくぐり



水辺ボート体験

②アントレプレナーシップ教育プログラム

新規事業提案会で企画した事業案をもとに、内容をブラッシュアップし、プレ実施した。

目的 アントレプレナーシップ教育および郷土教育を通して、自分で考え工夫する力を身に着けるとともに、地元の魅力を再発見し、将来の地域の担い手となるような人材を育成することで、地域活性化を目指す。

目標 調査研究事業としてプレ実施し、事業化する。

実績 実施箇所数 2カ所

ア. 群馬県明和町

実施日：2024年3月2日（土）～3日（日）2日間

協力：群馬県明和町、農事組合法人梨人、明和町商工会、群馬県金融広報委員会

場所：明和町B&G海洋センター

参加者：11人

3月2日(土)		
9:45~10:00	スケジュール等説明	
10:00~11:00	明和町と梨産業	梨人の取り組みや梨産業に関する講義
11:15~12:00	梨を使った商品の紹介	明和町商工会による梨のしずく秘話
13:00~14:30	梨の新しい商品企画	商品企画
14:30~15:00	商品の発表	
3月3日(日)		
9:00~10:00	金融教育講話	お金の流れや仕組みについて
10:10~11:30	販売準備・体験	模擬紙幣を使い、1日目に考えた商品を模擬販売
11:30~12:00	まとめ	

イ. 大分県中津市

実施日：2024年2月16日(金)~17日(土) 2日間

協力：大分県中津市、株式会社川原建設

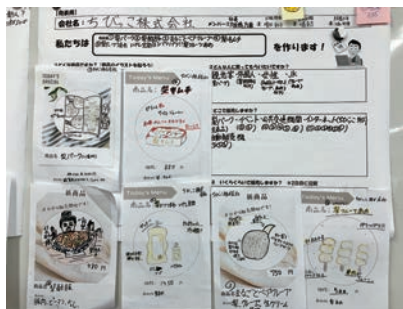
場所：中津市耶馬溪B&G海洋センター

参加者：11人

2月16日(金)		
15:45~16:00	スケジュール等説明	
16:00~17:00	中津市について	・「中津市はどんなところ？」 ・川原建設による業務内容等の説明
19:30~20:30	街づくり創造学習	中津市を「どんな街にしたいか」を班ごとに考える
2月17日(土)		
9:00~9:45	ドローン操縦体験	測定操作などの講義
10:00~11:00	施工カ所見学・重機操作体験	施工現場見学
11:00~12:00	発表会	



明和町での販売体験



明和町での梨の商品案



中津市での重機操縦体験

(3) 先進的海洋センターの整備に関する調査（日本財団助成事業）

事業開始年度 2022年度（2年目）

目的 これまでの海洋センターを大胆に変化させた「フロントライン」と呼べる複合型の先進的海洋センターを新たに整備し、以下の①～③を行う。

① 革新を創る

少子高齢化や人口減少等全国の自治体は様々な課題を抱えており、今後海洋センターの運営・利用を活性化させてくためにも、B&G財団と共に海洋センター事業の開発・実践を行う。

② 海興しを作る

海離れによる海洋人材の減少等が問題視される中、海離れを分析し、海興しにつながるメソッド・スキームを実行・検証し、日本の海離れ問題を解消する。

③ 人材を育成する

全国から来る人材を受け入れ育成するほか、ノウハウを提供し、革新・海興しを拡散させ、全国の海洋センターに波及させる。

目標 企画提案を受け、審査を経て、年度内に実施自治体を決定する。

実績 企画募集を行い、一次（書類審査）、二次（現地調査・プレゼン）を実施。二次審査を通過した1自治体と継続協議を行っている。

申請期間 2023年3月15日（水）～10月3日（火）

申請数 5自治体

(4) 海洋センターサテライト拠点整備事業（日本財団助成事業）

現在、人口減少や少子化などの理由から、使用されていない公共施設の利活用が自治体の課題となっている。そのような現状を受け、自治体の管理する空き公共施設等を活用し海洋センター事業とその地域・地区の課題解決に資する事業を実施する拠点整備事業に取り組んでいる。

事業開始年度 2023年度（初年度）

目的 海洋センターをハブとして、空き公共施設を活用した新たなサテライト拠点を地域に設置することにより、既存海洋センターの事業拡大に留まらず、過疎地域に取り残されつつある「あらゆる弱者」への対応など、地域の課題解決と自治体の活性化・地域力の向上を目指す。

目標 空き公共施設を活用した海洋センターサテライト拠点を整備し、防災や子育て支援、高齢者支援など、地域の課題解決に資する事業を推進することにより、地域課題解決に関する先行モデルとしていく。

実績 自治体の管理する空き公共施設等を活用し海洋センター事業とその地域・地区の課題解決に資する事業を実施する海洋センターサテライト拠点の整備に向けたアンケートおよび現地調査等を行い、実施地選定を行った。（継続中）

8

広報活動

B&G財団および全国の海洋センター・クラブの活動を広く周知するため、マスメディアを通じた広報活動とインターネットを活用した情報発信を行っている。また、財団の認知度向上を目的とした広報コンテストを開催している。

(1) 広報コンテスト「アナビバグランプリ」の開催

2015年度から実施していた海洋センターや海洋クラブの魅力を各地元から広く社会に発信することを目的とした「PR大賞」を一新。2023年度からは、海洋センター・クラブ担当者だけでなく、多くの方々を巻き込み、全国各地域への愛着形成や地域活性化などを図ることを目的として、「アナビバグランプリ」を実施した。

2023年5月1日～2024年1月31日の間「アナビバグランプリ」の作品を募集し、写真部門404点、動画部門162点の計566点の応募があった。

「アナビバグランプリ」審査委員会

日時：2024年3月6日（水）

場所：B&G財団会議室

内容：

一次審査、二次審査を通過した、写真部門27件、動画部門13件を7人の広報コンテスト審査委員により、本コンテストとの親和性や独自性、創造性などの観点で審査し、各部門の最優秀賞1件、優秀賞2件を決定。また、審査会にエントリーとなった40件から「2023アナビバベスト10」も選出した。



広報コンテスト審査委員会

	役職	氏名	現職
1	委員長	岸 ユキ	画家・女優
2	委員	中江 有里	女優・脚本家・作家
3	委員	前木 理一郎	読売新聞東京本社 専務取締役編集局長
4	委員	鈴木 顕	朝日新聞出版 AERA with Kids 編集長
5	委員	後藤 真理恵	一般社団法人 SNSエキスパート協会 代表理事
6	委員	黒田 有紀子	いこーよ お出かけコンシェルジュ
7	委員	こじま観光 (小島 大輔)	プロダクション人力舎所属 旅行芸人

最優秀賞

写真部門

辻 千晶さん
「香川県三豊市仁尾町 蔦島」



動画部門

二村 みきさん
「岐阜県高山市 原山市民公園」



優秀賞

写真部門

みどりさん
「福岡県朝倉市 平塚川添遺跡公園」



平野 昌子さん
「神奈川県横浜市 根岸森林公園」



動画部門

スパイシーサラダさん
「東京都あきる野市 秋川国際マス釣り場」



みどりさん
「佐賀県嬉野市 元祖忍者村 肥前夢街道」



「2023アナビバベスト10」

順位	投稿者氏名	投稿場所
1	辻 千晶さん	香川県三豊市仁尾町 蔦島
2	久保 絵美さん	福岡県朝倉市 平塚川添遺跡公園
3	平野 昌子さん	神奈川県横浜市 根岸森林公園
4	二村 みきさん	岐阜県高山市 原山市民公園
5	角谷 淳子さん	三重県南牟婁郡紀宝町 飛雪の滝キャンプ場
6	高野 眞久さん	富山県富山市 八尾町久婦須川ダム里山広場
7	税所 瞳さん	東京都あきる野市 秋川国際マス釣り場
8	久保 絵美さん	佐賀県嬉野市 元祖忍者村 肥前夢街道
9	阿部 真由美さん	福岡県糸島市 おれんじ村
10	湯澤 将貴さん	茨城県常陸大宮市道の駅 常陸大宮 ~かわプラザ~

(2) マスメディアによる広報

財団事業および海洋センター・クラブの活動を広く社会へ周知するため、プレスリリースを169本発信し、新聞・テレビ等へのパブリシティ活動を行い、各種メディアで掲載された。

新聞	雑誌	テレビ	ウェブ
125紙580回	9誌13回	21局35回	75媒体133回

(3) SNS等を活用した情報発信

SNSを通じて、日々の事業情報を発信することで、継続的な閲覧数の獲得につなげた。

媒体名	アクセス数
公式サイト	1,673,134
フェイスブック	102,462
X(旧ツイッター)	73,860
インスタグラム	13,960

(4) 地域情報の共有と発信

全国の海洋センター・クラブの魅力伝えるため、様々な切り口でコンテンツを展開し、情報発信を行った。

(公式サイト)

コンテンツ名	アクセス数
イベント・教室情報、各種事業活動	140,115

(フェイスブック)

コンテンツ名	アクセス数
まちレポ(ブロック版)他	241,060

(5) その他の活動

① 海洋センター・クラブへの情報提供

壁新聞「アンドリーニュース」を作成し、全国の海洋センター・クラブに発信した。



②オリジナルグッズの制作・販売

夏季限定のオリジナルTシャツおよびハンドタオルを制作・販売し、ブランディング活動を行った。



9 災害時支援

B&G財団では、2016年1月に開催した「第8回B&G全国サミット」で共同宣言に盛り込まれた「災害時における相互応援」を受け、災害等支援準備金を立ち上げ、熊本地震や西日本豪雨災害などの災害発生時に物資提供やボランティア派遣などを支援してきた。

また2021年度から開始した防災拠点および災害時相互支援体制構築事業では、防災拠点設置以外の自治体で発生した災害においても、迅速に支援活動が実施できる仕組みづくりを進めており、2023年度に発生した自然災害では防災拠点から他の被災自治体へ物的支援等が行われた。

<時期> 2023年7月（豪雨災害）、2024年1月（能登半島地震）

<場所> 福岡県久留米市、秋田県五城目町、石川県七尾市 等

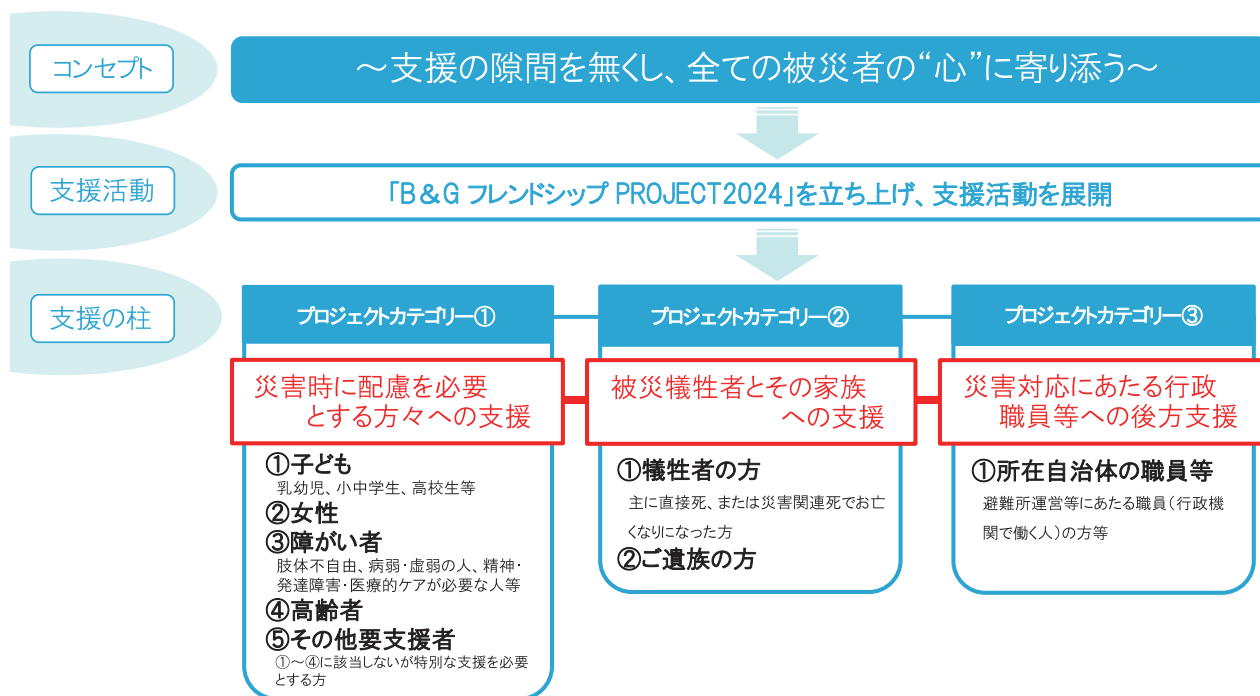
<内容>

2023年7月上旬に九州地方を中心とした大雨の影響により、河川氾濫等の甚大な被害が発生した。そのため現地で復旧活動をしていたNPO団体から本事業の第一期拠点である熊本県湯前町へ支援要請が入り、はじめて県を跨った災害支援が行われた。

同じく7月に東北地方でも大雨による土砂崩れなどが発生し、本事業の第二期拠点である宮城県石巻市から、特に被害の大きかった秋田県五城目町へ、スライドダンプや油圧ショベルの派遣が行われた。

特に、2024年1月に発生した能登半島地震では、「能登半島地震」災害支援募金として「B&G フレンドシップ PROJECT 2024」を立ち上げ、海洋センター所在自治体をはじめ、民間事業者やYahooネット募金などを通じ22,000,000円を超える支援金が寄せられている。





能登半島地震の被災地支援として、全国13の自治体から計16台のスライドダンプの派遣が行われ、現在も復旧作業に大いに活用されているとともに、「がんばろう 能登半島！ B&Gわくわく水上運動会」を実施。被災し、遊び場を失った子どもたちの笑顔を取り戻す支援も行っている。



海洋センターの運営・活動状況

1. 2023年度 海洋センターの活動状況

2023年度末の海洋センター所在自治体数は、212市・157町・13村で382自治体となり、海洋センター数は460カ所となった。海洋センター所在自治体の総人口は、2,396万人となっている。

新型コロナウイルスも「5類感染症」へ移行し利用者人数は増加傾向に

2023年度の海洋センターの利用人数は、896万人となり、昨年度の806万人から90万人増加した。利用者人数が1,000万人を超えていた2019年度以前とはいかないものの、2023年5月に新型コロナウイルスも「5類感染症」へ移行し、海洋センターでのイベントや教室の開催、施設利用者が徐々に戻りつつあると考えられる。

2. 海洋センター評価

本評価は、「B&Gプラン」推進拠点である全国の海洋センターが、自センターの管理・運営面での現状を客観的に把握することにより、今後の更なる活動の活性化を図るための“指標”とすることと、当財団の施設整備事業などの支援をその評価に応じて行うことにより、公正性を保つことを目的に実施しているものである。海洋センター評価は、2003年度から導入しているもので、2007年度からは、評価基準とともに、その結果を公表している。

2018年度からは、多様化してきた海洋センターの活動を精度高く把握できるよう、評価基準表を大幅に変更した。

新基準による評価制度へ 特A評価の海洋センターは305カ所

2018年度から採用した新評価基準では、指導者の適正配置や地域指導者会の活動を把握する“指導者関係”、全国サミットやブロック総会の出席状況からなる“会議等への出席”、財団ソフト事業などの推進を図る“財団・連協事業関係”、センターの利用者や施設の維持管理・大会や教室の実施回数で構成される“センター運営関係”、災害復旧支援などその他の活動で加点する“特別加点”の5項目に大別。特A評価センターは305カ所となっている。

評価の種類と財団支援等

海洋センター評価は、当該年度（4月～3月）の活動状況を基に評価し、翌年度はじめに各海洋センターに公表する。

評価	点数範囲（100点満点）	財団支援・指導等
特A	80点以上	修繕助成制度の対象となり、評価に応じた助成率が得られる。その他、評価に応じた支援を行う
A	60点～79点	
B	40点～59点	原則として、B評価以下は修繕助成制度の対象外となる。上位評価となるよう改善に向けた指導を行う
C	20点～39点	
D	0点～19点	運営指導を行う。改善が見られない場合は首長を含めた協議を行う
E	施設休止	首長を含めた協議を行う

2023年度 海洋センター評価基準（概略）

大項目	中項目	小項目
1. 指導員関係（上限15点）	①指導員の配置	
	②指導者会	
2. 会議等への出席（上限20点）	①全国サミット	
	②教育長会議	
	③ブロック連協総会	
3. 財団・連協事業（上限30点）	①財団事業の活用	広報関係
		指導員関連
		水辺の安全教室
		自治体連携事業
		財団事業への協力
		センター主催事業
	②ブロック連協事業への協力	
③道府県連協事業への協力		
4. センター運営関係（上限30点）	①利用者人数	
	②イベント・大会・教室及び施設の活用状況	◎スポーツ・運動等
		◎学校等
		◎海レク
		◎インクルーシブ
		◎民間企業等との連携
		◎多目的事業
	③施設の維持管理	
④運営特別保証		
⑤情報提供関係		
5. 特別加点（上限5点）	行政執行部の訪問や自然災害自治体等への支援など10項目	

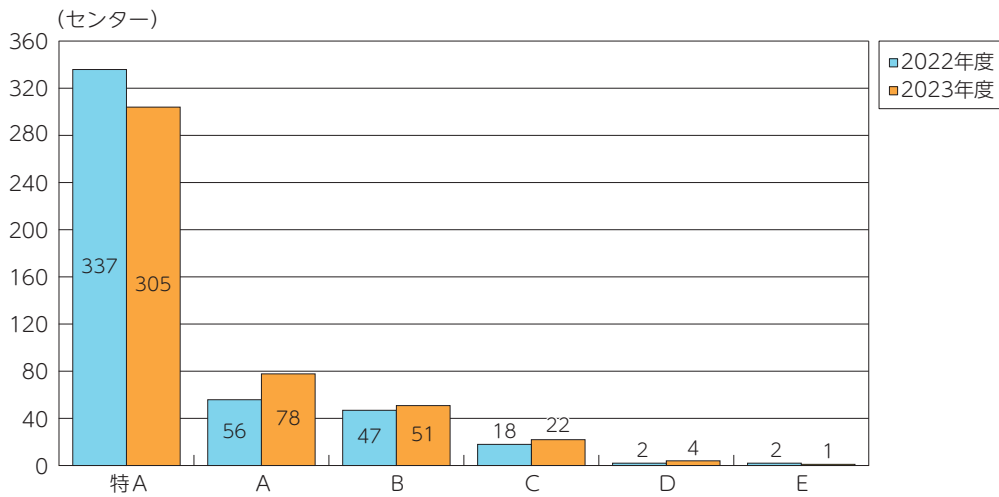
(1) 2023年度評価（前年度対比）

2023年度評価は、「特A」評価が減少し、「A」・「B」・「C」・「D」評価センターが増加。休館センターの内、1センターは廃止した。

評価別海洋センター数（前年度比較）

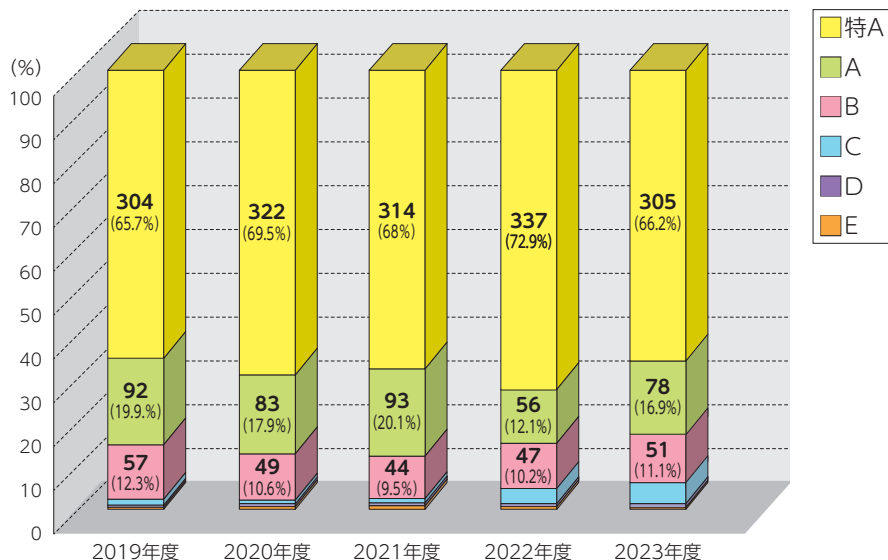
年 度	評価区分	特A	A	B	C	D	E
2022年度	年間評価	337	56	47	18	2	2
	構成率	72.9%	12.1%	10.2%	3.9%	0.4%	0.4%
2023年度	年間評価	305	78	51	22	4	1
	構成率	66.2%	16.9%	11.1%	4.8%	0.9%	0.2%
増減数	年間評価	-32	22	4	4	2	-1
	構成率差	-6.8%	4.8%	0.9%	0.9%	0.4%	-0.2%

海洋センター評価（前年度比較）



(2) 海洋センター年間評価 5 ヶ年の推移

過去5年間の評価の推移（構成率）を見ると、「A」評価以上の優良海洋センターがほぼ横ばいの数値となっており、2023年度は全体の83%が優良海洋センターとなっている。



海洋クラブの運営・活動状況

1. 2023年度 海洋クラブの活動状況

全国281ヵ所のB&G海洋クラブは、海洋センター（地方自治体）や民間の海洋性レクリエーション愛好者組織によって運営されており、地元の家や川、湖沼など各々の水面で、子どもから大人までがカヌーやヨットなどの海洋性スポーツを楽しみ、B&G財団の基本理念である「海洋性レクリエーション活動を通じた青少年の健全育成」や「地域住民の健康づくり」を推進している。

最近ではマリンスポーツの活動のみならず、環境保全や地域活性化にも尽力する海洋クラブも増加してきており、クラブの活動内容が多様化してきている。

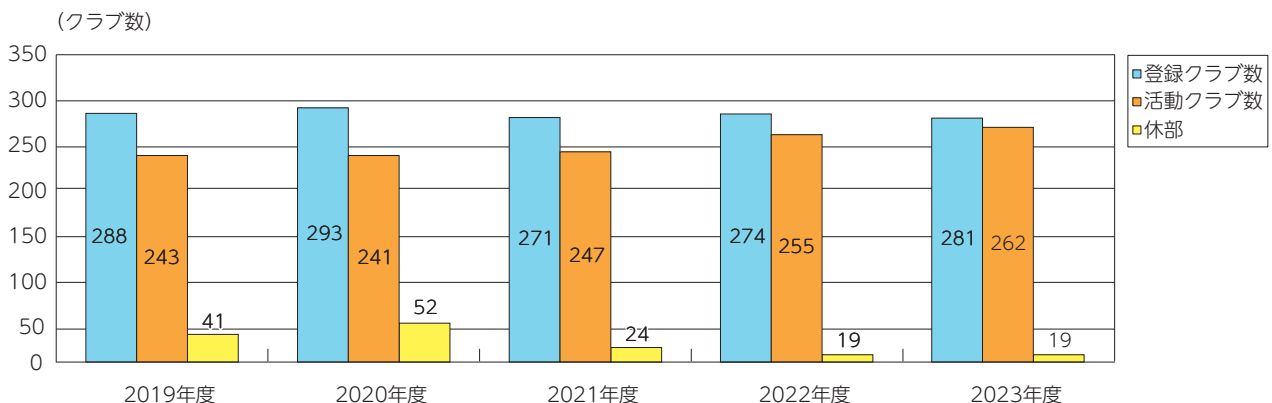
コロナ禍を経て、従来の活動に戻りつつある

2022年度に新型コロナウイルスによる各種規制等も緩和され、各海洋クラブで活動が再開され始めた。特に、近年新しく登録された海洋クラブの活動も本格化したことにより、コロナ禍以前より活動人数が増加しており、全体の活動人数や活動日数についても緩やかに上昇している結果となった。

(1) 海洋クラブ数

海洋クラブ数の推移

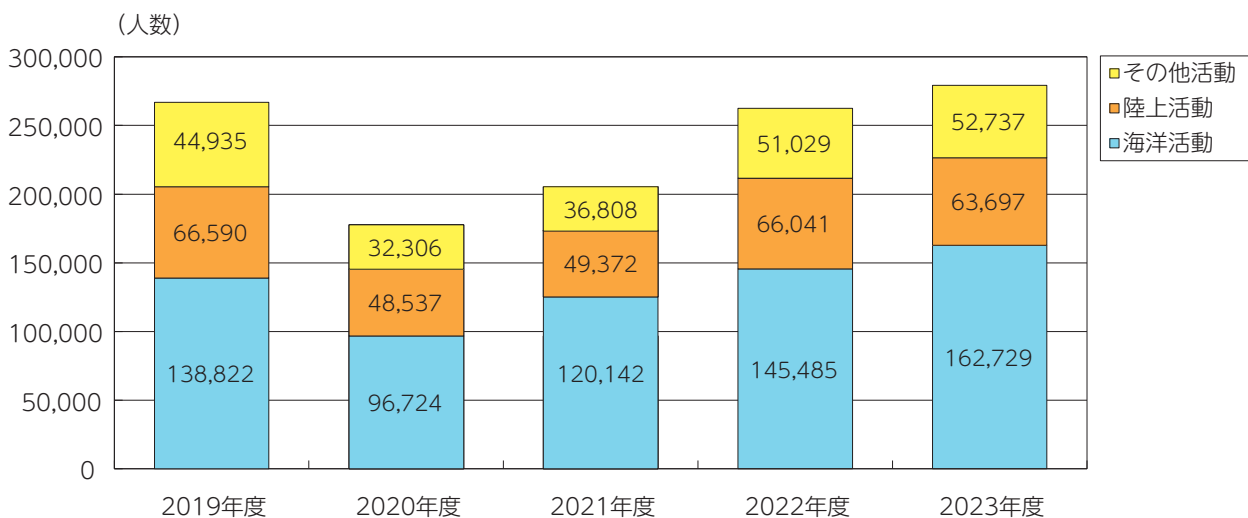
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
登録クラブ数	数	288	293	271	274	281
	増減	3	5	-22	3	7
	(率)	1%	2%	-8%	1%	3%
活動クラブ数	数	243	241	247	255	262
	増減	3	-2	6	8	7
	(率)	1%	-1%	2%	3%	3%
休部又は未報告	数	41	52	24	19	19
	増減	0	11	-28	-5	0
	(率)	0%	27%	-54%	-21%	0%



(2) 海洋クラブ活動人数

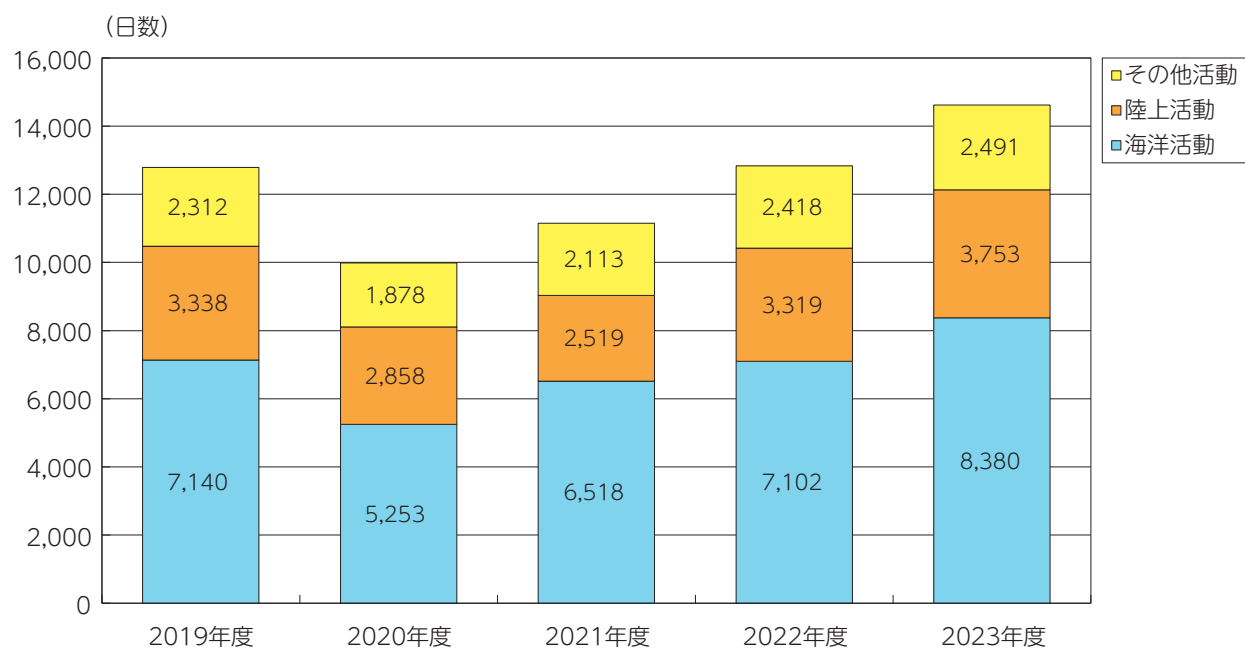
海洋クラブ年間活動人数の推移

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
海洋活動	人数	138,822	96,724	120,142	145,485	162,729
	増減数	-1,241	-42,098	23,418	25,343	17,244
	(率)	3%	-30%	24%	21%	12%
陸上活動	人数	66,590	48,537	49,372	66,041	63,697
	増減数	-8,868	-18,053	835	16,669	-2,344
	(率)	-12%	-27%	2%	34%	-4%
その他の活動	人数	44,935	32,306	36,808	51,029	52,737
	増減数	-6,732	-12,629	4,502	14,221	1,708
	(率)	-1%	-28%	14%	39%	3%
合計	人数	267,188	177,567	206,322	262,555	279,163
	増減数	-5,990	-89,621	28,755	56,233	16,608
	(率)	-2%	-34%	16%	27%	6%



(3) 海洋クラブ活動日数

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
海洋活動	日数	7,140	5,253	6,518	7,102	8,380
	増減数	30	-1,887	1,265	584	1,278
	(率)	0.4%	-26.4%	24.1%	9.0%	18.0%
陸上活動	日数	3,338	2,858	2,519	3,319	3,753
	増減数	-109	-480	-339	800	434
	(率)	-3.2%	-14.4%	-11.9%	31.8%	13.1%
その他の活動	日数	2,312	1,878	2,113	2,418	2,491
	増減数	-494	-434	235	305	73
	(率)	-17.6%	-18.8%	12.5%	14.4%	3.0%
合計	日数	12,790	9,989	11,150	12,839	14,624
	増減数	-573	-2,801	1,161	1,689	1,785
	(率)	-4.3%	-21.9%	11.6%	15.1%	13.9%



2. 海洋クラブ評価

B&G財団では、海洋クラブの活動を継続的かつ効率的、公正に支援するため、2003年度から「海洋クラブ評価」を実施・公表しており、当該年度のクラブ活動状況がより評価に反映されるよう、毎年度評価項目の見直しを行っている。

(評価方法)

「海洋クラブの運営・活動状況」のほか、「財団事業の実施・参加」「一般市民への海レク普及」「海洋クラブの広報」「B&Gコンパスの活用状況」など、評価基準を設け総合的に評価している。

(評価対象期間)

2023年4月1日～2024年3月31日までの実績を基に財団が定めた評価基準に照らして評価を行い、全海洋クラブに公表する。

(評価の種類と財団支援等)

評価	点数範囲 (50点満点)	財団支援・指導等
特A	40点以上	活動器材の追加・再配備など、評価に応じた財団支援を行う
A	33点～39点	
B	20点～32点	休部や活動が停滞している海洋クラブに対して、今後の活動促進のための協議等を行う
C	12点～19点	
D	11点以下	
E	休部・廃部検討	



2023年度海洋クラブ評価基準（概略）

評価項目		配点	評価基準	
活動状況 (上限25点)	活動日数	5	50日以上	
		4	24日以上	
		3	11日～23日	
		2	6～10日	
		1	1～5日	
	活動人数	8	1,000人以上	
		6	600～999人	
		4	300～599人	
		2	100～299人	
		1	1～99人	
	活動内容	活動状況 陸上スポーツもしくはその他活動の年間活動人数	1	100人以上
		昨年度よりも海レクの活動日数が3日増えた	2	3日以上増えた
		昨年度よりも海レク活動人数が50人増えた	2	50人以上増えた
		海洋クラブ員以外を対象とする海洋性レクリエーション等水辺の体験事業の実施	3	合計100人以上の参加者もしくは5回以上実施
			2	合計50人以上の参加者もしくは3回以上の実施
			1	実施した
		「海の日」前後に海洋スポーツ事業の実施	2	実施した
		「水辺の安全教育」プログラムを普段の活動に取り入れての実施	2	実施した
		「海ゴミゼロフェスティバル」（清掃活動）の実施	2	実施した
		財団支援事業の実施・参加 (マリンスポーツ技能認定、舟艇器材等追加・再配備申請、リーダー研修会、指導員研修会、B&Gチャレンジ、BG塾、体験格差解消事業、砂ASOBeach、まちレポ(Facebook)、海洋クラブオンラインミーティング その他)	3	3事業以上実施・参加した
	2	2事業以上実施・参加した		
	1	1事業実施・参加した		
組織運営 (上限8点)	指導者・運営組織	3	3人以上の指導体制がとれている上、さらに指導者を育成する研修会を独自で実施している	
		2	3人以上の指導体制がとれている	
		1	代表者を含め1～2人で指導している	
	海洋クラブ員	3	40人以上の海洋クラブ員がいる	
		2	30人以上の海洋クラブ員がいる	
連携拡充	2	他団体（海洋クラブに限らず）と連携したクラブ活動を年3回以上実施した		
	1	他団体（海洋クラブに限らず）と連携したクラブ活動を年1回以上実施した		
器材調達	2	当該年度に活動器材の自主購入もしくは譲受を行った (B&G財団追加・再配備制度は除く)		
活動の周知とPR (上限7点)	クラブ専用のHP・ブログ・Facebookの開設と更新	3	HP・ブログ・Facebookを開設して年10回以上更新している	
		2	HP・ブログ・Facebookを開設して年5回以上更新している	
	B&Gコンパスの活用（期限までの活動状況入力・メッセージ返信等）	2	活用できている	
		5	年に3回以上、海洋クラブの活動がマスコミや自治体に取材され、記事掲載やテレビ放映があった	
		3	海洋クラブの活動がマスコミや自治体に取材され、記事掲載やテレビ放映があった	
合計最大	40			

その他項目	配点	評価内容	
特別加点 (最大10点)	3	舟艇を活用した清掃活動を実施した	
	3	ワークショップを含む清掃活動を実施した	
	3	学校と連携した事業の実施	
	3	地域貢献活動	
	選手育成	3	当該年度に所属するクラブ員が県大会以上（B&G道府県連協の大会を除く）の大会に出場した
		2	当該年度に所属するクラブ員が大会で3位以内に入賞した
		1	当該年度に所属するクラブ員が大会に出場した
	【一般海洋クラブのみ】自治体との連携	5	自治体から補助金を受けている。または事業の受託をしている
		2	海洋クラブの活動において、自治体と連携して事業を行っている（後援・協力・共催等）
	海洋クラブの表彰	3	当該年度に「海洋クラブ」としてアナビバグランプリに入賞した
		1	当該年度に「海洋クラブ」としてアナビバグランプリに応募した
	器材格納庫等の改修（環境整備）	3	器材格納庫等の修繕や増築・新築等を行った
その他特別加点	3	指導者養成研修への講師派遣、インクルーシブな活動の実施、財団の調査研究事業等への協力等	
合計最大	10		
特別調整点		自然災害等やむを得ない事情により、評価区分が下がってしまう場合、必要に応じて得点を調整することができる	

2023年度「海洋クラブ評価」

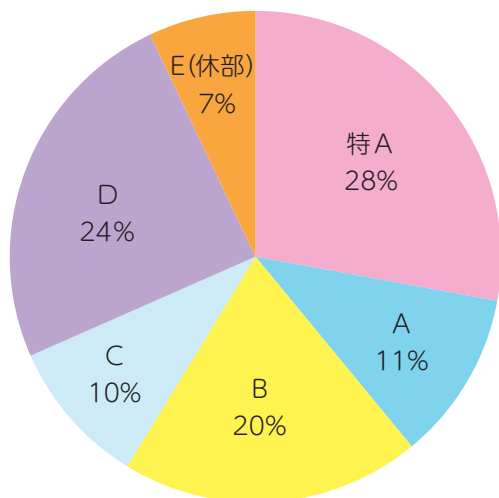
2023年度の海洋クラブ評価は、海洋センターを活動拠点とする海洋クラブ（センター付き海洋クラブ）、近年増加している民間団体が運営する海洋クラブ（一般海洋クラブ）とで評価項目を分け、活動内容の拡充や新たな活動を行う海洋クラブを評価する項目を設けた。

2023年度より、新型コロナウイルスへの規制が緩和されたことにより、従来の活動を再開したクラブが多く見られた一方、悪天候等によりやむを得ず、事業の中止や利用者人数の減少があったクラブもあったため、全体的には2022年度同様の評価割合となった。

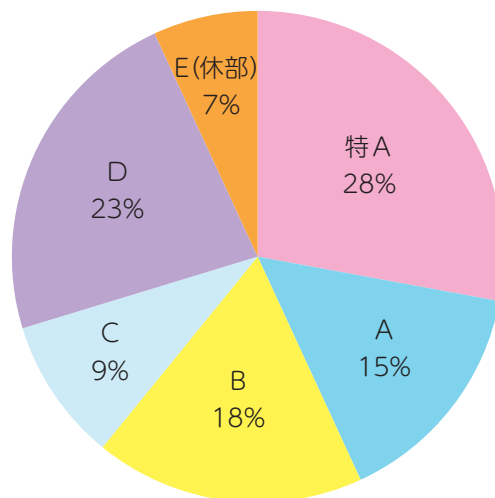
海洋クラブの評価の推移（5カ年）

年 度	特A	A	B	C	D	E（休部）	合計
2018年度	39	50	89	28	16	41	263
2019年度	49	45	82	24	26	41	267
2020年度	63	50	76	19	20	30	258
2021年度	65	34	60	36	42	24	261
2022年度	75	30	53	26	66	19	269
2023年度	77	42	49	26	63	19	276

2022年度 クラブ評価の割合



2023年度 クラブ評価の割合



参考資料

アンケート調査

B&G財団では、海の日と山の日のお話として、海と山に関するアンケート調査を実施し、その結果を公表している。

①海の日アンケート

【調査概要】

タイトル：「コロナが落ち着いた今、行ってみたい海岸名」と「その理由」

募集対象：全国の男女

調査方法：ハガキおよびインターネットによる自由記入方式

調査期間：2023年5月23日（火）～7月3日（月）

回答総数：2,374件

有効回答数：n=2,350件

サンプル内訳

	～20代	30代	40代	50代	60代～	70代～	合計
男性	50	187	284	320	302	162	1,305
女性	80	265	292	222	152	34	1,045
合計	130	452	576	542	454	196	2,350

※2020年に「コロナ収束後に行ってみたい海」というテーマで実施。緊急事態宣言が発出され、日常生活に様々な制限が強いられていたあの頃から3年が経ち、日常を取り戻しつつある今、改めて同様のテーマでアンケートを行い、2020年から回答に変化があったのか調査した。

【要約】

■総合ランキングでは、前回同様第1位「湘南」、第2位「沖縄」、前回8位の「九十九里」が3位と健闘。

■県別では神奈川県が1位。湘南以外にも鎌倉、葉山、三浦など神奈川の有名な海岸が並ぶ結果に。

■一度は行ってみたいリゾート地や近所や故郷の海など、「行ってみたい海」というキーワードから様々な「行きたい理由」が得られた。

【2020年度総合エリア別TOP5】(n=2,337)

順位	エリア名	得票数(率)
1	湘南	300 (12.8%)
2	沖縄	148 (6.3%)
3	南紀	114 (4.9%)
4	安芸の宮島	72 (3.0%)
5	丹後	67 (2.9%)

【2023年度総合エリア別TOP5】(n=2,350)

順位	エリア名	得票数(率)
1	湘南	202 (8.5%)
2	沖縄	110 (4.6%)
3	九十九里	105 (4.4%)
4	南紀白浜	100 (4.2%)
5	大洗・ひたちなか	51 (2.1%)

【2023年度総合都道府県TOP10】(n=2,350)

順位	スポット名	得票数 (率)
1	神奈川県	340 (14%)
2	沖縄県	220 (9.3%)
3	千葉県	216 (9.1%)
4	和歌山県	128 (5.4%)
5	静岡県	109 (4.6%)
6	岩手県	104 (4.4%)
7	兵庫県	82 (3.4%)
8	北海道	81 (3.4%)
9	宮城県	77 (3.2%)
10	鹿児島県	67 (2.8%)

今回の結果では前回同様、第1位 湘南、2位 沖縄となった。九十九里が3位にランクインし、前回の8位から4つ順位を伸ばした。1位の湘南を選んだ理由として、「アクセスの良さ」や、「サザンオールスターズが好き」というものが多く挙がった。また周辺の雰囲気や、カフェなど飲食店が充実していることも高評価に繋がった。湘南の特徴は海だけを目的とせず、海周辺で楽しむことを理由に挙げていることが目立った。

一方2位の沖縄は「沖縄」「沖縄の海」などの回答と、沖縄本島の海岸名を回答したものを集計した。沖縄の特徴は、「キレイな砂浜」「エメラルドグリーンに輝く海」など、沖縄の海自体の魅力を理由とするものが多く挙がったほか、シュノーケルやダイビングなどの海のレジャーを目的に訪れたいという意見が多かった。

また、沖縄に行きたいという理由に「コロナ禍で沖縄や離島など病床数の少ない場所を避けていたので、コロナが落ち着いた今こそ行ってみたい」というものがあつた。前回アンケートを実施した2020年は、コロナの真っ只中にあり、病床数の逼迫など、厳しい状況にあつた。その頃に比べ、コロナの感染法上の分類が5類に引き下げられた現在は、沖縄観光への機運が高まっているように思えた。

3位の九十九里を選んだ理由として「サーファーで賑わっている」という意見があり、九十九里の南端に位置する釣ヶ崎海岸（千葉県一宮町）が、東京2020 夏季オリンピックのサーフィン会場であつた点も今回のランキング上昇につながつたと推察する。

その他、全体の回答に共通する特徴として、「地元である」「現在住んでいるところまたは、昔住んでいたところから近い」という趣旨のものが多くみられ、今回のアンケートでは自身に身近な海を回答する傾向が見受けられた。

【男女別エリアTOP5】

■男性 (n=1,305)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	116 (8.8%)
2	九十九里 (千葉県)	66 (5%)
3	南紀白浜 (和歌山県)	46 (3.5%)
4	沖縄 (沖縄県)	44 (3.3%)
5	伊豆 (静岡県)	29 (2.2%)

■女性 (n=1,045)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	86 (8.2%)
2	沖縄 (沖縄県)	66 (6.3%)
3	南紀白浜 (和歌山県)	54 (5.1%)
4	九十九里 (千葉県)	39 (3.7%)
5	大洗・ひたちなか (茨城県)	27 (2.5%)

【年代別エリアTOP5】

■10~20代 (n=130)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	各8 (6.1%)
	九十九里 (千葉県)	
	南紀白浜 (和歌山県)	
4	大洗・ひたちなか (茨城県)	7 (5.3%)
5	沖縄 (沖縄県)	5 (3.8%)

■30代 (n=452)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	37 (8.1%)
2	南紀白浜 (和歌山県)	31 (6.8%)
3	沖縄 (沖縄県)	24 (5.3%)
4	鎌倉 (神奈川県)	14 (3.0%)
5	九十九里 (千葉県)	13 (2.8%)

■40代 (n=576)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	47 (8.1%)
2	沖縄 (沖縄県)	30 (5.2%)
3	南紀白浜 (和歌山県)	各28 (4.8%)
	九十九里 (千葉県)	
5	鎌倉 (神奈川県)	20 (3.4%)

■50代 (n=542)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	55 (10.1%)
2	九十九里 (千葉県)	24 (4.4%)
3	南紀白浜 (和歌山県)	23 (4.2%)
4	沖縄 (沖縄県)	22 (4.0%)
5	大洗・ひたちなか (茨城県)	11 (2.0%)

■60代 (n=454)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	36 (7.9%)
2	九十九里 (千葉県)	26 (5.7%)
3	沖縄 (沖縄県)	18 (2.4%)
4	南紀白浜 (和歌山県)	10 (2.2%)
5	大洗・ひたちなか (茨城県)	9 (1.9%)

■70代以上 (n=196)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	湘南 (神奈川県)	19 (9.6%)
2	沖縄 (沖縄県)	11 (5.6%)
3	伊豆 (静岡県)	9 (4.5%)
4	九十九里 (京都府)	各6 (3.0%)
	大洗・ひたちなか (茨城県)	

【投票理由】 抜粋**■湘南（神奈川県）**

選んだ理由	住所	性別	年代
カフェがあつたりお洒落だから	静岡県	女性	60代
サザンオールスターズが好きだから	大阪府	男性	40代

■沖縄（沖縄県）

選んだ理由	住所	性別	年代
旅行も兼ねて、綺麗な海を子どもに見せてあげたいからです。	東京都	女性	30代
海も砂浜もきれいで、癒やされるので	神奈川県	男性	50代

■九十九里（千葉県）

選んだ理由	住所	性別	年代
広大な砂浜でのんびりしたい！	北海道	男性	50代
長い砂浜。大らかな気持ちになれそう。	長野県	女性	50代

■南紀白浜（和歌山県）

選んだ理由	住所	性別	年代
海が澄んでものすごくキレイです。	奈良県	女性	70代以上
真っ白な砂浜とパンダに会いたいから	福岡県	女性	50代

②山の日アンケート

【調査概要】

タイトル：コロナが落ち着いた今、行ってみたい山と「その理由」

募集対象：全国の男女

調査方法：ハガキおよびインターネットによる自由記入方式

調査期間：2023年5月23日（火）～7月3日（月）

回答総数：2,374件

有効回答数：n=2,214件（無効例：海外の名所を回答、無回答）

サンプル内訳

	～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	49	181	272	305	287	148	1,242
女性	77	257	279	212	112	35	972
合計	126	438	551	517	399	183	2,214

【要約】

- 第1位「富士山」、第2位「高尾山」、第3位「大山（鳥取県）」富士山は昨年同様1位。
- 3位の大山は前回6位から3ランクUP！
- 登るだけではない、キャンプ、グルメ、観光など山の魅力がたくさん！

【総合TOP10】（n=2,214）

順位	山岳名	得票数
1	富士山	541（24.4%）
2	高尾山	116（5.2%）
3	大山（鳥取県）	59（2.6%）
4	筑波山	54（2.4%）
5	阿蘇山	42（1.8%）
6	立山	41（1.8%）
7	六甲山	31（1.4%）
8	月山	27（1.2%）
9	上高地	各26（1.1%）
	男体山	
	那須岳	

【総合ランキングの分析】

総合1位は、前回同様「富士山」だった。日本一の山であり、今年、世界文化遺産登録10周年ということもあり、日本だけでなく、海外からの観光客など、ますます訪れる人が多くなるものと思われる。

2位の高尾山は、都心からのアクセスの良さや、初心者でも気軽に登れることから人気を集めた。デートや、家族旅行で訪れてみたいと意見が多くあった。

3位の中国地方の最高峰「大山」は、豊かな自然と美しい眺望、比較的登りやすいというところも魅力で上位にランクインされた。またNHKの日本名峰ランキングでも3位に輝いている。

4位の筑波山では眺望の良さ、5位の阿蘇山は温泉を楽しみたい、6位の立山はトロッコ列車に乗ってみたい、7位の六甲山は夜景がきれいなど、登山以外に山ならではの観光や、楽しみ方を理由に挙げていることが多くみられた。



見る方向により山容が大きく異なる大山



関東平野を一望する紫峰「筑波山」

【男女別TOP5】

■男性 (n=1,242)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	269 (21.6%)
2	高尾山	57 (4.5%)
3	大山	36 (2.8%)
4	阿蘇山	28 (2.2%)
5	筑波山	26 (2.0%)

■女性 (n=972)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	272 (27.9%)
2	高尾山	59 (6.0%)
3	筑波山	28 (2.8%)
4	大山	23 (2.3%)
5	雲取山	15 (1.5%)

【年代別エリアTOP5】

■～20代 (n=114)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	30 (30.6%)
2	高尾山	7 (6.1%)
3	大山	各5 (4.3%)
	函館山	
	立山	

■30代 (n=438)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	104 (23.7%)
2	高尾山	各16 (3.6%)
	筑波山	
4	榛名山	11 (2.5%)
5	男体山	10 (2.2%)

■40代 (n=551)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	130 (23.5%)
2	高尾山	36 (6.5%)
3	筑波山	12 (2.1%)
4	大山	各11 (1.9%)
	立山	

■50代 (n=517)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	132 (25.5%)
2	高尾山	32 (6.1%)
3	筑波山	18 (3.4%)
4	阿蘇山	15 (2.9%)
5	大山	13 (2.5%)

■60代 (n=399)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	108 (27.6%)
2	月山	22 (5.5%)
3	高尾山	20 (5.0%)
4	白根山	15 (3.7%)
5	大山	14 (3.5%)

■70代以上 (n=183)

順位	エリア名	得票数 (率)
1	富士山	37 (20.2%)
2	立山	10 (5.4%)
3	大山	各7 (3.8%)
	石鎚山	
5	高尾山	5 (2.7%)

【投票理由】 抜粋

■1位 富士山 (山梨県・静岡県)

選んだ理由	住所	性別	年代
体力があるうちに、人生で一度は登ってみたい。	京都府	男性	40代
地元が山梨県でいつでも富士山に行けると思っていたら、コロナになって中々行けなくなってしまった。コロナが落ち着いた今、富士山の大地を噛み締めたいと思った。	東京都	女性	20代

■2位 高尾山 (東京都)

選んだ理由	住所	性別	年代
子どもの年齢に応じて楽しめる方法があるから。ロープウェイとか。あと食べ歩きも出来る！	千葉県	女性	30代
有名だし、気軽に楽しめそうだから。	広島県	男性	60代

■ 3位 大山（鳥取県）

選んだ理由	住所	性別	年代
中学生の時に（今から30年以上）登って、頂上で友達と食べたお弁当の味を今でも覚えています。今度は小6の息子と一緒に登ってみたいです。	鳥取県	男性	40代
形が美しいから。	山形県	女性	70代

■ 4位 筑波山（茨城県）

選んだ理由	住所	性別	年代
ロープウェイがあり、登山をしなくても山頂付近まで行けるので。	東京都	女性	50代
連なる山々と集落がとても美しいです。	埼玉県	男性	50代

■ 5位 阿蘇山（熊本県）

選んだ理由	住所	性別	年代
季節の山野草を見たり、火口にも行って見たいです。	熊本県	女性	60代
広大な景色が素晴らしく、まわりに温泉も沢山あるし食べ物も美味しい！！	高知県	女性	50代

2023年度修繕一覧

通常修繕

(単位：円)

	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事 請負金額	助成金額
1	北海道	名寄市	プール	プール等照明LED化（水銀灯）	4,380,000	3,100,000
2	北海道	岩見沢市栗沢	プール	プール缶体改修、上屋鉄骨塗装、上屋シート取替、プールサイド改修、照明LED化（水銀灯） 他	72,944,581	25,300,000
3	北海道	沼田町	プール	ろ過機取替、温水ヒーター更新、配管更新、幼児用プール改修	21,800,000	16,300,000
4	青森県	南部町名川	体育館	屋根全面塗装	9,780,000	7,000,000
5	青森県	弘前市岩木	プール	プールサイド改修、上屋鉄骨塗装	36,000,000	25,200,000
6	岩手県	一関市藤沢	プール	プール缶体塗装、足洗い場の改修 他	21,080,000	10,000,000
7	岩手県	奥州市前沢	体育館	アリーナ等照明LED化（水銀灯）	19,520,000	5,200,000
8	岩手県	山田町	体育館	屋根・外壁改修、屋根防水改修、照明LED化（水銀灯） 他	56,000,000	30,000,000
9	秋田県	八郎潟町	プール	上屋鉄骨改修、上屋シート取替 他	74,700,000	26,300,000
10	山形県	酒田市平田	体育館	トレーニングルーム床改修工事 他	10,870,000	7,600,000
11	茨城県	石岡市	体育館	トイレ洋式化、壁・天井・床改修、スロープ等設置 他	15,210,000	10,000,000
12	新潟県	佐渡市小木	体育館	体育館屋根改修、スロープ設置	19,592,000	14,300,000
13	福井県	あわら市金津	体育館	トイレ洋式化、アリーナ屋根・床改修、アリーナ等照明LED化（水銀灯）、スロープ新設 他	38,688,000	26,800,000
14	山梨県	南アルプス市白根	プール	温水ボイラー更新 他	7,800,000	3,200,000
15	長野県	大町市	体育館	アリーナ等照明LED化（水銀灯）	7,900,000	2,700,000
16	岐阜県	中津川市福岡	プール	缶体塗装、上屋鉄骨塗装、ろ過機取替、プール照明LED化（水銀灯） 他	29,520,000	23,600,000
17	静岡県	沼津市戸田	体育館	照明LED化（水銀灯）、トイレ洋式化	10,230,000	7,600,000
18	愛知県	新城市作手	プール	上屋鉄骨塗装、上屋シート取替、管理棟外壁塗装、缶体およびプールサイド塗装 他	83,000,000	22,000,000
19	三重県	亀山市関	プール	温水ヒーター更新、ろ過機更新、受水槽給水配管更新	22,000,000	15,400,000
20	三重県	伊賀市阿山	プール	上屋鉄骨塗装、缶体塗装、プールサイド改修、更衣室改修、トイレ洋式化、プール照明LED化（水銀灯） 他	90,000,000	30,000,000
21	三重県	菰野町	プール	上屋鉄骨塗装、ろ過機改修、ボイラー取替	10,342,000	7,200,000
22	滋賀県	多賀町	体育館	屋根改修、アリーナ等照明LED化（水銀灯）	26,480,000	21,100,000
23	滋賀県	甲賀市甲南	体育館	内装改修、照明LED化（蛍光灯）、トイレ洋式化、屋根改修 他	48,000,000	30,000,000
24	滋賀県	長浜市浅井	プール	上屋鉄骨塗装、プール等照明LED化（水銀灯） 他	16,290,000	12,800,000
25	兵庫県	南あわじ市南淡	グラウンド	グラウンド照明LED化（水銀灯）	27,580,000	10,000,000
26	鳥取県	伯耆町岸本	プール	ろ過機改修、ボイラー改修、幼児用プール缶体塗装、給排水管改修、手洗い場改修	30,080,000	22,100,000

	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事 請負金額	助成金額
27	島根県	浜田市三隅	体育館	アリーナ照明LED化（水銀灯）	8,450,000	6,500,000
28	岡山県	美作市作東	プール	プール照明LED化（水銀灯）、腰洗い 槽埋戻し	4,885,000	3,900,000
29	広島県	北広島町芸北	プール	上屋鉄骨塗装、缶体塗装、上屋シート 取替、プールサイド改修、プール照明 LED化（蛍光灯） 他	46,130,000	30,000,000
30	広島県	尾道市向島	体育館	天井改修、アリーナ等照明LED化（水 銀灯）、内壁改修	21,800,000	14,800,000
31	愛媛県	松山市中島	プール	上屋シート取替、上屋鉄骨塗装	24,523,000	14,800,000
32	高知県	四万十町窪川	体育館	空調設備設置、トイレ洋式化	21,300,000	14,900,000
33	熊本県	津奈木町	プール	外壁改修、プール缶体塗装、上屋一部 新設、シャワー温水化	20,200,000	14,200,000
34	大分県	日田市天瀬	体育館	屋根・外壁等改修、アリーナ等照明 LED化（水銀灯）、トイレ洋式化、多 目的トイレ新設	109,200,000	30,000,000
35	大分県	国東市国見	体育館	アリーナ床・壁改修、外壁改修、照明 LED化（水銀灯）、屋根改修、トイレ 改修、多目的トイレ設置 他	107,084,909	30,000,000

特別施設整備

	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事 請負金額	助成金額
36	北海道	砂川市	体育館	ボイラー更新	27,200,000	24,400,000
37	北海道	苫前町	プール	上屋鉄骨改修、上屋シート取替	50,600,000	30,000,000
38	宮城県	大郷町	体育館	屋根改修、アリーナ等照明LED化（蛍 光灯）	金額未確定	25,100,000（予定）
39	埼玉県	白岡市	プール	プール等照明LED化（水銀灯）、ろ過 機・ボイラー更新 他	金額未確定	30,000,000（予定）
40	岡山県	井原市井原	プール	上屋シート取替、外壁塗装、暖房設備 改修 他	33,530,000	28,600,000
41	広島県	府中市	プール	プールの建替え・移設	金額未確定	50,000,000（予定）
42	広島県	東広島市安芸津	プール	ボイラー改修、空調設備改修、ろ過機 改修 他	金額未確定	30,000,000（予定）
43	福岡県	朝倉市甘木	プール	缶体塗装、スチールドア取替、ボイ ラー更新、ろ過装置フィルター取替、 排水管改修、女子更衣室空調更新 他	32,325,000	29,000,000

災害復旧修繕

	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事 請負金額	助成金額
1	徳島県	牟岐町	プール	プール床全面張替	金額未確定	10,000,000（予定）

2023年度 活動器材追加再配備申請一覧 (A・B区分)

(単位：円)

道府県	名称	器材種類	数量	配備金額	助成金額
1 北海道	美幌町センター	SUP	5	240,570	210,000
		送料	5	14,850	
		ライフジャケット	5	28,875	
		ライフジャケット	5	28,875	
		送料	1	880	
2 秋田県	にかほ市金浦センター	ライフジャケット	20	107,800	500,000
		ライフジャケット	6	42,504	
		カヌー	3	580,800	
		送料	1	26,400	
3 山形県	徳良湖クラブ	ヨット	1	1,013,881	500,000
		デッキカバー	1	75,848	
		ランチャー	1	52,800	
		送料	1	150,535	
		値引き	1	-3,064	
4 栃木県	さくら市喜連川センター	ライフジャケット	5	30,910	260,000
		ライフジャケット	5	30,910	
		ライフジャケット	5	30,910	
		ライフジャケット	5	28,875	
		ライフジャケット	5	28,875	
		ライフジャケット	5	25,080	
		SUP	3	198,000	
		送料	1	2,000	
5 富山県	富山市八尾センター	ライフジャケット	5	28,875	50,000
		ライフジャケット	10	50,160	
6 長野県	山形村センター	SUP	7	290,983	250,000
		ヘルメット	5	19,250	
		ヘルメット	5	17,050	
		ライフジャケット	5	28,875	
		ライフジャケット	5	30,910	
7 岐阜県	八百津町センター	水上バイク	1	2,580,370	500,000
8 三重県	菰野町センター	ライフジャケット	10	57,750	360,000
		ライフジャケット	10	57,750	
		ライフジャケット	10	50,160	
		SUP	8	304,128	
		SUPパドル	8	43,613	
		送料	1	11,440	
9 滋賀県	野洲市中主センター	カヌー	5	248,930	370,000
		パドル	5	30,112	
		送料	1	29,700	
		ライフジャケット	5	70,950	
		送料	1	1,870	
		船外機ドーリー	1	149,270	
		送料	1	3,025	
10 兵庫県	豊岡市竹野センター	SUP	5	190,080	130,000
		送料	5	7,150	
11 兵庫県	南あわじ市南淡センター	SUP	1	209,000	200,000
		SUPパドル	7	57,750	
		電動ポンプ	1	30,250	
		送料	1	0	
12 兵庫県	新温泉町浜坂センター	SUP	3	244,200	250,000
13 岡山県	和気町佐伯センター	シーカヤック	1	124,300	260,000
		SUP	3	114,048	
		SUP	2	96,228	
		SUP	5	8,250	
		ライフジャケット	5	81,675	
		ライフジャケット	5	81,675	
送料	1	2,310			
14 香川県	高松市国分寺センター	ライフジャケット	25	144,375	100,000
15 愛媛県	松山市中島センター	SUP	2	171,600	120,000
		送料	1	4,840	

	道府県	名称	器材種類	数量	配備金額	助成金額	
16	愛媛県	今治市朝倉センター	SUP	2	171,600	190,000	
			ライフジャケット	2	32,670		
			ライフジャケット	5	70,950		
			送料	1	2,420		
17		今治市吉海センター	水上バイク	1	2,267,900	500,000	
			送料	1	31,900		
18		松山クラブ	救助艇	1	319,000	250,000	
			送料	1	3,300		
19		新居浜クラブ	ライフジャケット	5	32,450	40,000	
			ロゴ印刷代	5	22,000		
			送料	1	2,090		
20		福岡県	みやま市高田センター	SUP	3	501,600	500,000
				BIG SUP	1	261,800	
				SUPパドル	7	117,040	
21			久留米市三瀬センター	ライフジャケット	5	30,910	120,000
				ライフジャケット	10	61,820	
				ライフジャケット	15	86,625	
22		長崎県	時津クラブ	ボートトレーラー	1	282,700	350,000
				ボートトレーラー付属品	1	28,890	
	ボートトレーラー付属品			1	44,000		
	ボートトレーラー付属品			1	90,000		
23	佐賀県	神崎市センター	ライフジャケット	10	163,350	450,000	
			ライフジャケット	10	163,350		
			ライフジャケット	23	326,370		
24		太良町センター	船外機	1	207,900	360,000	
			ライフジャケット	10	163,350		
			ライフジャケット	10	141,900		
	送料		1	2,750			
25	鹿児島県	天城町センター	カヌー	1	140,800	500,000	
			送料	1	33,000		
			カヌー	1	184,800		
			送料	1	33,000		
			スイムボード	50	82,500		
			スイムボード	10	18,150		
			プール用滑り台	1	165,000		
			送料	1	60,500		
26		与論町センター	水上マット	1	214,500	150,000	
			送料	1	5,500		
					助成金合計	7,470,000	

2023年度 活動器材追加再配備申請一覧 (C区分)

(単位：円)

	道府県	名称	器材種類	数量	配備金額	助成金額
1	宮城県	石巻ひたかみ水の里クラブ	カヤック	2	479,160	500,000
			パドル	13	111,540	
2	栃木県	下野市国分寺クラブ	ライフジャケット	10	61,820	1,454,860
			ライフジャケット	10	61,820	
			ライフジャケット	10	61,820	
			ライフジャケット	30	173,250	
			ライフジャケット	70	404,250	
			カヤック	3	379,500	
			送料	3	42,900	
			パドル	4	32,120	
			送料	4	19,800	
			ローボード	2	147,400	
			パドル	6	48,180	
3	神奈川県	海の森山の森クラブ	送料	1	22,000	1,188,330
			ライフジャケット	3	49,005	
			ライフジャケット	45	735,075	
			ライフジャケット	70	404,250	

道府県	名称	器材種類	数量	配備金額	助成金額	
4	長野県	生坂クラブ	SUP	10	481,140	1,437,762
			送料	10	14,300	
			SUP	5	274,890	
			送料	5	24,750	
			カヤック	3	312,682	
			送料	3	14,850	
			カヤック	5	290,400	
			送料	5	24,750	
5	静岡県	海クラブ伊豆クラブ	サーフボード	1	83,600	952,540
			サーフボード	1	83,600	
			サーフボード	1	85,800	
			サーフボード	1	88,000	
			サーフボード	1	92,400	
			サーフボード	1	99,000	
			ウエットスーツ	4	160,000	
			ウエットスーツ	3	120,000	
			ウエットスーツ	2	80,000	
			ウエットスーツ	1	40,000	
			ラッシュガード	25	100,000	
			値引き	1	-79,860	
6	鹿児島県	あくね夢まちクラブ	シーカヤック	3	749,232	999,735
			シーカヤック付属品	3	139,392	
			シーカヤック付属品	3	44,550	
			シーカヤック付属品	3	14,256	
			パドル	3	35,640	
			パドルフロート	3	13,365	
			送料	1	3,300	
				助成金合計	6,533,227	

2023年度 活動器材追加再配備申請一覧 (D区分)

(単位：円)

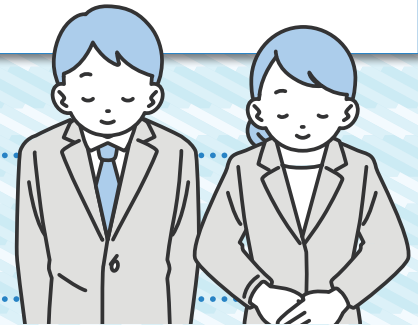
道府県	名称	器材種類	数量	配備金額	助成金額	
1	和歌山県	和歌浦クラブ	OP艇	2	726,000	2,907,600
			OP艇関連備品	2	44,000	
			OP艇関連備品	6	547,800	
			OP艇関連備品	6	501,600	
			OP艇関連備品	2	26,400	
			OP艇関連備品	6	250,800	
			OP艇関連備品	6	79,200	
			OP艇関連備品	6	165,000	
			OP艇関連備品	2	152,020	
			OP艇関連備品	3	115,500	
			OP艇関連備品	2	4,000	
			OP艇関連備品	18	18,000	
			OP艇関連備品	12	12,000	
			OP艇関連備品	2	7,000	
			ライフジャケット	5	30,910	
			ライフジャケット	5	30,910	
			ライフジャケット	5	30,910	
			ライフジャケット	5	81,675	
ライフジャケット	5	81,675				
送料	1	2,200				
2	香川県	高松クラブ	ゴムボート一式	1	3,378,900	3,000,000
3	福岡県	津屋崎クラブ	ハンザヨット	2	2,027,762	3,000,000
			デッキカバー	2	151,696	
			ランチャー	2	116,160	
			キャスター	2	15,180	
			SUP	4	550,000	
			SUP付属品	4	48,400	
			SUP付属品	4	22,000	
			SUP付属品	4	13,200	
			送料	1	146,740	
値引き	1	-7,538				
				助成金合計	8,907,600	



B&G フレンドシップ PROJECT 2024

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、「穴水町」「志賀町」「七尾市」に大きな被害が発生しました。B&G財団では、**災害等支援準備金**を通じ、被災した3自治体への支援を実施。今後も、現地ニーズや復興フェーズを考え、様々な支援を続けてまいります。

引き続きのご支援をお願いいたします。



■募金はこちらにご入金ください

銀行名	みずほ銀行
支店名	新橋支店 (シンバシ)
預金種別	普通預金
口座番号	2658125
口座名 (漢字)	公益財団法人 B&G財団
口座名 (カナ)	ザイ) ビーアンドジーザイダン





<https://www.bgf.or.jp/>

2023年度
B&G財団 活動実績報告書

発行日：2024年7月

編集・製作：公益財団法人B&G財団

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル9F